

感染症発生動向調查事業報告書

平成15年(2003年)

₹東京都健康局



東京都における感染症発生動向調査事業は、昭和 62 年 1 月にコンピューター・オンラインシステムを導入して以来、17 年が経過いたしました。この間、東京都医師会、地区医師会の先生方及び関係各位の御協力により円滑に事業を実施することができました。ここに厚く御礼申し上げます。

この間、指定届出機関数は昭和 62 年に患者定点 175 か所、検査定点 15 か所、合計 190 か所であったものが、平成 15 年末には、患者定点 258 か所、病原体定点 35 か所、合計 293 か所に増加するなど、その充実・強化を図ってまいりました。また、週報・月報につきましては、グラフ、地図、コメントを掲載するなど、流行防止に役立つ情報の速やかな提供に努めてきたところでございます。また健康安全研究センターでは、平成 15 年アジアを中心に深刻な問題となった SARS (重症急性呼吸器症候群)、米国で流行しているウエストナイル熱、東南アジア諸国で大量の鶏が感染し死亡している鳥インフルエンザなどについて専用のホームページを設置し、これら健康危害に関する情報を積極的に提供しております。

平成 15 年 11 月 5 日、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律及び検疫法の一部を改正する法律」の施行に伴い、動物由来感染症が新たに加わり四類に分類されました。また従来四類に分類されていた感染症は五類に再編され、一類、二類、三類、四類、五類(全数届出)及び五類(定点報告)感染症として発生動向調査事業が行われることとなりました。

この事業につきましては、地方感染症情報センターである当センターで週報・月報を作成しておりますが、あくまでも定点医療機関、保健所、健康局との密接な連携体制の基に行っております。 今後もこの連携体制を一層強固にし、より有意義な事業となりますよう努力いたしてまいる所存です。

今回の報告書は、平成 15 年分について、東京都医師会感染症予防検討委員会に感染症発生情報の評価と、その予防策の検討を依頼し、結果をまとめたものです。「各疾病の動向」のうち、「一、二、三、四、五類(全数届出)」は前田秀雄委員に、「小児科・内科疾患(インフルエンザ)」と「基幹(病院)定点における疾患」は南谷幹夫委員長に、「眼科疾患」は福田敏雅委員に、「性感染症」は小島弘敬委員に執筆をお願いし、「病原体検索成績」については関根大正委員に執筆をお願いしました。

本報告書を感染症の予防や治療にご活用いただければ幸いです。

平成16年7月

目 次

第1章 東京都感染症発生動向調査事業報告	• 1
1 定点医療機関	• 4
第1表 東京都感染症発生動向調査事業定点数	• 4
2 対象疾病	• 4
3 運営方法	• 4
(1) 週報、月報 ···································	
(2) 解析及び解説発表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
4 本年の概況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 5
(1) 一類、二類、三類、四類、五類(全数把握対象) 感染症 ······	5
(2) 小児科・内科疾患	• 8
(3) 眼科疾患 ······	
(4) 基幹定点における週報告疾患	
(5) 基幹定点における月報告疾患	• 9
(6) 性感染症 ······	• 10
第2表-1 東京都感染症発生動向調査年別報告数(インフルエンザ・小児科)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 11
第2表-2 東京都感染症発生動向調査年別報告数(眼科)	• 12
第2表-3 東京都感染症発生動向調査年別報告数(基幹定点週報告分)	• 12
第2表-4 東京都感染症発生動向調査年別報告数(基幹定点月報告分)	• 13
第2表-5 東京都感染症発生動向調査年別報告数(性感染症)	• 13
5 各疾患の動向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(1) 一類、二類、三類、四類、五類(全数把握対象)感染症	• 14
ア 一類感染症	
イ 二類感染症	
ウ 三類感染症	
エ 四類感染症	
オ 五類感染症 (全数把握対象)	• 28
第3表-1 一、二、三、四、五類全数把握疾病患者報告数推移表	• 40
第3表-2 一、二、三、四、五類類全数把握疾病保健所別累計表	• 44
第3表-3 一、二、三、四、五類類全数把握疾病年齢階級別累計表	• 48
(2) 小児科・内科疾患	
ア RSウイルス感染症 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
イ インフルエンザ(インフルエンザ様疾患)	
ウ 咽頭結膜熱 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 54

工	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(溶連菌感染症) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	55
オ	感染性胃腸炎	56
カ	水痘	58
キ	手足口病	59
ク	伝染性紅斑 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	60
ケ	突発性発しん ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	61
コ	百日咳	62
サ	風しん ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	63
シ	ヘルパンギーナ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	64
ス	/// - / · · · · · · · · · · · · · · · ·	65
セ		66
ソ	MCLS (川崎病)	67
タ	不明発しん症	68
(3)	眼科疾患 ·····	69
ア	急性出血性結膜炎	69
イ	流行性角結膜炎	70
(4)	基幹定点における週報告疾病	71
ア	急性脳炎(日本脳炎を除く) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	71
イ	細菌性髄膜炎	72
ウ	無菌性髄膜炎	73
工	マイコプラズマ肺炎 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	74
オ		75
力	成人麻しん	76
(5)	基幹定点における月報告疾病 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	77
ア	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	77
イ		78
ウ	薬剤耐性緑膿菌感染症 ······	79
(6)	性感染症	80
ア		80
1	性器ヘルペスウイルス感染症 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	81
ウ	尖圭コンジローマ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	82
工	11 = 12/1/=	83
オ		84
力	梅毒様疾患	85
第 4	l表-1 週別患者発生数推移表 ······	86
第 4	l表-2 週別定点当たり患者発生数推移表 ······	88
第 5	5表-1 保健所別患者報告数累計表	90
第 5	5表一2 保健所別定点当たり患者報告数累計表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	92
第 5	5表-3 年齢階級別累計表	94
# C	中 1 一次医校圈则电学却先粉甲乱主	OG

第7表-1 月報告疾病患者報告数推移表	98
第7表-2 月報告疾病定点当たり推移表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	98
第7表-3 月報告疾病患者報告数推移表(男性)	99
第7表-4 月報告疾病患者報告数推移表(女性)	99
第8表 基幹定点報告疾病年齢階級別累計表	100
第9表-1 性感染症保健所別、二次医療圏別患者報告数	101
第9表-2 性感染症保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	102
第9表-3 性感染症年齢階級別累計表	103
第2章 東京都感染症発生動向調査事業における病原体検索成績 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	105
1 ウイルス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	107
(1) 臨床診断名別の検体搬入状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	107
(2) 臨床診断名別にみたウイルス分離状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(3) 臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(4) 臨床診断名別にみた抗体検査状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(5) 感染症疫学調査 ······	112
2 細 菌	113
(1) A群溶血性レンサ球菌 ·······	113
(2) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA)	113
(3) 二類感染症の病原体検索 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	114
(4) 四類感染症の病原体検索 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	114
(5) 五類全数把握感染症の病原体検索 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	114
① 劇症型レンサ球菌感染症 (TSLS) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	114
② 髄膜炎菌性髄膜炎	114
③ バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) ······	114
3 性感染症 ·····	115
(1) 梅毒・クラミジア・淋菌 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	115
(2) ヒトパピローマウイルス (HPV) の遺伝子検査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	116
(3) ヒト免疫不全ウイルス (H I V) の検査 ······	
(4) 肝炎ウイルス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(5) 赤痢アメーバ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(6) 膣トリコモナス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(7) 重複感染の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
4 多摩地区の感染症発生動向調査事業における病原体検査成績	
(1) 感染性胃腸炎検査成績	
(2) インフルエンザ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	121
第3章 資 料	125

1 東京都感染症発生動向調査定点名簿 · · · · · · · · · · · · · · · 127

2	東京都医師会感染症予防検討委員会委員名簿	135
3	感染症発生動向調査システムの概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	136
4	東京都感染症発生動向調査事業実施要綱 ·····	137
	別表1、2 感染症法に基づく感染症の分類について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	143
	1 一類、二類、三類、四類感染症	143
	2 全数把握対象の五類感染症 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	145
	3 定点把握対象の五類感染症 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	146
	別記様式一覧表	148
	別記様式1~11 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	149
	別添1 検査結果コード表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	163
	別添2 採取部位リスト ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	165

第 1 章

東京都感染症発生動向調査報告

東京都感染症発生動向調查事業報告

(2003年)

(2002年12月30日~2003年12月28日)

感染症法施行後5年を迎え、新たな新興再興感染症が発生し、感染症の分野は大きな転機を迎えております。交通の至便により未知の感染症に接する機会が一層多くなりました。注目の感染症は、バイオテロに関連した天然痘対策や炭疽病対策のほか、アメリカに侵入した西ナイル熱/脳炎は2003年には西海岸に波及し、わが国でも侵入に備えた即応体制が求められており、また、中国に発生したSARSは、2003年7月には32か国で患者8,437例、死亡812例に達しております。厚労省は関係機関と連絡を密にし、SARSを新感染症に指定しました。新型インフルエンザに関連する鳥インフルエンザは、東南アジア諸国で大量の鶏が感染・死亡しており、人への直接感染も知られました。2004年1月に突然山口県で鳥インフルエンザが発生、2月には大分県、京都府でも養鶏場で大量の鶏が死亡しましたが、幸にも人への感染はありませんでした。このような状勢のもと、2003年11月5日に改正感染症法が施行されて全数把握疾患の対象疾患、分類、疾患名の記載方法などが一部変更され、対象感染性疾患は、一類、二類、三類、四類、五類(全数届出)及び五類(定点報告)感染症として発生動向調査事業が行われています。

感染症予防検討委員会では、発生報告資料に基づく感染症全般が討議対象になるほか、感染症関連事項、予防接種、防疫対策、食中毒についても活発な意見交換が行われております。

2003 年は、一類感染症の 7 疾患とも報告はなく、二類感染症 6 疾患のうち腸管感染症は昨年並みで、急性灰白髄炎とジフテリアは報告がありません。三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症は前年比横這い状態であり、四類感染症 30 疾患のうち、報告数の多い疾患はマラリア、レジオネラ症、デング熱で、A型肝炎、つつが虫病、オウム病、E型肝炎、Q熱が散見されます。五類(全数届出)14 疾患は、後天性免疫不全症候群とアメーバ赤痢は昨年並みに多く、ウイルス肝炎と梅毒がこれに次ぎ、ジアルジア症とクロイツフェルト・ヤコブ病が続き、クリプトスポリジウム症、劇症型溶連菌感染症のあとに髄膜炎菌性髄膜炎などが散見されます。五類(定点報告)小児科・内科感染症では、前年より増加した疾患は、インフルエンザ、A群溶連菌咽頭炎、手足口病、咽頭結膜熱など、前年並に推移した疾患は、感染性胃腸炎、水痘、ヘルパンギーナ、突発性発疹、伝染性紅斑などで、減少した疾患は流行性耳下腺炎でした。インフルエンザは中流行程度で、診断キットが普及し、診断確定者に対する抗ウイルス剤の使用は、一般医療水準となっております。眼科感染症、性感染症及び結核関連の諸問題も討議されています。

新しい感染症問題が生起し、感染症の重要性が再認識されている現在、重要課題が山積しております。東京都医師会感染症予防検討委員会の役割は益々その重要性を増しており、これまでも諸先生方のご指導とご協力により着実な成果を挙げてまいりましたが、今後とも本事業の益々の発展のために、一層のご尽力の程をお願い申し上げます。

平成16年7月

1 定点医療機関

患者定点となる医療機関数は、小児科定点 142、インフルエンザ定点 36、眼科定点 14、基幹定 点 25、性感染症定点 41 の計 258 医療機関であり、このうち 35 医療機関が検査定点を兼ねている。

第1表 東京都感染症発生動向調査事業定点数

(2004年3月31日現在)

Ī	定点 種	別(疫	 疾病数	患者定点数	病原体定点数	
小	児	斗 定	点	(16)	142	13
イン	フルコ	ンザ定	? 点	(1)	36	0
眼	科	定	点	(2)	14	2
基	幹	定	点	(9)	25	19
性	感 染	症 定	点	(6)	41	1
	合	言	-		258	35

2 対象疾病

厚生労働省の全国集計の対象疾病のほかに、都単独に不明発疹症とMCLS及び性感染症にトリコモナス、梅毒様疾患を加えている。

3 運営方法

(1)週報、月報

小児科定点、インフルエンザ定点、眼科定点及び基幹定点からの報告は週報で、性感染症定点からの報告は月報としてまとめられる。ただし、基幹定点から報告される一部の疾病については月報としてまとめられる。

週報では、定点が、毎週月曜日から日曜日までの対象疾病患者数を年齢別に所定の調査票に記入し、保健所にFAXまたは郵便で送付する。保健所では、これをコンピュータに入力する。

情報の還元は、基幹地方感染症情報センター(東京都健康安全研究センター疫学情報室)及び保健所がコンピュータにより出力し、必要とするところに送付する。

月報では、定点が、当該月分の情報を週報と同様に、保健所てにFAXまたは郵便で送付し、保健所がコンピュータ入力し、週報と同様に還元される。

(2)解析及び解説発表

感染症予防検討委員会は、毎月1回、定例(第3木曜日)に開催され、前月分の情報について討議している。

情報は、南谷委員長に「感染症便り」としてまとめていただいている。

また、特定の感染症をとりあげ、「感染症トピックス」としてまとめ、東京都医師会ニュースに 掲載している。

都の感染症発生動向調査情報は、南谷委員長により、東京都小児科地方会に毎月発表されている。

4 本年の概況

2003 年 11 月 5 日、感染症予防法の改正に伴い感染症の類型の見直しが行われた。 新たな疾患の追加と、類型の再編成がなされ、本報告書も新たな類型に沿って作成を行った。

(1)一類、二類、三類、四類、五類(全数把握対象)感染症

V 477	يط مئد. ميون	2003年届出件数		
分類	疾 病 名	2002年12月30日~2003年12月28日		
	エボラ出血熱	-		
	クリミア・コンゴ出血熱	-		
一 類	重症急性呼吸器症候群 *1	_		
	痘そう *1	_		
枳	ペスト			
	マールブルグ病	-		
	ラッサ熱	-		
ŀ	コレラ	5		
_	細菌性赤痢	105		
一 類	腸チフス パラチフス	20		
類	急性灰白髄炎	7 –		
F	ジフテリア	_		
三類		182		
	E型肝炎 *1	1		
F	ウエストナイル熱	_		
ŀ	A型肝炎 *1	3		
ľ	エキノコックス症	-		
Ī	黄熱	-		
	オウム病	2		
	回帰熱	_		
L	Q熱	1		
	狂犬病	-		
L	高病原性鳥インフルエンザ *1	-		
ŀ	コクシジオイデス症	_		
-	サル痘 *1	_		
F	腎症候性出血熱			
四	炭疽 つつが虫病	3		
ŀ	デング熱	15		
類	- アンク ボ	-		
F	日本紅斑熱	_		
F	日本脳炎	_		
Ī	ハンタウイルス肺症候群	-		
ľ	Bウイルス病	-		
	ブルセラ症	-		
	発しんチフス	-		
	ボツリヌス症 *2	-		
	マラリア	33		
Ļ	野兎症 *1	-		
ļ	ライム病	_		
ŀ	リッサウイルス感染症 *1	- 10		
ŀ	レジオネラ症 レプトスピラ症 *1	18		
	アメーバ赤痢 *3	122		
ŀ	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く) *4	67		
ŀ	クイルス性所炎(A室・C室を除く) * 4 急性脳炎 *1	1		
五.	クリプトスポリジウム症 *3	6		
J/	クロイツフェルト・ヤコブ病 *3	13		
類	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 *3	6		
$\widehat{\wedge}$	後天性免疫不全症候群 *3	359		
全数	ジアルジア症 *3	29		
数 足	髄膜炎菌性髄膜炎 *3	4		
届出	先天性風しん症候群 *3			
田)	梅毒 *3	67		
	破傷風 *3	3		
Ī	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 *1	-		
Ī	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 *3	4		

^{*1:2003}年11月5日より新たに追加指定された。

^{*2:2003}年11月5日より新たに追加指定された。11月4日までは、「乳児ボツリヌス症」を含む。

^{*3:2003}年11月5日より「四類(全数届出)」から「五類(全数届出)」に分類が変更になった。

^{*4:2003}年11月4日までは、「急性ウイルス性肝炎」として四類感染症に分類されており、A型とE型を含む。

①一類感染症について

《エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、重症急性呼吸器症候群、痘そう、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱》の届出はなかった。

注1)「重症急性呼吸器症候群」「痘そう」は2003年11月5日より新たに追加指定された。

②二類感染症について

二類感染症は総計137件の届出があった。

コレラは 5 件届出があり、患者 4 人、疑似症患者 1 人であった。患者 4 人はいずれもエルトール型で古典型の発生はなかった。

細菌性赤痢は、105件届出があり、患者102名、疑似症患者3名であった。

患者の菌型では、ディセンテリ菌 2 件、フレキシネル菌 21 件、ボイド菌 3 件、ソンネ菌 76 件であった。推定感染地は、国外 82 件、国内 23 件であった。

腸チフスは、20件届出があり、患者18名、疑似症患者2名であった。

推定感染地は国外 16 件、国内 1 件、不明 2 件、その他(船舶内) 1 件であった。

パラチフスは、7件届出があった。推定感染地は7件すべて国外であった。

《急性灰白髄炎、ジフテリア》の届出はなかった。

③三類感染症について

三類感染症は計182件の届出があった。

腸管出血性大腸菌感染症は、182 件届出があり、菌型は、O157 が 143 件、O26 が 31 件、O103 が 2 件、O128 が 1 件、O63 が 1 件、O78 が 1 件、 O165 が 1 件、 O111 が 1 件、不明が 1 件であった。 毒素型では、VT1+VT2 産性株が 74 件、VT1 産性株が 37 件、VT2 産性株が 70 件、不明が 1 件であった。 症状別では、患者 109 人、無症状病原体保有者 73 人である。 溶血性尿毒症症候群と判明しているものは 1 件(1 歳男児)である。 推定感染地は国内 178 件、国外 1 件、不明 3 件であった。

④四類感染症について

四類感染症は総計76件の届出があった。

E型肝炎(2003年11月5日から12月28日分)は1件届出があった。推定感染地はインドである。

A型肝炎(2003年11月5日から12月28日分)は3件届出があった。推定感染地は国内2件、 国外1件である。

オウム病は2件届出があった。推定感染地は全て国内である。

Q熱は1件届出があった。推定感染地は国内である。

つつが虫病は3件届出があった。推定感染地は都外2件、国外(ネパール)1件である。

デング熱は 15 件の届出があり、そのうち 1 件はデング出血熱であった。いずれも国外での感染が推定されている。

マラリアは 33 件の届出があった。病原体別では熱帯熱マラリア 14 件、三日熱マラリア 15 件、卵形マラリア 4 件であった。四日熱マラリアの報告はなかった。いずれも国外での感染が推定されている。

レジオネラ症は 18 件の届出があった。温泉または入浴での感染が推定されているものが 10 件あった。

《ウエストナイル熱、エキノコックス症、黄熱、回帰熱、狂犬病、高病原性鳥インフルエンザ、コクシジオイデス症、サル痘、腎症候性出血熱、炭疽、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、Bウイルス病、ブルセラ症、発しんチフス、ボツリヌス症、野兎病、ライム病、リッサウイルス感染症、レプトスピラ症》の届出はなかった。

注 1)「E型肝炎」「A型肝炎」「高病原性鳥インフルエンザ」「サル痘」「ニパウイルス感染症」「野兎病」「リッサウイルス感染症」「レプトスピラ症」は 2003 年 11 月 5 日より新たに追加指定された。 注 2)「ボツリヌス症」は 2003 年 11 月 5 日より新たに追加指定された。(11 月 4 日までは「乳児ボツリヌス症」を含む。)

⑤五類感染症について

五類感染症(全数)は総計681件の届出があった。

アメーバ赤痢は 122 件の届出があった。推定感染地は国内 83 件、国外 26 人、不明 13 件であった。

急性ウイルス性肝炎(A型肝炎とE型肝炎は 2002 年 12 月 30 日から 2003 年 11 月 4 日までの届出)は 67 件届出があった。病原体別では、A型 30 件、B型 32 件、C型 2 件、E型 1 件、その他(サイトメガロウイルス)2 件が届出された。感染経路別では、B型は性行為感染が 26 件と多かった。

急性脳炎は1件届出があった。推定感染地は国内である。

クリプトスポリジウム症は 6 件の届出があった。推定感染地は国内 5 件、国外(ナイジェリア)1件である。

クロイツフェルト・ヤコブ病は 13 件届出があった。すべて孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病であった。推定感染経路については不明が 11 件、ヒト乾燥硬膜によるものが 1 件、手術等観血的処置によるものが 1 件届出された。

劇症型溶血性連鎖球菌感染症は6件届出があった。全て国内発生である。

後天性免疫不全症候群の届出は、患者 97 人、感染者 262 人、合計 359 人であった。推定感染経路は、性的接触によるものが患者で 84 %、感染者で 90 %を占め、特に感染者のうち男性同性間性的接触による感染が 66 %であった。また、患者で母子感染例が 1 件、静注薬物例が 1 例、感染者で静注薬物例が 2 例届出られた推定感染地が国内である割合は患者で 75 %、感染者で 83 %であった。

ジアルジア症は 29 件届出があった。推定感染地域は国外が 15 件、国内が 11 件、不明が 3 件である。

髄膜炎菌性髄膜炎は4件届出があった。推定感染地域は国内が2件、不明が2件である。

梅毒は 67 件届出があった。早期顕症梅毒 31 件 (うち I 期 12 件、II 期 19 件)、晩期顕症梅毒 8 件、無症候梅毒 27 件、先天梅毒 1 件 (母体は梅毒未治療、極低出生体重児 1300g で肝脾腫、腹水、血小板減少を伴う) であった。

破傷風は3件届出があった。推定感染地は全て国内で、診断方法は、全て臨床決定である。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は 4 件の届出があった。遺伝子型では、VanB 1 件、VanC 3 件である。

《先天性風しん症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症》の届出はなかった。

- 注 1)「急性脳炎」「バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症」は 2003 年 11 月 5 日より新たに追加指定された。
- 注 2)「アメーバ赤痢」「クリプトスポリジウム症」「クロイツフェルト・ヤコブ病」「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」「後天性免疫不全症候群」「ジアルジア症」「髄膜炎菌性髄膜炎」 「先天性風疹症候群」「梅毒」「破傷風」「バンコマイシン耐性腸球菌感染症」は 2003 年 11 月 5 日より四類感染症より五類感染症に変更となった。
- 注 3)「ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)」、は 2003 年 11 月 5 日より新たに追加指定された。(11 月 4 日までは「急性ウイルス性肝炎」として四類感染症に分類されており、A型・E型を含む。)

(2) 小児科・内科疾患

東京都における 2003 年の小児科・内科疾患の発生概況は、2002 年と比較して増加した疾患として、インフルエンザ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病があげられ、少数発生疾患では咽頭結膜熱、風しんがある。前年並に推移した疾患では、感染性胃腸炎、水痘、ヘルパンギーナ、突発性発疹であり、少数発生疾患として伝染性紅斑、麻しん、百日咳、MCLSと不明発疹症があり、減少した疾患は流行性耳下腺炎であった。11 月 5 日感染症法が改正、施行されてRSウイルス感染症が定点把握対象の五類感染症に指定された。

[前年比増加疾患]

インフルエンザは、27,007 件 (151.72 人/定点) 報告され、前年比 181.5%の増加であり、過去 10 年では第 4 位である。当年の前期流行波は前年の後期流行波の第 51 週 (1.86 人/定点) に始まり、当年第 5 週 (28.11 人/定点) をピークとする流行で、第 6 週以後連続的に減少し第 12 週 (1.10 人/定点) に終息した。後期流行波は第 52 週 (1.68 人/定点) に始まり、2004 年第 10 週 (1.58 人/定点) に終る流行であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、4,261 件(30.01 人/定点)報告され、前年比 113.0%の軽度増加であり、過去 10 年では昨年に続き第 1 位の報告件数であった。

手足口病は 6,872 件 (48.39 人/定点) 報告され、前年比 213.8%の倍増で、過去 10 年で第 2 位であった。

咽頭結膜熱は 1,353 件 (9.53 人/定点) 報告され、前年比 225.3%の倍増、過去 10 年で第 1 位であった。

風しんは 143 件(1.01 人/定点)報告され、前年比 201.4%の倍増、過去 10 年で第 8 位であった。 [前年比横這い疾患]

感染性胃腸炎は35,718件(251.54人/定点)報告され、前年比103.1%、過去10年で第1位であった。 水痘は6,439件(45.35人/定点)報告され、前年比91.0%の横這い、過去10年で第9位であった。 ヘルパンギーナは5,064件(35.66人/定点)報告され、前年比99.9%の横這い、第7位であった。 突発性発しんは3,777件(26.60人/定点)報告され、前年比104.0%、過去10年で第7位であり、年 次間変動は大きくなく、年間では夏期に増加するパターンが続いている。

伝染性紅斑は 1,471 件(10.36 人/定点)報告され、前年比 93.5%の横這い、過去 10 年で第7位であ

った。

麻しんは 376 件 (2.65 人/定点) 報告され、前年比 1 件減であり、過去 10 年で第 8 位であった。 百日咳は 34 件 (0.24 人/定点) 報告され、昨年より 2 件増加し、過去 10 年では第 8 位であり、最近 7 年間は年間報告数 100 件未満、この 3 年間は年 40 件未満である。

MCLSは66件(0.46人/定点)報告され、前年比109.5%の横這いで、過去10年で第5位あった。 不明発疹症は579件(4.08人/定点)報告され、前年比94.5%の横這い、過去10年で第7位であった。

[前年比減少疾患]

流行性耳下腺炎は 1,290 件 (9.08 人/定点) 報告され、前年比 35.1%の激減で過去 10 年で第 10 位である。

[新規登録疾患]

RSウイルス感染症は、感染症予防法改正・施行に伴い、11 月より調査対象疾患となり、68 件が報告された。

(3) 眼科疾患

急性出血性結膜炎の発生は 18 例で、前年比 150%と増加したものの低い発生を維持していた。流行性角結膜炎の発生は 880 例で、前年比 95 %と 3 年連続減少し、過去 10 年間の平均を割り込み、過去 10 年で 4 番目に低い値を示した。

流行性角結膜炎において第 21 週にある区部の定点施設にて院内感染による急増が見られたが一週間で沈静化し、これを除けばいずれの疾患も東京都における発生状況は全国と大きな乖離をみなかった。

(4) 基幹定点における週報告疾患

急性脳炎(日本脳炎を除く)は3件(0.12人/定点)報告され、前年比で1/3に減少し、 $1\sim2$ 月に3件発生しているが、季節的、地域的、年齢的な特徴は認められない。

細菌性髄膜炎は 18 件(0.72 人/定点)報告され、前年比 75%に減少。1 歳未満 5 件、1 ~ 9 歳 9 件であるが、報告数少く、発生時期も各週に散在して特異的傾向が認められない。

無菌性髄膜炎は 66 件(2.64 人/定点)報告され、前年と同数であり、発生は 6 月中旬~ 9 月に 49 件報告されており、エンテロウイルス由来が推定される。

マイコプラズマ肺炎は 173 件(6.92 人/定点)報告され、1999 年以来毎年増加しており、本年は最大の発生であるが、前年比では 106%で、横這いであった。7 月~ 11 月に 100 件(58%)が報告された。

クラミジア肺炎は、前年より1件多く、3件(0.12/定点)報告された。

成人麻疹は 144 件(5.76 人/定点)報告され、前年比 124%の増加であった。患者発生は 2 月から 7 月に多く、小児麻疹と成人麻疹の流行時期と重なる部分もあるが、地域的関連は特に認められない。

(5) 基幹定点における月報告疾患

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (MRSA)は 1,757 件 (70.28 人/定点)報告され、前年比 2 件減で横這い状態。男子 1,199 件、女子 558 件、男:女= 2:1 で、男子に多い。患者発生に季節差なく、男女とも乳幼児と高齢者に多い傾向がある。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (PRSP) は 617 件 (24.68 人/定点) 報告され、前年比 110.8%の微増で、男子 366 件、女子 251 件と男子が 1.5 倍である。 $5\sim7$ 月に多い傾向があるが、明らかでない。

薬剤耐性緑膿菌感染症は 61 件(2.44 人/定点)報告され、前年比 57.0%と半減し、男子 53 例、女子 8 例と男子が 6.5 倍である。月別報告では春~夏にやや多い傾向をみるが明らかでなく、乳幼児と高齢者に多い傾向があるようであるが、例数も少なく明確ではない。

(6)性感染症

STI諸疾患は、HIV/エイズ、女子の淋菌、クラミジアにみるように感染者が症状を自覚できず、受診機会を欠いて長期間感染源となる場合が多く、「実存する感染者数」と診断、「報告される症例数」との間の乖離が大きい。ヘルペスは初感染病変は治癒してもウイルスは陰性化せず、神経細胞に潜伏してときに同部位に再発性の病変を生じる。「初感染」と「再発」との区別は臨床的に容易ではなく報告の基準も曖昧である。医学の現状からSTIについては報告数と実体との乖離はまぬがれず、報告数の経時的推移の把握が次善の目標とならざるをえない。

1999 年の新感染症に伴う「梅毒とHIV/エイズ以外のSTIの全数届出制の廃止、定点サーベイランスへの移行」と「STI定点数の増加」とにより、日本のSTI把握症例数の経時的な連続性にひとつの断層が生じた。STI定点は泌尿器科、婦人科、皮膚科からなり、各科の比率により報告症例に大差を生じる。日本で唯一、都サーベイランスは新感染症法以後もSTI定点数を変更せず、経年変化図に示されるように報告数の連続性が維持された。これによって 2000 年代本年まで、「15 ~ 19 才年代層のSTI 増加傾向」、また「全ての経口抗菌薬の常用量投与による陰性化が困難の淋菌性株」の出現が生じているにもかかわらず、都のSTIには顕著な増加が起こっていない事実を知ることができる。

日本のHIV/エイズの報告症例数は依然増加傾向である。都の報告数は 2001 年の 376 がピークであるが減少傾向は定着していない。HIV/エイズと最も合併率が高いSTIは梅毒である。両者はともに全数報告とされているが、本年の都の報告数はHIV/エイズの 359 に対して梅毒は67 (定点サーベイランス報告数は 68 ! 両者がほぼ同数であることも実に不合理である。)にとどまり、このことからも梅毒の報告数が過少であることは明白である。梅毒報告数は、経年変化図にみられるように新感染症法となった 1999 年以降、他のSTIとは一致せずに激減している。これが実体の直接の反映であるならばよいがそうではない。「カルジオリピン 16 倍以上」という必ずしも適切でない梅毒診断基準が新感染症法に付帯されこれが集計業務に遵守された結果、例えば都の梅毒報告数は、定点から実際に報告される症例の約 25 %が割愛されてしまうことになり、これにより梅毒については折角の報告数の連続性は失われた。従前より、梅毒血清反応の解釈は本来簡単ではなく誤謬も少なくなかったが、前述のとおりSTI症例の絶対数の把握は現在の医療水準では不可能であり、サーベイランスの効用が推移の把握にあることから、梅毒についての連続性の喪失は残念である。

第2表-1 東京都感染症発生動向調査年別報告数(インフルエンザ・小児科)

上段:年間報告数 下段:定点当たり

年	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
内科·小児科定点数	138	138	142	142	142	142	142	142	142	142
インフルエンザ定点数 *1						178	178	178	178	178
インフルエンザ	8,778	31,727	18,014	14,888	24,420	29,346	18,101	6,114	14,877	27,007
	63.61	229.91	126.89	104.85	171.97	206.66	101.69	34.35	83.58	151.72
RSウイルス感染症 *2										68 0.48
咽頭結膜熱 *3	739	342	237	315	536	318	489	645	600	1,353
	4.86	2.25	1.52	2.22	3.77	2.24	3.44	4.54	4.23	9.53
A群溶血性レンサ球菌	3,177	1,958	2,409	2,800	2,700	2,505	3,259	2,936	3,772	4,261
咽頭炎	23.02	14.19	16.96	19.72	19.01	17.64	22.95	20.68	26.56	30.01
感染性胃腸炎	29,637	32,597	28,069	28,144	23,600	34,137	33,084	31,639	34,659	35,718
	214.76	236.21	197.67	198.20	166.20	240.40	232.99	222.81	244.08	251.54
水 痘	6,970	6,957	7,912	7,187	5,946	6,508	6,973	6,877	7,079	6,439
	50.51	50.41	55.72	50.61	41.87	45.83	49.11	48.43	49.85	45.35
手足口病	1,365	8,009	2,121	3,626	5,662	844	6,464	2,133	3,213	6,872
	9.89	58.04	14.94	25.54	39.87	5.94	45.52	15.02	22.63	48.39
伝染性紅斑	906	1,318	2,814	1,689	1,693	1,146	1,740	2,510	1,574	1,471
	6.57	9.55	19.82	11.89	11.92	8.07	12.25	17.68	11.08	10.36
突発性発しん	4,519	4,105	4,041	3,840	3,839	3,851	3,663	3,507	3,632	3,777
	32.75	29.75	28.46	27.04	27.04	27.12	25.80	24.70	25.58	26.60
百日咳	101 0.73	85 0.62	143 1.01	72 0.51	$64 \\ 0.45$	57 0.40	56 0.39	23 0.16	32 0.23	34 0.24
風しん	507	1,869	1,289	2,236	726	286	226	114	71	143
	3.67	13.54	9.08	15.75	5.11	2.01	1.59	0.80	0.50	1.01
ヘルパンギーナ	5,200	4,507	7,160	4,091	4,309	5,465	6,577	6,314	5,067	5,064
	37.68	32.66	50.42	28.81	30.35	38.49	46.32	44.46	35.68	35.66
麻しん	663	197	574	322	454	409	589	628	377	376
	4.80	1.43	4.04	2.27	3.20	2.88	4.15	4.42	2.65	2.65
流行性耳下腺炎	3,749	2,199	5,662	6,096	3,714	2,763	4,804	6,284	3,678	1,290
	27.17	15.93	39.87	42.93	26.15	19.46	33.83	44.25	25.90	9.08
MCLS	71	46	69	39	65	76	66	75	60	66
	0.51	0.33	0.89	0.27	0.46	0.54	0.46	0.53	0.42	0.46
不明発疹症	631	534	509	535	710	632	645	585	613	579
	4.57	3.87	3.58	3.77	5.00	4.45	4.54	4.12	4.32	4.08

^{*1 1999}年3月までのインフルエンザの定点当たり数は、年間報告数を小児科・内科定点数で割ったもの。

^{*2 2003}年45週より実施。

^{*3 1999}年3月までの咽頭結膜熱の定点当たり数は、年間報告数を小児科・内科定点と眼科定点の合計数で割ったもの。

第2表-2 東京都感染症発生動向調査年別報告数(眼科)

上段:年間報告数 下段:定点当たり

年	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
定点数	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
流行性角結膜炎	980	1,034	817	1,047	816	776	1,240	1,008	925	880
	70.00	73.86	59.07	74.79	58.29	55.43	88.57	72.00	66.07	62.86
急性出血性結膜炎	21	20	17	15	9	22	11	16	12	18
	1.50	1.43	1.21	1.07	0.64	1.57	0.79	1.14	0.86	1.29

第2表-3 東京都感染症発生動向調査年別報告数 (基幹定点週報告分)

上段:年間報告数 下段:定点当たり

年	1999	2000	2001	2002	2003
定点数	25	25	25	25	25
急性脳炎*	7	12	5	10	3
	0.28	0.48	0.20	0.40	0.12
細菌性髄膜炎	12	14	12	24	18
	0.48	0.56	0.48	0.96	0.72
無菌性髄膜炎	33	83	36	66	66
	1.32	3.32	1.44	2.64	2.64
マイコプラズマ肺炎	19	22	45	163	173
	0.76	0.88	1.80	6.52	6.92
クラミジア肺炎	4 0.16	1 0.04	0.00	2 0.08	3 0.12
成人麻しん	8	120	181	116	144
	0.32	4.80	7.24	4.64	5.76

1999年14週より実施

^{* 2003}年44週まで実施。45週以降は五類(全数届出)に分類変更される。

第2表-4 東京都感染症発生動向調査年別報告数 (基幹定点月報告分)

上段:年間報告数 下段:定点当たり

年	1999	2000	2001	2002	2003
定点数	25	25	25	25	25
メチシリン耐性黄色	823	1,456	1,365	1,759	1,761
ブドウ球菌感染症	32.92	58.24	54.60	70.36	70.44
ペニシリン耐性	160	338	355	557	617
肺炎球菌感染症	6.40	13.52	14.20	22.28	24.68
薬剤耐性	118	85	69	107	61
緑膿菌感染症	4.72	3.40	2.76	4.28	2.44

1999年14週より実施

第2表-5 東京都感染症発生動向調査年別報告数(性感染症)

上段:年間報告数 下段:定点当たり

年	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
定点数	40	40•41 *1	41	41	41	41	41	41	41	41
性器クラミジア 感染症	1,291	1,262	1,597	1,803	2,054	2,692	2,688	2,789	2,536	2,422
	32.28	30.97	38.95	43.98	50.10	65.66	65.56	68.02	61.85	59.07
性器ヘルペス	1,078	1,014	1,227	1,138	1,039	1,020	1,054	1,019	950	865
ウイルス感染症	26.95	24.89	29.93	27.76	25.34	24.88	25.71	24.85	23.17	21.10
尖圭コンジローマ	470	375	473	396	428	518	578	549	502	518
	11.75	9.20	11.54	9.66	10.44	12.63	14.10	13.39	12.24	12.63
淋菌感染症	1,141	1,072	1,330	1,121	1,157	1,250	1,204	1,364	1,249	1,298
	28.53	26.31	32.44	27.34	28.22	30.49	29.37	33.27	30.46	31.66
トリコモナス症	398	424	339	275	274	323	295	367	447	343
	9.95	10.40	8.27	6.71	6.68	7.88	7.20	8.95	10.90	8.37
梅毒様疾患 *2	111	86	75	110	138	118	108	63	41	68
	2.78	2.11	1.83	2.68	3.37	2.88	2.63	1.54	1.00	1.66

*1 1~3月 40定点、4~12月 41定点

5 各疾患の動向

(1) 一類、二類、三類、四類、五類(全数把握対象) 感染症

ア 一類感染症

一類感染症(以下参照)の届出はなかった。

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、重症急性呼吸器症候群、痘そう、ペスト、マールブル グ病、ラッサ熱

注1)「重症急性呼吸器症候群」「痘そう」は2003年11月5日より新たに追加指定された。

イ 二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリアの届出はなかった。

① コレラ

コレラは、5件届出があり、患者4人、疑似症患者1人であった。

性別では、男性1人、女性4人で、年齢別では、10歳代1人、20歳代2人、30歳代2人である。 届出月別では、2月、3月、11月にそれぞれ1人ずつ、9月に2人である。推定感染地は、ベトナム2件、インド2件、タイ1件であった。すべて国外発生で国内発生は認めなかった。

報告週	届出日	性別	年齢	職業	菌型	症状	入院	旅行地
6	2/8	男	22	学生	O1 エルトール稲葉 (毒素不明)→疑似症	下痢・腹痛	有	タイ
13	3/24	女	26	会社員	O1 エルトール稲葉	下痢·発熱 ·嘔吐	無	ベトナム
38	9/18	女	19	学生	01エルト―ル小川	下痢	無	インド
38	9/17	女	33	会社員	O1 エルトール稲葉	下痢	無	ベトナム
49	11/29	女	23	学生	01エルト―ル小川	下痢・嘔吐	無	インド

② 細菌性赤痢

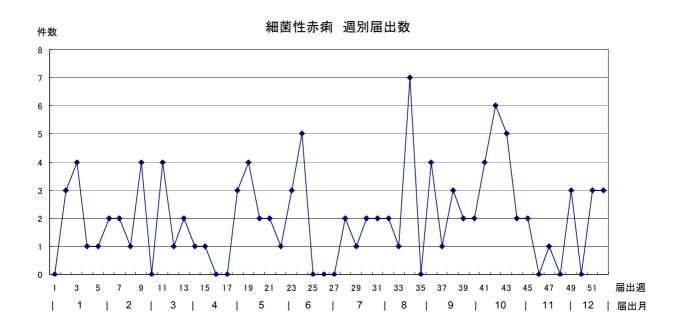
細菌性赤痢は、105件届出があり、患者102名、疑似症患者3名であった。

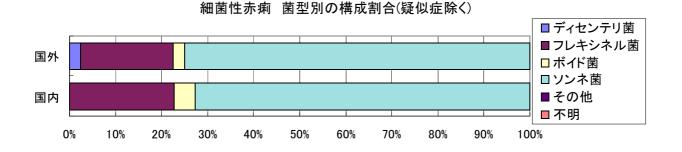
性別では、男性 47 人、女性 58 人である。年齢別では、10 歳未満が 12 人、10 歳代が 2 人、20 歳代が 39 人、30 歳代が 30 人、40 歳代が 3 人、50 歳代が 11 人、60 歳代が 4 人、70 歳代が 2 人、80 歳代が 2 人であった。

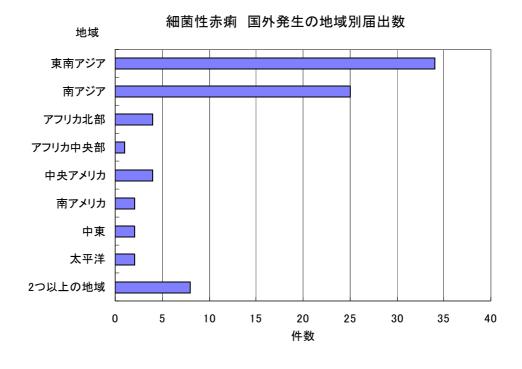
患者の菌型では、ディセンテリ菌 2 件、フレキシネル菌 21 件、ボイド菌 3 件、ソンネ菌 76 件であった。推定感染地は、国外 82 件、国内 23 件であった。

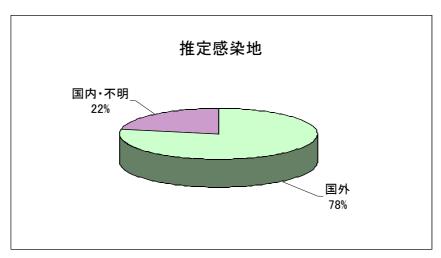
国内で感染が推定される 23 件の年齢は、10 歳未満 8 人、10 歳代 1 人、20 歳代 2 人、30 歳代 2 人、40 歳代 1 人、50 歳代 4 人、60 歳代 2 人、70 歳代 1 人、80 歳代 2 人であった。推定感染原因としては、経口感染が疑われるもの 1 件、2 次感染が疑われるもの 4 件、不明 18 件である。同一家庭内での発生が判明しているのは 2 家族だった。

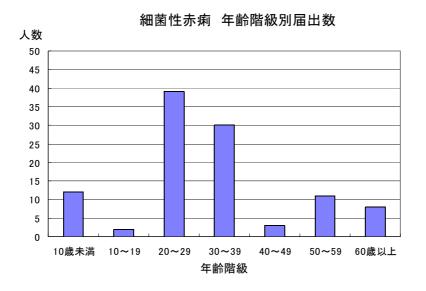
42 週から 43 週にかけて届出られた国内発生については、保育園での集団感染が疑われた。 国外発生の国別では、インド 22 件、インドネシア 20 件、ベトナム 5 件、エジプト 4 件、ミャンマー 4 件、フィリピン 3 件、キューバ 3 件、トルコ 2 件、ペルー 2 件、アジアの 2 カ国以上 8 件、その他 9 件が届出されている。











細菌性赤痢 国内発生

番号	報告週	届 出 日	性別	年齡	職業	菌型	症状	備考
1	2	1/9	女	69	無職	フレキシネル菌	有	
2	2	1/10	男	81	アルバイト	フレキシネル菌	有	
3	3	1/17	男	34	IT 関連技術者	ソンネ菌	有	
4	7	2/14	女	28	学生	ソンネ菌	有	
5	7	2/14	男	57	自営業	ボイド菌	有	
6	11	3/12	男	6	なし	フレキシネル菌	有	
7	15	4/10	男	2	なし	ソンネ菌	有	
8	18	5/1	女	21	保母	ソンネ菌	有	
9	19	5/7	男	57	会社員	ソンネ菌	有	
10	19	5/6	女	85	なし	ソンネ菌	有	孫との接触による家族内感染
11	20	5/14	女	53	パート	ソンネ菌	有	No.9 の妻、関係者調査により判明
12	20	5/15	女	42	清掃、電話交換	ソンネ菌	有	
13	34	8/21	女	19	アルバイト	ソンネ菌	有	
14	34	8/18	男	61	自営業	フレキシネル菌	有	
15	41	10/9	男	2	なし	ソンネ菌	有	
16	42	10/15	男	3	園児	ソンネ菌	有	A 区保育園関連(初発患者)
17	42	10/17	男	3	園児	ソンネ菌	有	A 区保育園関連
18	42	10/18	女	2	園児	ソンネ菌	有	A 区保育園関連
19	42	10/18	女	5	園児	疑似	無	A 区保育園関連(No.17 の姉)
20	42	10/18	女	2	園児	ソンネ菌	有	A 区保育園関連
21	43	10/22	男	38	運転手	ソンネ菌	有	A 区保育園関連 (No.20 の父)
22	43	10/22	女	58	保育園非常勤	ソンネ菌	無	A 区保育園関連 (保育園で患者便に接触)
23	52	12/24	男	77	無職	フレキシネル菌	有	

③ 腸チフス

腸チフスは、20件届出があり、患者18名、疑似症患者2名であった。

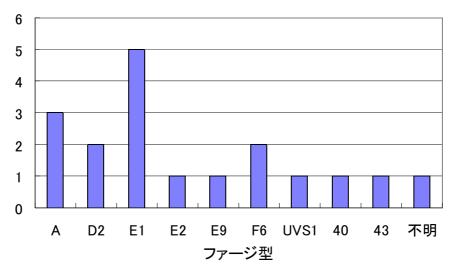
性別では男性 16 人、女性 4 人、年齢別では、20 歳代 10 人、30 歳代 7 人、40 歳代 1 人、50 歳代 1 人、60 歳代 1 人であった。

月別届出件数は、1月2件、2月1件、3月4件、4月2件、5月1件、6月3件、7月1件、8月1件、9月2件、11月2件、12月1件である。

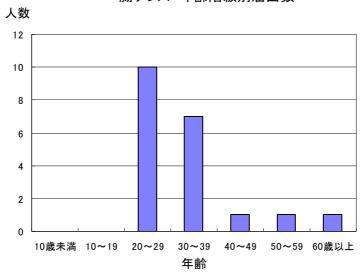
推定感染地は国外 16 件、国内 1 件、不明 2 件、その他(船舶内)1 件であった。国外発生の国別では、インド 6 件、ネパール 3 件、バングラディシュ 2 件、インドネシア 2 件、フィリピン 1 件、ペルー 1 件、2 カ国以上 1 件が届出されている。

腸チフス ファージ型別届出数(疑似を除く)

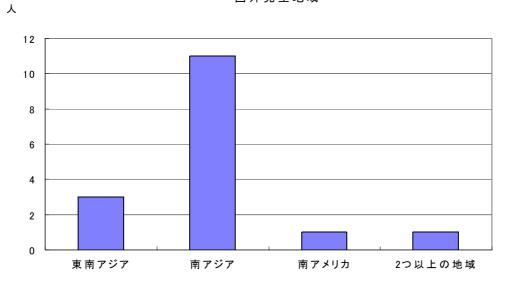
件数



腸チフス 年齢階級別届出数



国外発生地域



腸チフス国外発生以外

報告週	届出日	性別	年齡	職業	菌型	症状	入 院	備考
11	3/12	男	47	船員	E1	下痢・高熱・頭痛	有	遠洋漁業 船舶内での感染疑い
25	6/20	男	34	未確認	A	腹痛•嘔吐	有	フィリピン人 推定感染地不明
40	9/30	男	35	会社員	D2	発熱	無	渡航歴なし 推定感染地不明
50	12/11	女	50	臨床検 査技師	A	下痢・発熱	無	渡航歴なし 勤務先の病院のチフス保存株による感染疑い

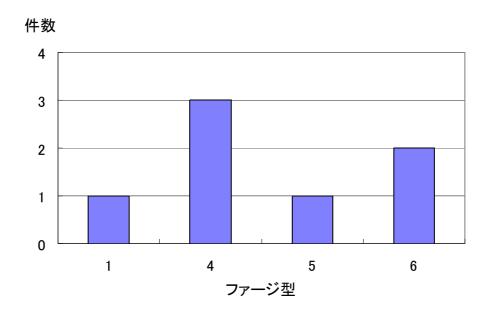
④ パラチフス

パラチフスは、7件届出があった。推定感染地は7件すべて国外であった。国外発生の国別では、インド2件、ネパール2件、バングラデッシュ1件、ベトナム1件、タイまたはインドが1件であった。

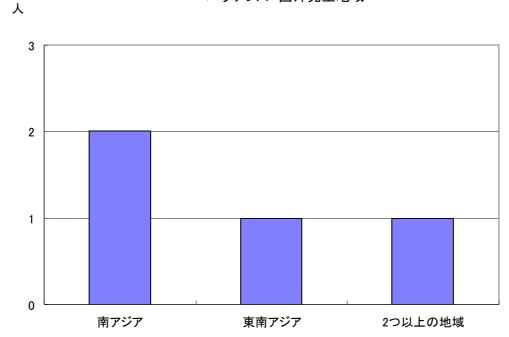
性別では男性 3 人、女性 4 人、年齢別では 20 歳代 3 人、30 歳代 3 人、60 歳代 1 人であった。届 出月別では 12 月(平成 14 年)、1 月、6 月、7 月、9 月、11 月、12 月にそれぞれ 1 人ずつである。

報告週	届出日	性別	年齢	職業	菌型	症状	入 院	旅行地
1	12/31	男	35	学生	6	発熱・下痢	有	インド
4	1/24	女	23	未確認	4	発熱・下痢	有	タイ・インド
23	6/6	女	33	無職	4	発熱	無	ネパール
29	7/18	女	68	主婦	6	発熱・悪寒	無	ネパール
38	9/18	男	24	学生	1	発熱・下痢	有	インド
47	11/17	女	37	看護師	4	発熱	有	バングラデッシュ
50	12/8	男	29	会社員	5	発熱・意識障害	有	ベトナム

パラチフス ファージ型別届出数







⑤ その他の二類感染症

以下の疾患は届出がなかった。 急性灰白髄炎、ジフテリア

ウ 三類感染症

腸管出血性大腸菌感染症

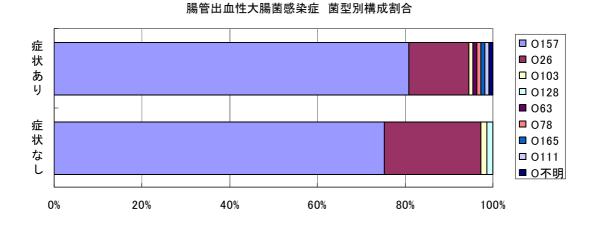
腸管出血性大腸菌感染症は、182件届出があった。

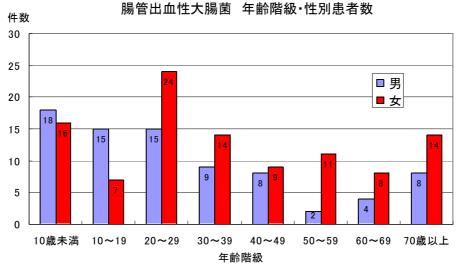
性別では男性 79 人、女性 103 人、年齢別では 10 歳未満 34 人、10 歳代 22 人、20 歳 39 人、30 歳代 23 人、40 歳代 17 人、50 歳代 13 人、60 歳代 12 人、70 歳以上 22 人であった。

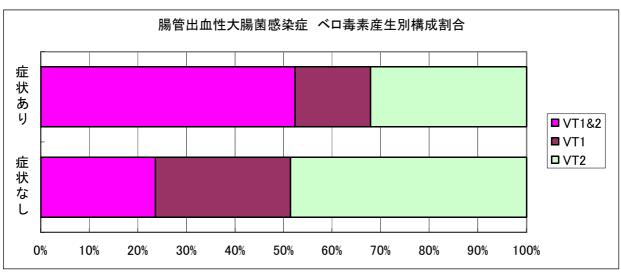
菌型は、O157 が 143 件、O26 が 31 件、O103 が 2 件、O128 が 1 件、O63 が 1 件、O78 が 1 件、O165 が 1 件、O111 が 1 件、不明が 1 件届出されている。毒素型では、VT1+VT2 産性株が 74 件、VT1 産性株が 37 件、VT2 産性株が 70 件、不明が 1 件であった。

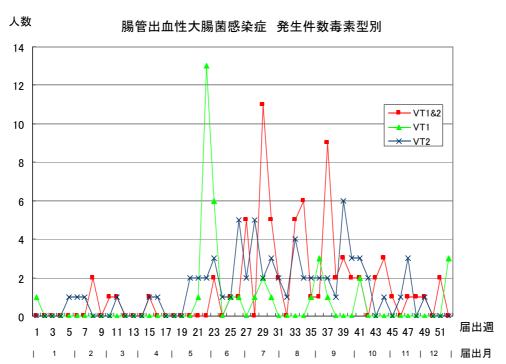
症状別では、患者 109 人、無症状病原体保有者 73 人である。溶血性尿毒症症候群と判明しているものは1件(1歳男児)である。推定感染地は国内 178 件、国外 1 件、不明 3 件であった。同一家庭内での発生は 19 件届出された。また、21 週から 23 週にかけて養護老人ホームでの O26 (VT1 産性株)の集団発生事例により届出件数が増加している。











工 四類感染症

① E型肝炎(2003年11月5日から12月28日分)

E型肝炎は1件届出があった。性別は男性で推定感染地はインドである。

届出日	週	性別	年齢	症状	推定感染源
12/25	52	男	24	黄疸、肝機能障害	インドでの生水摂取
12, 23					パラチフスも感染

② A型肝炎(2003年11月5日から12月28日分)

A型肝炎は3件届出があった。性別では男性1人、女性2人である。推定感染地は国内2件、国外1件である。年齢別では20歳代1人、30歳代2人である。

届出日	週	性別	年齢	症状	推定感染源
11/12	45	女	30	全身倦怠感	カキ
11/25	48	女	30	発熱、下痢、肝機能障害	国外での飲食物
12/22	51	男	20	下痢、黄疸、嘔吐	生カキ

③ オウム病

オウム病は2件届出があった。性別では男性1人、女性1人である。推定感染地は全て国内である。年齢別では30歳代、40歳代がそれぞれ1人ずつである。

届出日	週	性別	年齢	症状	推定感染源
8/19	34	女	36	肺炎、肝機能障害	平成15年7月よりインコ飼育 インコは死亡
9/10	37	男	42	高熱、呼吸困難(重症肺炎)	自宅でインコ飼育中

4 Q熱

Q熱は1件届出があった。7才男児で、推定感染地は国内である。

届出日	週	性別	年齢	症状	推定感染源
3/17	12	男	7	発熱、全身倦怠感、吐気	ウサギ、ネコ、イヌ、ウシ

⑤ つつが虫病

つつが虫病は 3 件届出があった。性別では男性 2 人、女 1 人であり、年齢別では 30 歳代、40 歳代、50 歳代がそれぞれ 1 人ずつである。

そのうち、1件は、ネパールでの感染が推定されている

届出日	週	性別	年齢	症状	推定感染地域
9/30	40	男	35	発熱、頭痛、倦怠感	ネパール
11/29	48	女	58	高熱 全身の発疹	北九州
12/1	49	男	67	発熱、発疹	つくば市

⑥ デング熱

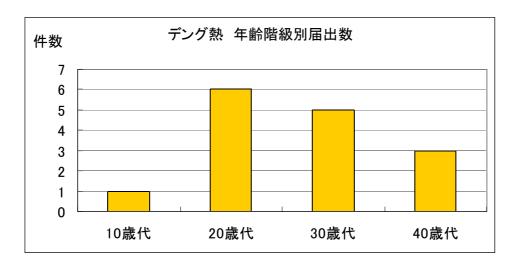
デング熱は15件の届出があり、そのうち1件はデング出血熱であった。

性別では男性 10 人、女性 5 人であり、年齢別では 10 歳代 1 人、20 歳代 6 人、30 歳代 5 人、40 歳代 3 人であった。

いずれも国外での感染が推定されており、国別ではインド3件、フィジー2件、ニューカレドニア2件、インドネシア2件、タイ2件、フィリピン2件、その他2件であった。

<デング出血熱>

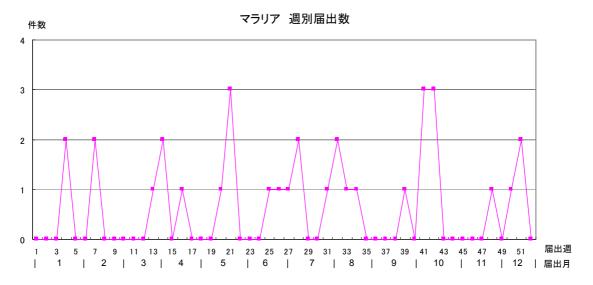
届出日	週	性別	年齢	症状	推定感染地域
5/29	22	男	34	発熱、頭痛、発疹、点状出血、 白血球減少、血小板減少症	フィジー

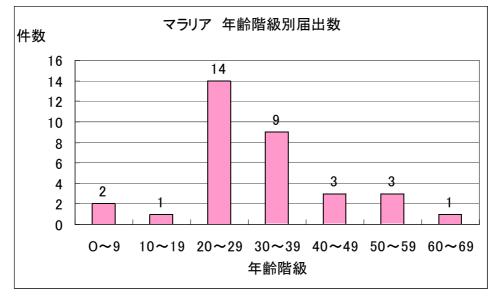


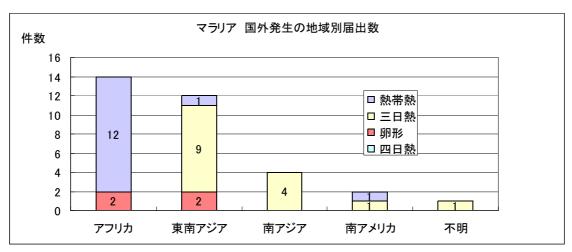
⑦ マラリア

マラリアは 33 件の届出があった。性別では男性 30 人、女性 3 人であり、年齢別では 10 歳未満 2 人、10 歳代 1 人、20 歳代 14 人、30 歳代 9 人、40 歳代 3 人、50 歳代 3 人、60 歳代 1 人であった。 病原体別では熱帯熱マラリア 14 件、三日熱マラリア 15 件、卵形マラリア 4 件であった。四日熱マラリアの報告はなかった。

推定感染地域はいずれも国外で、内訳はパプアニューギニア 6 件、インド 4 件、インドネシア 4 件、ナイジェリア 4 件、ガーナ 2 件、ブラジル 2 件、タイ 2 件、その他のアフリカの国々 8 件、不明 1 件である。





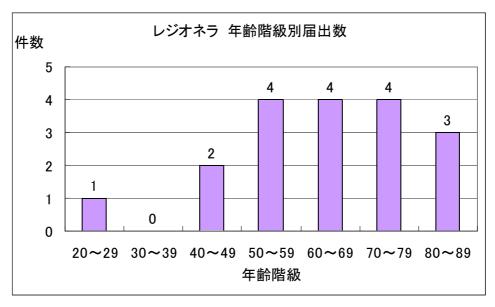


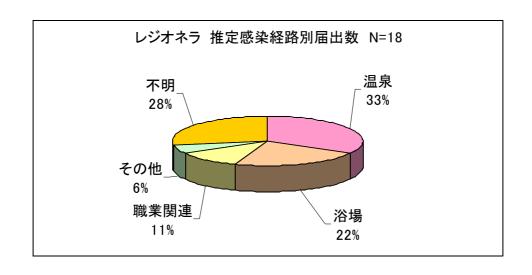
⑧ レジオネラ症

レジオネラ症は 18 件の届出があった。性別では男性 15 人、女性 3 人であり、年齢別では 20 歳代 1 人、40 歳代 2 人、50 歳代 4 人、60 歳代 4 人、70 歳代 4 人、80 歳以上 3 人である。

温泉または入浴での感染が推定されているものが10件あった。

届出日	週	性別	年齢	病原検査	血清群	症状	推定感染経路
1/15	3	女	73	尿中抗原陽性		重症肺炎、低酸素血症、肝機能障害	船内風呂
1/27	5	男	66	尿中抗原陽性		肺炎、発熱、咳嗽、呼吸不全	温泉
1/27	5	男	66	尿中抗原陽性		発熱、軽度意識障害、乾性咳	温泉
2/10	7	女	83	血清抗体価上昇		発熱(39度以上)、呼吸困難(軽症)	不明
2/21	8	女	88	尿中抗原陽性		乾性咳、発熱(37℃台)	温泉
3/3	10	男	76	血清抗体価上昇		呼吸困難	温泉
4/30	18	男	81	胸水抗原陽性		肺炎、胸膜炎	不明
8/6	32	男	49	喀痰培養	Lp SG1	発熱、呼吸困難、全身倦怠感	銭湯
8/15	33	男	77	喀痰培養	Lp SG1	肺炎	不明
8/19	34	男	52	尿中抗原陽性		発熱、咳漱、呼吸困難	公衆浴場
9/6	36	男	52	尿中抗原陽性		発熱	温泉
9/11	37	男	62	喀痰培養	Lp SG1	重症肺炎	空調(清掃業務)
9/12	37	男	72	尿中抗原陽性		発熱(38~39℃)、咳、肺炎	温泉
10/14	42	男	25	尿中抗原陽性		発熱、意識障害、水様性下痢	水系(水道工事)
10/17	42	男	41	喀痰培養	Lp SG1	発熱、肺炎	不明
10/31	44	男	59	喀痰培養	Lp SG4	発熱、頭痛、筋肉痛	不明
12/22	52	男	58	尿中抗原陽性		低酸素血症、意識消失、咳、痰	サウナ、社員寮
12/24	52	男	64	尿中抗原陽性		発熱、意識障害、低酸素血症	ゴルフ場浴場





⑨ その他の四類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

ウエストナイル熱、エキノコックス症、黄熱、回帰熱、狂犬病、高病原性鳥インフルエンザ、コクシジオイデス症、サル痘、腎症候性出血熱、炭疽、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、ブルセラ症、発しんチフス、ボツリヌス症、野兎病、ライム病、リッサウイルス感染症、レプトスピラ症

注 1)「E型肝炎」「A型肝炎」「高病原性鳥インフルエンザ」「サル痘」「ニパウイルス感染症」「野兎病」「リッサウイルス感染症」「レプトスピラ症」は 2003 年 11 月 5 日より新たに追加指定された。 注 2)「ボツリヌス症」は 2003 年 11 月 5 日より新たに追加指定された。(11 月 4 日までは「乳児ボツリヌス症」を含む。)

才 五類感染症 (全数把握対象)

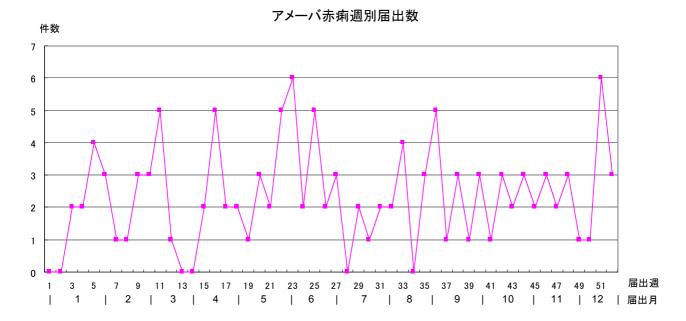
① アメーバ赤痢

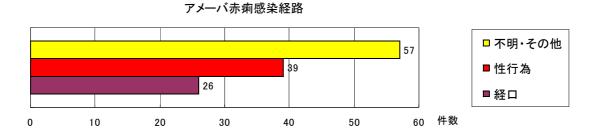
アメーバ赤痢は 122 件の届出があった。性別では男性 107 人、女性 15 人であり、年齢別では 10 歳未満 1 人、10 歳代 2 人、20 歳代 15 人、30 歳代 32 人、40 歳代 35 人、50 歳代 22 人、60 歳代 12 人、70 歳以上 3 人である。推定感染地は国内 83 件、国外 26 人、不明 13 件であった。

国内発生の推定感染経路別では、性行為感染 37 件、経口感染 7 件、不明 39 件である。

国外発生で感染地が推定されるものは、東南アジア 12 件、東アジア 4 件、アメリカ 2 件、太平洋 2 件、その他の地域 4 件、不明 2 件である。そのうち、推定感染経路別では、経口感染 18 件、性行為感染 2 件、不明 6 件であった。

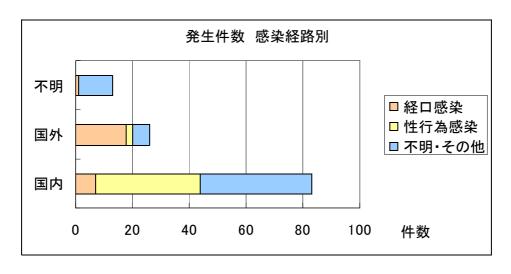
感染地不明の13件は、経口感染1件、不明12件である。





性行為感染経路別構成割合 N=49





② 急性ウイルス性肝炎 (A型肝炎とE型肝炎は2002年12月30日から2003年11月4日までの届出)

急性ウイルス性肝炎は67件届出があった。

性別では、男性 49 人、女性 18 人である。病原体別では、A型 30 件、B型 32 件、C型 2 件、E型 1 件、その他 2 件が届出された。

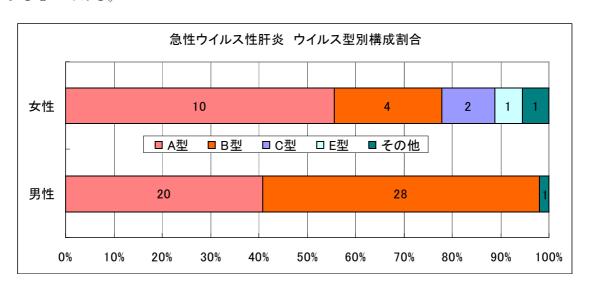
A型肝炎の推定感染地は、国内が17件、国外が10件、不明が3件であった。推定される感染経路は、経口感染25件、不明5件であった。

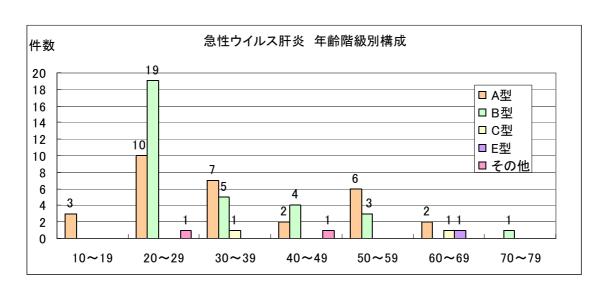
B型肝炎の推定感染地は、国内が 29 件、国外が 2 件、不明が 1 件であった。推定される感染経路は、異性間性的接触 17 件、同性間性的接触 8 件、両性間性的接触 1 件、その他 1 件、不明 5 件であった。

C型肝炎の推定感染地は、国内が2件、推定される感染経路は不明が2件であった。

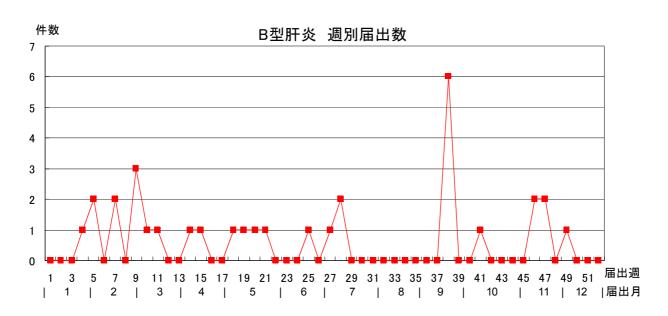
E型肝炎1件の推定感染地は国内で、推定される感染経路は不明であった。

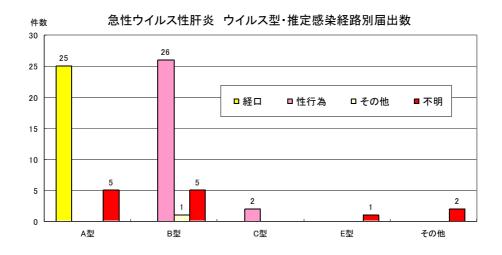
その他 2 件は、推定感染地は国内、推定される感染経路は不明で、いずれもサイトメガロウイルスによるものである。











③ 急性脳炎

急性脳炎は1件届出があった。2歳女児で、国内発生である。

届出日	週	性別	年齢	症状	推定感染源
12/22	51	女	2	痙攣重積、意識レベルの低下、 心肺停止、DIC、MOF	不明

④ クリプトスポリジウム症

クリプトスポリジウム症は 6 件の届出があった。全て男性で、年齢別では 20 歳代 2 人、30 歳代 3 人、70 歳代 1 人である。推定感染地は国内 5 件、国外(ナイジェリア) 1 件である。

届出日	週	性別	年齢	症状	推定感染経路
6/27	26	男	74	下痢	生水(ナイジェリア)
7/7	28	男	22	発熱、下痢	同性間性的接触
7/25	30	男	20	下痢	同性間性的接触
7/30	31	男	38	下痢	不明
10/17	42	男	36	水様性下痢、微熱	同性間性的接触
10/31	44	男	35	下痢	同性間性的接触

⑤ クロイツフェルト・ヤコブ病

クロイツフェルト・ヤコブ病は13件届出があった。

性別では男性が 8 名、女性が 5 名で、年齢別では 50 歳代 2 人、60 歳代 4 人、70 歳代 5 人、80 歳代 2 人であった。

すべて孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病で、ほぼ確実のものが 11 件、疑いが 2 件であった。 プリオンたん白遺伝子検査による診断がなされている届出は 1 件 (脳から Western Blot 法でアミロイド斑型を検出、プリオン蛋白遺伝子検査ではコドン 129 の多型 (M/M)) であった。それ以外は 臨床決定による届出であった。

推定感染地は国内が10件、不明が3件である。推定感染経路については不明が11件、ヒト乾燥 硬膜によるものが1件、手術等観血的処置によるものが1件届出された。

症状に関しては進行性痴呆 13 件、記憶障害 10 件、精神・知能障害 12 件、臨床的に頑固な不眠 3

件、視覚異常 4 件、錯感覚・異常感覚 1 件、錐体路症状 7 件、痙(けい)性対麻痺(まひ) 1 件、 錐体外路症状 8 件、筋強剛 8 件、小脳症状 6 件、ミオクローヌス 13 件、無動性無言状態 7 件、脳 波検査で周期性同期性放電(PSD) 10 件、その他 2 件であった。

届出日	週	性別	年齢	洧		推定感染地域	推定感染経路
1/24	4	男	77	孤発性	ほぼ確実	不明	不明
3/10	11	男	67	孤発性 ほぼ確認		国内	不明
4/17	16	男	74	孤発性	ほぼ確実	国内	不明
5/23	21	女	55	孤発性	ほぼ確実	国内	不明
5/30	22	女	59	孤発性	疑い	国内	不明
6/16	25	女	74	孤発性	ほぼ確実	国内	ヒト乾燥硬膜
6/30	27	男	62	孤発性	ほぼ確実	国内	不明
7/18	29	男	83	孤発性	ほぼ確実	国内	不明
8/1	31	男	81	孤発性	ほぼ確実	国内	手術等観血的処置
8/1	31	女	76	孤発性	ほぼ確実	不明	不明
8/12	33	女	72	孤発性	ほぼ確実	国内	不明
11/4	45	男	65	孤発性	確実	不明	不明
12/1	49	男	67	孤発性	ほぼ確実	国内	不明

届出日	週	年齢	発病年	進行性痴呆	記憶障害	精神•知能障害	臨床的に頑固な不眠	視覚異常	錯感覚・異常感覚	錐体路症状	痙性対麻痺	錐体外路症状	筋強剛	小脳症状	ミオクローヌス	無動性無言状態	脳波検査でPSDあり	その他
1/24	4	77	2002/11	+	+	+				+		+	+	+	+		+	
3/10	11	67	2002/12	+	+	+				+					+		+	
4/17	16	74	2003/2	+	+	+						+	+	+	+	+	+	+
5/23	21	55	2003/1	+		+	+	+						+	+		+	
5/30	22	59	2002/8	+	+	+		+					+		+			
6/16	25	74	2003/4	+		+				+		+			+		+	
6/30	27	62	2003/5	+		+									+	+	+	
7/18	29	83	2003/4	+	+	+	+						+		+	+	+	
8/1	31	81	2003/6	+	+	+				+		+	+		+		+	+
8/1	31	76	2003/1	+	+	+				+		+		+	+	+		
8/12	33	72	2001/10	+	+	+		+		+		+	+	+	+	+	+	
11/4	45	65	2001/10	+	+						+	+	+	+	+	+		
12/1	49	67	2003/10	+	+	+	+	+	+	+		+	+		+	+	+	
			合計	13	10	12	3	4	1	7	1	8	8	6	13	7	10	2

⑥ 劇症型溶血性連鎖球菌感染症

劇症型溶血性連鎖球菌感染症は6件届出があった。性別では男性3人、女性3人、年齢別では30歳代1人、40歳代1人、50歳代1人、70歳代2人、80歳代1人である。死亡者は発生していない。全て国内発生である。

届出日	週	性別	年齢	T型	症状	感染源
1/27	5	男	80		発熱、筋肉痛、ショック	創部
2/5	6	女	77			創部(右足底部)
4/23	17	男	54		敗血症性ショック、左下肢腫脹、水疱形成、MOF	感染創(左足趾)
6/18	25	女	74		重症ショック	不明
8/19	34	女	46	T-1	壊死性筋膜炎、敗血症性ショック	不明
11/28	48	男	31		発熱、頭痛、嘔吐、下痢、ショック、DIC、MOF	咽頭

⑦ 後天性免疫不全症候群

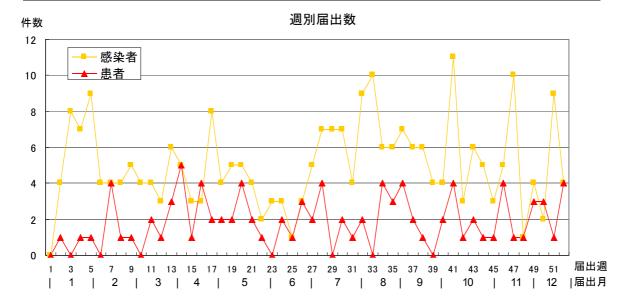
後天性免疫不全症候群の届出は、患者 97 人、感染者 262 人、合計 359 人であった。そのうち日本人男性が占める割合は患者の 80 %、感染者の 86 %であった。

推定感染経路は、性的接触によるものが患者で84%、感染者で90%を占め、特に感染者のうち 男性同性間性的接触による感染が66%であった。また、患者で母子感染例が1件、静注薬物例が1 例、感染者で静注薬物例が2例届出られた

推定感染地が国内である割合は患者で75%、感染者で83%であった。

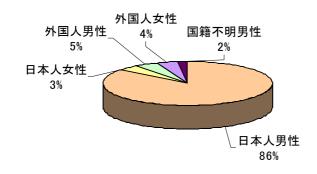
性別では男性が患者で 89 人、感染者で 243 人、女性が患者で 8 人、感染者で 19 人であった。年齢別では、患者は 10 歳未満 1 人、20 歳代 6 人、30 歳代 40 人、40 歳代 17 人、50 歳代 22 人、60 歳代 10 人、70 歳代 1 人で、感染者は 10 歳代 3 人、20 歳代 81 人、30 歳代 98 人、40 歳代 44 人、50 歳代 27 人、60 歳代 8 人、70 歳代 1 人であった。

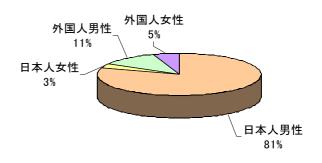
	日本人 男性	外国人 男性	国籍不明 男性	日本人 女性	外国人 女性	国籍不明 女性	合計
感染者	225	13	5	9	10	0	262
患 者	78	11	0	3	5	0	97
合 計	303	24	5	12	15	0	359



国籍·性別割合(感染者262名)

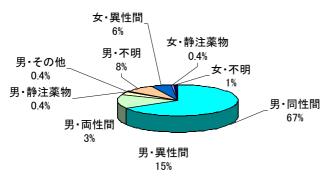
国籍・性別割合(患者97名)

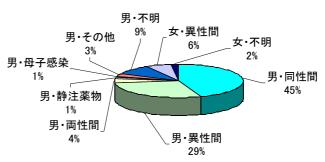




推定感染経路別構成割合(感染者262名)

推定感染経路別構成割合(患者97名)

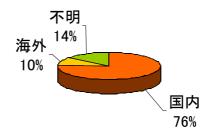


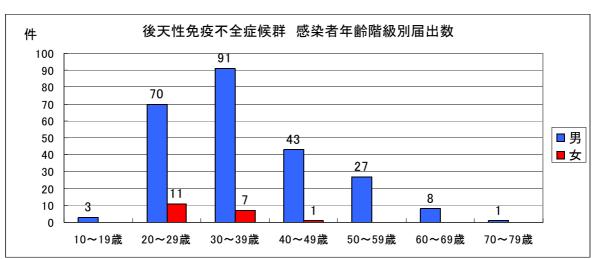


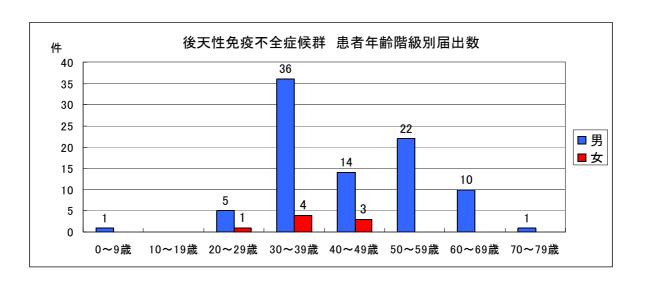
推定感染地域別構成割合(感染者262名)

推定感染地域別構成割合(患者97名)









⑧ ジアルジア症

ジアルジア症は29件届出があった。性別では男性24人、女性5人であり、

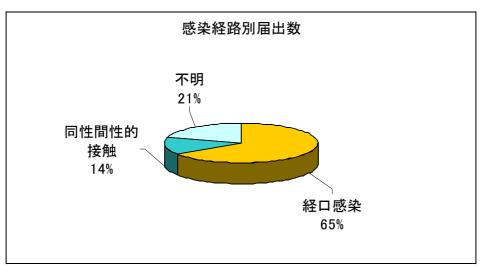
年齢別では、10歳代1人、20歳代6人、30歳代8人、40歳代5人、50歳代4人、60歳代4人、70歳代1人である。

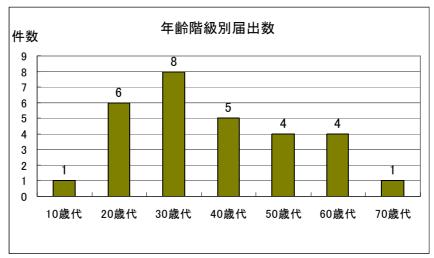
推定感染地域は国外が 15 件、国内が 11 件、不明が 3 件である。感染経路は経口感染 19 件、同性間性的接触 4 件、不明 6 件が推定されている。

国外発生の国別では、ラオスが2件、以下ベネズエラ、シリア、ウズベキスタン、タイ、バングラデシュ、インドネシア、エチオピア、トルコ、スリランカ、インド、カンボジア、パキスタン、中国が1件ずつ届出されている。

ジアルジア症 国内発生

届出日	週	性別	年齢	推定感染経路	感染源
1/27	5	男	26	同性間性的接触	
5/14	20	男	50	同性間性的接触	
5/21	21	男	26	同性間性的接触	
6/16	25	男	36	経口	不明
7/7	28	男	22	同性間性的接触	
7/19	29	男	41	経口	不明
8/6	32	男	44	不明	
8/27	35	女	24	経口	不明
9/25	39	男	44	不明	
10/10	41	男	20	経口	不明
12/1	49	男	43	経口	不明





⑨ 髄膜炎菌性髄膜炎

髄膜炎菌性髄膜炎は4件届出があった。性別では男性2人、女性2人、年齢別では20歳2人、60歳(1人、70歳代1人である。推定感染地域は国内が2件、不明が2件である。

届出日	週	性別	年齢	群	症状	推定感染地	推定感染経路
2/5	6	女	60	В	倦怠感、嘔吐、後頭部痛、腰背部痛	国内	不明
3/12	11	男	71	Υ	髄膜炎症状、敗血症症状	不明	不明
5/27	22	男	22		発熱、頭痛、髄膜刺激症状	国内	不明
9/2	36	女	24	С	発熱、関節痛、紫斑	不明	不明

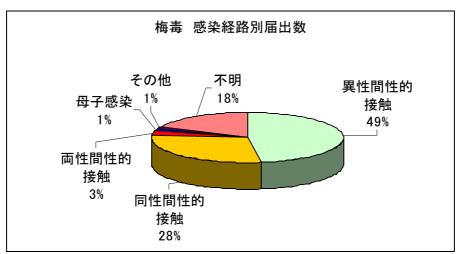
10 梅毒

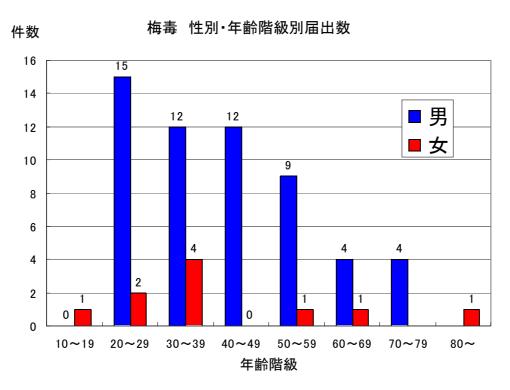
梅毒は 67 件届出があった。早期顕症梅毒 31 件 (うち I 期 12 件、II 期 19 件)、晩期顕症梅毒 8 件、無症候梅毒 27 件、先天梅毒 1 件 (母体は梅毒未治療、極低出生体重児 1300g で肝脾腫、腹水、血小板減少を伴う)であった。性別では男性 57 人、女性 10 人であり、年齢別では 10 歳未満 1 人、20 歳代 17 人、30 歳代 16 人、40 歳代 12 人、50 歳代 10 人、60 歳代 5 人、70 歳代 4 人、80 歳代 2 人である。

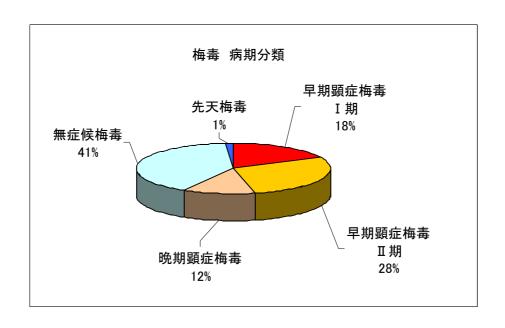
推定感染地域は国内が 59 件、国外が 1 件、不明が 7 件である。感染経路は異性間性的接触 32 件、同性間性的接触 19 件、両性間性的接触 2 件、母子感染 1 件、その他 1 件、不明 12 件が推定されて

いる。









⑪破傷風

破傷風は3件届出があった。性別では男性2人、女性1人、年齢別では30歳代1人、50歳代2 人である。診断方法は、全て臨床決定である。推定感染地は全て国内である。

届出日	週	性別	年齢	診断方法	症状_詳細	推定感染地域	推定感染経路
2/25	9	男	53	臨床決定	項部痛、開口障害、 痙攣	国内	挫創からの感染
2/26	9	女	37	臨床決定	後頚部痛、開口障害、 嚥下困難	国内	
4/30	18	男	58	臨床決定		国内	外傷

① バンコマイシン耐性腸球菌感染症

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は 4 件の届出があった。性別では、男性 1 人、女性 3 人、年齢別では 60 歳代 2 人、70 歳代 1 人、90 歳代 1 人である。遺伝子型では、VanB 1 件、VanC 3 件である。

届出日	週	性別	年齢	遺伝子型	症状	推定感染地域	推定感染経路
2/25	9	女	67	Van C		国内	不明
6/12	24	女	96	Van B	下腹部痛 膿尿	国内	不明
7/11	28	女	69	Van C	胆管炎	国内	胆汁内瘻tube
12/4	49	男	72	Van C	発熱(CRP上昇)	国内	不明

③ その他の五類感染症(全数届出)

以下の疾患は届出がなかった。

先天性風しん症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症

注 1)「急性脳炎」「バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症」は 2003 年 11 月 5 日より新たに追加指定された。

注 2)「アメーバ赤痢」「クリプトスポリジウム症」「クロイツフェルト・ヤコブ病」「劇症型溶血性

レンサ球菌感染症」「後天性免疫不全症候群」「ジアルジア症」「髄膜炎菌性髄膜炎」「先天性風疹症候群」「梅毒」「破傷風」「バンコマイシン耐性腸球菌感染症」は 2003 年 11 月 5 日より四類感染症より五類感染症に変更となった。

注 3)「ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)」、は 2003 年 11 月 5 日より新たに追加指定された。(11 月 4 日までは「急性ウイルス性肝炎」として四類感染症に分類されており、A型・E型を含む。)

第3表-1-1 一、二、三、四、五類全数把握疾病 患者報告数推移表 (2003年第1週~2003年第52週)

		101	102			103	104	105	201	202	203	204	205	206	301
		工	102 ク	重	痘	~	7	ラ	201 コ	細	腸	パ	急	200	腸
		ボ	リ	症	そ	ス	1	ッ	レ	菌	チ	ラ	性	フ	管
		ラ	11	急	う	7	ル	サ	ラ	性	フ	チ	灰	テ	出
		出	ア	性	*		ブ	熱		赤	ス	フ	白	IJ	<u>ш</u> .
週	期間	<u></u>	•	呼			ル			痢		ス	髄	ア	性
2.0	2à11h1	熱	コ	吸 器			グ						炎		大胆
			ンゴ	症			病								腸菌
			出	候											感
			<u>ш</u>	群											感染
			熱	*											症
1	12.30~ 1. 5											1			1
2	1. 6~ 1.12									3					
3	1.13~ 1.19									4	1				
4	1.20~ 1.26									1		1			
5	$1.27 \sim 2.2$ 2. $3 \sim 2.9$								1	1 2	1				1
6 7	$\frac{2. \ 3 \sim \ 2. \ 9}{2.10 \sim \ 2.16}$								1	2					1
8	$2.17 \sim 2.23$									1					2
9	2.24~ 3. 2									4	1				
10	3. 3∼ 3. 9														1
11	3.10~ 3.16									4	1			ļ	2
12	3.17~ 3.23								1	1	9				
13 14	$3.24 \sim 3.30$ $3.31 \sim 4.6$								1	2 1	3				
15	$\frac{3.01}{4.7}$ $\frac{4.0}{4.13}$									1					2
16	4.14~ 4.20									_	1				1
17	4.21~ 4.27														
18	4.28~ 5. 4									3	1				
19	5. 5~ 5.11									4					0
20 21	$5.12 \sim 5.18$ $5.19 \sim 5.25$									2					3
22	$5.19 5.26 \sim 6.1$									1	1				15
23	6. 2~ 6. 8									3	_	1			11
24	6. 9∼ 6.15									5					1
25	6. 16~ 6. 22										1				3
26 27	$6.23 \sim 6.29$ $6.30 \sim 7.6$										2				7
28	$7. 7 \sim 7.13$									2	1				6
29	7.14~ 7.20									1		1			15
30	$7.21 \sim 7.27$									2					9
31	7.28~ 8. 3									2					4
33	8. 4~ 8.10									2 1					9
34	8.11~ 8.17 8.18~ 8.24									7	1				8
35	8. 25~ 8. 31									'	1				4
36	9. 1∼ 9. 7									4					6
37	9. 8∼ 9.14									1					12
38	9.15~ 9.21								2	3		1			3
39	$9.22 \sim 9.28$ $9.29 \sim 10.5$								-	2	2				9 5
40	$\frac{9.29 \sim 10.5}{10.6 \sim 10.12}$									4					7
42	$10.13 \sim 10.12$									6					7 2 3
43	10.20~10.26									5					3
44										2					4
45	11. 3~11. 9									2	1				1
46 47	$11.10 \sim 11.16$ $11.17 \sim 11.23$									1		1			1 4
48	11. 17 ~ 11. 23									1	1	1			1
49									1	3	1				2
	12. 8~12.14										1	1			
51	12.15~12.21									3					2
52										3	_			<u> </u>	3
Ш	合 計								5	105	20	7			182

^{*:2003}年11月5日より新たに追加指定された。

第3表-1-2 一、二、三、四、五類全数把握疾病 患者報告数推移表 (2003年第1週~2003年第52週)

	I		434		402	403	404	405	407	408		413		415	418	419
		Е	ウ	Α	エ	黄	オ	口	Q	狂	ザ高	コ	サ	腎	炭	つ
		型	エ	型	キ	熱	ウ	帰	熱	犬	*病	ク	ル	症	疽	つ
		肝	ス	肝	ノ		4	熱		病	原 性	シジ	痘	候		が
		炎	ト	炎	Л		病				性	ジュ	*	性		虫
週	期間	*	ナノ	*	ツカ						鳥	オイ		出血		病
~~	\(\frac{1}{2}\)		イル		クス						イン	イデ		血熱		
			熱		症						フ	ス		7/1		
			2117		/114						ル	症				
											エ					
											ン					
1	12.30~ 1.5															
2	1. 6~ 1.12															
3	1.13~ 1.19															
4	1. 20~ 1. 26															
5	$1.27 \sim 2.2$ $2.3 \sim 2.9$															
6 7	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$															
8	$2.17 \sim 2.23$															
9	2.24~ 3. 2															
10	3. 3∼ 3. 9															
11	3. 10~ 3. 16															
12 13	$3.17 \sim 3.23$ $3.24 \sim 3.30$								1							\vdash
14	$3.24^{\circ} 3.30$ $3.31^{\circ} 4.6$															
15	$\frac{3.31}{4.7} \sim 4.13$															
16	4. 14~ 4. 20															
17	4.21~ 4.27															
18	4.28∼ 5. 4															
19	5. 5~ 5.11															
20 21	$5.12 \sim 5.18$ $5.19 \sim 5.25$															
22	5.19 - 5.25 $5.26 \sim 6.1$															
23	6. 2~ 6. 8															
24	6. 9∼ 6.15															
25	6.16~ 6.22															
26 27	$6.23 \sim 6.29$															
28	$6.30 \sim 7.6$ 7. $7 \sim 7.13$															
29	7. 14~ 7. 20															
30	7.21~ 7.27															
31	7.28∼ 8. 3															
32	8. 4~ 8. 10															
33 34	8. 11~ 8. 17 8. 18~ 8. 24						1									-
35	8. 25~ 8. 31						1									
36	9. 1~ 9. 7															
37	9. 8∼ 9.14						1									
38	9.15~ 9.21															
39	$9.22 \sim 9.28$															1
40	$9.29 \sim 10.5$ $10.6 \sim 10.12$															1
42	10. 13~10. 12															
43																
44	10.27~11. 2															
	11. 3~11. 9			1												
	11. 10~11. 16										<u> </u>					\vdash
47	11. 17~11. 23 11. 24~11. 30			1							1					1
	$11.24 \circ 11.30$ $12. 1 \sim 12.7$			1												1
	12. 8~12.14															
51	12.15~12.21			1												
52		1														
	合 計	1		3			2		1							3

^{*:2003}年11月5日より新たに追加指定された。

第3表-1-3 一、二、三、四、五類全数把握疾病 患者報告数推移表 (2003年第1週~2003年第52週)

デニー日日 日 日 日 八 日 日 八 日 日 八 日 日 日 日 日 日 日 日	1 /	433	₹	
週		433 V		V
理 期間		ジ		プ
期間		オ		ŀ
期間		ネ		ス
期間	7	ラ		ピ
Record R	ル	症		ラ
### ### ### ##########################		/111_		ラ 症
* * * * * * * * * *				*
* * * * * * * * * *	沈			.,.
The state of the	定			
1 12, 30 \(\) 1, 5 1 1 1 1 1 1 1 1 1				
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$			丄	
3 1,13 \(\times \) 1,19			_	
4 1, 20 \(1, 126 \)			\bot	
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$		1	1	
$ \begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$			\perp	
$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$		2	2	
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$			+	
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	+		1	
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	+	1	1	
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	-+	1	1	-
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	+	1	1	
13 3.24 ~ 3.30 1 15 4. 7 ~ 4.13 1 16 4. 17 ~ 4.21 1 17 4. 24 ~ 27 1 18 4. 28 ~ 5. 4 1 19 5. 5 ~ 5. 11 20 20 5. 12 ~ 5. 18 1 21 5. 19 ~ 5. 25 3 22 5. 26 ~ 6. 1 1 23 6. 2 ~ 6. 8 3 24 6. 9 ~ 6. 15 1 25 6. 16 ~ 6. 22 1 26 6. 23 ~ 6. 29 2 27 6. 30 ~ 7. 6 1 28 7. 7 ~ 7. 13 1 29 7. 14 ~ 7. 20 3 30 7. 21 ~ 7. 27 3 31 7. 28 ~ 8. 3 1 32 8. 4 ~ 8. 10 1 33 8. 11 ~ 8. 17 1 34 8. 18 ~ 8. 24 1 35 8. 25 ~ 8. 31 1 36 9. 1 ~ 9. 7 1 37 9. 8 ~ 9. 14 3 38 9. 15 ~ 9. 21	-+		+	
$ \begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	\dashv		+	
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$			+	
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$			o	
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$			o	
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$			\neg	
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$		1	1	
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$				
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$				
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$				
$ \begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$				
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$				
$ \begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$				
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$				
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$				
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$			\bot	
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$			_	
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$			_	
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$			_	
$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$			+	
$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$			1	
$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$			1	
$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	-+	1	1	
$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	\dashv	1	1	
$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	+		2	
$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$			_	
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$			\neg	
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$			十	$\overline{}$
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$			\top	
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$		2	2	
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$			丁	
45 11. 3~11. 9 46 11. 10~11. 16 47 11. 17~11. 23 48 11. 24~11. 30 49 12. 1~12. 7 50 12. 8~12. 14		1	1	
46 11. 10~11. 16 1 47 11. 17~11. 23 48 11. 24~11. 30 49 12. 1~12. 7 50 12. 8~12. 14				
47 11. 17~11. 23 48 11. 24~11. 30 49 12. 1~12. 7 50 12. 8~12. 14			I	
48 11. 24~11. 30 49 12. 1~12. 7 50 12. 8~12. 14			I	
50 12. 8~12.14			floor	
50 12. 8~12. 14 51 12. 15~12. 21			$\bot\!$	
[51] 12. 15~12. 21				
			\bot	
52 12. 22~12. 28			2	
금 計 15 33		18	8	

^{*:2003}年11月5日より新たに追加指定された。 *2:2003年11月5日より新たに追加指定された。11月4日までは、「乳児ボツリヌス症」を含む。

第3表-1-4 一、二、三、四、五類全数把握疾病 患者報告数推移表 (2003年第1週~2003年第52週)

_	-														
		401	406		409	410	411	412	414	416	417	424	425		426
		ア	ヘウ	急	ク	ヤク	感劇	後	ジ	髄	先	梅	破	ブバ	腸バ
		メ	Aイ	性	リ	コロ	染症	天	ア	膜	天	毒	傷	ドン	球ン
		1	型ル	脳	プ	ブイ	症型	性	ル	炎	性		風	ウコ	菌コ
		バ	・ス	炎	4	病ツ	溶	免	ジ	菌	風		7=11	球マ	感マ
		赤	E性	*	ス	プラ	血	疫	ア	性	疹			菌イ	染イ
週	期間			2	ポ		性	不		髄	症				症シ
~	771114	痢	型肝	Z		エ			症					感シ	
			を炎		リ	ル	レ	全		膜	候			染ン	ン
			除		ジ	7	ン	症		炎	群			症耐	耐
			<		ウ	•	サ	候						*性	性
)		A		球	群						*性 2黄	
			*		症		菌							色	
ш					/===										
1	$12.30 \sim 1.5$														
2	1. 6∼ 1.12		4					5							
3	1.13~ 1.19	2	1					8				1			
4	1.20~ 1.26	2	1			1		8	1			2			
5	1.27~ 2. 2	4	8				1	10	1			4			
6	2. 3~ 2. 9	3	1				1	4	1	1					
7	$\frac{2.3 - 2.9}{2.10}$	1	3				1	8	1	1					
	$2.10 \sim 2.16$ $2.17 \sim 2.23$								—		-	0		 	\vdash
8		1	1					5	4		 	3			-
9	2.24~ 3. 2	3	4					6	1			2	2		1
10	3. 3∼ 3. 9	3	3					4				1			igsquare
11	3.10∼ 3.16	5	2			1		6	1	1		3			
12	3. 17∼ 3. 23	1						4	1			1			
13	3.24~ 3.30		2					9				3			
14	3.31~ 4. 6		2					10							
15	4. 7~ 4.13	2	2					4							
16	4. 14~ 4. 20	5				1		7				3			
	$4.14 \sim 4.20$ $4.21 \sim 4.27$		1			1	1		0						
17		2	1				1	10	3			1			
18	4.28∼ 5. 4	2	2					6				3	1		
19	5. 5∼ 5.11	1	1					7	1			1			
20	5.12~ 5.18	3	2					9	2			1			
21	$5.19 \sim 5.25$	2	2			1		6	2			2			
22	5. 26~ 6. 1	5				1		3	2	1		2			
23	6. $2 \sim 6.8$	6						3	1			2			
24	6. 9~ 6. 15	2						5	1			2			1
25	$6.16 \sim 6.22$	5	4			1	1	2	2			1			
	0. 10° 0. 22				1	1	1					1			
26	6.23~ 6.29	2	1		1	-		6				1			
27	6.30~ 7. 6	3	1			1		7				1			
28	7. 7∼ 7.13		3		1			11	1			4			1
29	7.14~ 7.20	2				1		7	1			1			
30	$7.21 \sim 7.27$	1	1		1			9	1						
31	7.28∼ 8. 3	2			1	2		5				4			
32	8. 4~ 8.10	2	1					11	1						
33	8.11~ 8.17	4	1			1		10							
34	8. 18~ 8. 24					_	1	10						i	
35	8. 25~ 8. 31	3						9	1			1			\vdash
36	$9. \ 1 \sim 9. \ 7$	<u>5</u>						11	1	1		2			
37		1								1	 				\vdash
	9. 8~ 9.14		0					8			-	1			
38	9.15~ 9.21	3	6					7	-		-	2			\vdash
39	9.22∼ 9.28	1						4	1						igsquare
40	9.29~10. 5	3	1					6							
41	10. 6~10.12	1	1					15	1						
42	10.13~10.19	3			1			4				1			
43	10.20~10.26	2						8							
44	$10.27 \sim 11.2$	3			1			6	1			1			
45	11. 3~11. 9	2			-	1		4	_		l	1			
	11. 10~11. 16	3	2			1		9				1		 	
		2	2				\vdash	11			\vdash	1		-	$\vdash \vdash$
47	11. 17~11. 23						-				 				\vdash
48	11. 24~11. 30	3					1	2			 	2			
49	12. 1~12. 7	1	1			1	\vdash	7	1		<u> </u>	1		ļ	1
50	12. 8~12.14	1						5				1			
51	12.15 \sim 12.21	6		1				10				1			
52	12.22~12.28	3						8			L	3			
ΙÌ	合 計	122	67	1	6	13	6	359	29	4		67	3		4
ш	ц н	144	O1	1	U	10	U	000	40	r		Οī	J		1

無印:2003年11月5日より四類(全数)から「五類(全数)」に分類変更された。

^{*:2003}年11月4日までは、「急性ウイルス性肝炎」として四類に分類されており、A型とE型を含む。 *2:2003年11月5日より新たに追加指定された。

第3表-2-1 一、二、三、四、五類全数把握疾病 保健所別累計表 (2003年第1週~2003年第52週)

	101 エ	102 ク	重	痘	103 ~	104	105 ラ	201 ¬	202 細	203 腸	204 パ	205 急	206 ジ	301 腸
	ボラ出血	リミア・	症急性呼	そう*	スト	ールブル	ッ サ 熱	レラ	菌性赤痢	チフス	ラチフス	性灰白髄	フテリア	腸管出血性
保健所	熱	コンゴ出	吸器症候			グ 病						炎		性大腸菌感染症
		血熱	群 *											染症
千代田									4					3
中央区									1		1			2
みなと									3	6	1			2
新宿区									7	1	1			11
文京									8	4	1			4
台東									1		0			2
墨田区									2	1	2			8
江東区									0					6
品川区									2					4
月黒区 大田区									10	1				6 9
世田谷区								2	5	1				8
渋谷区								1	5 5	2				3
中野区								1	4					2
杉並									1					3
池袋									5					4
北区									2					1
荒川区									3					1
板橋区									7					14
練馬区									3					5
足立									12					7
葛飾									2					28
江戸川									1					6
多摩川														3
秋川														
八王子									5	1				7
南多摩									1					4
町田									1					4
多摩立川									4	1				9
村山大和														2
府中小金井								1	1					2
狛江調布								1						1
三鷹武蔵野									3	1	1			4
多摩小平										2				5
多摩東村山														2
島しょ														
合 計								5	105	20	7			182

^{*:2003}年11月5日より新たに追加指定された。

第3表-2-2 一、二、三、四、五類全数把握疾病 保健所別累計表

(2003年第1週~2003年第52週)

		434		402	403	404	405	407	408	,1% 	413		415	418	419
	E 型	ウエ	A 型	エキ	黄熱	オウ	回帰	Q 熱	狂犬	ザ高 *病	コク	サル	腎 症	炭 疽	つつ
	型肝炎	スト	肝 炎	ノコ		ム 病	熱		病	原	シジ	痘 *	候		が
/II b-h-=-r	火 *	トナ	火 *	コッ		7円				性 鳥	オ	*	性出		虫病
保健所		イ		ク						イ	イデ		<u>ш</u> .		
		ル 熱		ス 症						ンフ	アス		熱		
										ル	症				
										エン					
千代田															
中央区															1
みなと			1												
新宿区			1												
文京															1
台東															
墨田区	1														
江東区															
品川区															
目黒区			1												
大田区															
世田谷区															1
渋谷区															
中野区								1							
杉並															
池袋															
北区															
荒川区															
板橋区															
練馬区															
足立															
葛飾															
江戸川															
多摩川															
秋川															
八王子															
南多摩															
町田															
多摩立川															
村山大和															
府中小金井															
狛江調布															
三鷹武蔵野															
多摩小平						2									
多摩東村山															
島しょ															
合 計	1		3			2		1							3

^{*:2003}年11月5日より新たに追加指定された。

第3表-2-3 一、二、三、四、五類全数把握疾病 保健所別累計表

(2003年第1週~2003年第52週)

Y		420 デ	=	421 日	422 日	427 ハ	428 B	429 ブ	430 発	ボ	431 マ	野	432 ラ	IJ	433 レ	レ
架健所 熱 イルス 変換 水の 水の カス 変換 手代田 1 2 2 中央区 1 2 1 みなと 1 20 1 新宿区 3 3 3 金庫 3 2 墨田区 3 4 江東区 3 4 日黒区 1 4 世田谷区 1 4 世田谷区 1 4 地田谷区 1 4 地田谷区 1 1 地設 1 1 地袋 1 1 北区 1 1 売加区 1 1 大変 1 1 地袋 1 1 北区 1 1 高齢 1 1 江戸川 2 1 多摩川 秋川 1 八工子 1 1		ン	パ	本	本	ン	ウ	ル	し	ツ	ラ	兎	イ	ツ	ジ	プ
一			1	斑	炎	ウ	ル	ラ	チ	ヌ				ウ	ネ	トス。
一	保健所			熱				症							ラ 症	スピラ症
症 症 ** 症 検離 1 中央区 1 みなと 1 3 3 文京 2 台東 2 墨田区 3 江東区 4 品川区 1 日黒区 1 大田区 1 被公区 1 地袋 1 北区 1 流川区 1 板橋区 2 練馬区 2 多摩川 1 八王子 1			感							*						症 *
群 * 千代田 1 中央区 1 みなと 1 新宿区 3 文京 2 台東 2 墨田区 3 江東区 4 品川区 1 日黒区 1 大田区 3 世田谷区 1 渋谷区 1 中野区 大並 杉並 1 池袋 1 北区 1 荒川区 1 板橋区 1 藤崎 1 江戸川 3 京川 1 京川 1 <td< td=""><td></td><td></td><td>症</td><td></td><td></td><td>症</td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td>染</td><td></td><td>*</td></td<>			症			症				2				染		*
中央区 1 みなと 1 新宿区 3 文京 2 台東			*			() 群										
みなと 1 新宿区 3 文京 2 台東 2 墨田区 3 江東区 4 品川区 1 日黒区 1 大田区 3 世田谷区 1 沙谷区 1 中野区 4 杉並 1 北区 1 荒川区 1 板橋区 5 練馬区 2 足立 1 葛飾 1 江戸川 5 多摩川 1 秋川 1 八王子 1	千代田														1	
新宿区 3 2 2 2 2 1 2 2 1 2 2 1 2 2 1 2 2 1 2 2 1 2 2 1 2 2 1 2 2 1 2 2 1 2 2 1 2 2 1 2 2 1 2 2 1 2 2 1 2 2 1 2 2 1 2 2 1 2		1														
文京 2 台東 4 墨田区 3 江東区 1 品川区 1 日黒区 1 大田区 3 世田谷区 1 沙谷区 1 中野区 1 杉並 1 北区 1 荒川区 1 板橋区 東馬区 足立 1 葛飾 1 江戸川 多摩川 秋川 1 八王子 1																
台東 4 墨田区 3 江東区 1 品川区 1 日黒区 1 大田区 3 世田谷区 1 沙谷区 1 中野区 1 杉並 1 北区 1 荒川区 1 板橋区 2 練馬区 1 足立 1 京飾 1 江戸川 3 多摩川 1 秋川 1 八王子 1		3									3					
墨田区 3 4 江東区 1 品川区 1 目黒区 1 大田区 1 世田谷区 1 渋谷区 1 中野区 1 杉並 1 北区 1 荒川区 1 板橋区 2 練馬区 1 足立 1 高飾 1 江戸川 3 多摩川 1 秋川 1 八王子 1															2	
江東区 品川区 日黒区 1 大田区 3 世田谷区 1 渋谷区 1 中野区 1 杉並 1 池袋 1 北区 1 荒川区 0 板橋区 0 練馬区 1 足立 1 葛飾 1 江戸川 0 多摩川 1 秋川 1 八王子 1																
品川区 1 目黒区 1 大田区 3 世田谷区 1 渋谷区 1 中野区 1 杉並 1 北区 1 荒川区 1 板橋区 2 練馬区 2 足立立 1 葛飾 1 江戸川 2 多摩川 1 秋川 1 八王子 1		3									4					
目黒区 1 1 4 大田区 3 1 4 世田谷区 1 1 2 被谷区 中野区 1 1 杉並 1 1 2 北区 1 2 2 荒川区 2 2 2 板橋区 3 3 4 3 藤馬区 2 3 4 3 4 基飾 1 3 4 3 4 </td <td></td>																
大田区 3 1 4 世田谷区 1 1 渋谷区 1 1 中野区 1 1 杉並 1 1 北区 1 1 荒川区 板橋区 1 練馬区 1 2 足立 1 2 葛飾 1 2 江戸川 9摩川 1 秋川 1 1 八王子 1 1		1													1	
世田谷区 1											1					
被谷区 中野区 杉並 1 池袋 北区 荒川区 板橋区 練馬区 足立 36 江戸川 多摩川 秋川 八王子															4	
中野区		1									1					
杉並 1 池袋 北区 荒川区 板橋区 練馬区 足立 葛飾 江戸川 多摩川 秋川 八王子																
池袋 北区 荒川区 板橋区 練馬区 足立 1 葛飾 1 江戸川 1 多摩川 1 秋川 1 八王子 1		1									1					
北区 荒川区 板橋区 練馬区 足立 葛飾 江戸川 多摩川 秋川 八王子																
板橋区 練馬区 足立 1 1																
練馬区 足立 葛飾 江戸川 多摩川 秋川 八王子	荒川区															
足立 1 葛飾 1 江戸川 1 多摩川 1 秋川 1 八王子 1	板橋区															
葛飾 江戸川 3摩川 1 秋川 1 八王子 1	練馬区															
江戸川 1 多摩川 1 秋川 1 八王子 1	足立										1					
多摩川 1 秋川 1 八王子 1																
秋川 1 八王子 1																
八王子 1																
															1	
											1					
	南多摩															
町田 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		1													1	
多摩立川 1 村山大和 1																
村田大和 1 府中小金井 1			\vdash	-							1				1	
和工調布											1				1	
三鷹武蔵野 1															1	
多摩小平 1		<u> </u>	 	 										 		
多摩東村山																
島しよ																
合計 15 33 18		15									33				18	

^{*:2003}年11月5日より新たに追加指定された。 *2:2003年11月5日より新たに追加指定された。11月4日までは、「乳児ボツリヌス症」を含む。

第3表-2-4 一、二、三、四、五類全数把握疾病 保健所別累計表

(2003年第1週~2003年第52週)

保健所	401アメーバ赤痢	406 ウイルス性肝炎 ・************************************	急性脳炎*2	409 クリプトスポリジウム症	410 クロイツフェルト・	411 劇症型溶血性レンサ球菌	412後天性免疫不全症候群	414 ジアルジア症	416 髄膜炎菌性髄膜炎	417 先天性風疹症候群	424 梅毒	425 破傷風	ブドウ球菌感染症*2	426バンコマイシン耐性
千代田	9	2					6	1	1		3			
中央区	5			1			3	2						1
みなと	9	1			1		31	1			9			
新宿区	17	6		3		2	74	18			12			1
文京	7	3		1	1	1	50	1	1		1			
台東	1	1					2	1			2			
墨田区	8	7				1	13	1	1		4	1		
江東区	3						2							
品川区	4	4			1		8		1		1			
目黒区	3				1		2							1
大田区	7	3		1			12				5			
世田谷区	4						9	1			7			
渋谷区	4	1			1		90	2			1	1		
中野区	2	1			2		6				7			
杉並	1	15					3				1			
池袋	4	2					2				3			
北区	1	2												
荒川区	1		1											
板橋区	10	1			2		9	1			1			
練馬区	2	3					2							
足立	3	1					6				3			
葛飾					1		1							
江戸川	1	1					1							
多摩川	1	1					2					1		
秋川														
八王子	2						2				1			1
南多摩	2						3				2			
町田	1						2							
多摩立川	4						6				1			
村山大和					1									
府中小金井	2	1			1	1	2				1			
狛江調布	1					1	1				1			
三鷹武蔵野	2	5					6							
多摩小平	1	3			1		2				1			
多摩東村山		3					1							
島しょ														
合 計	122	67	1	6	13	6	359	29	4		67	3		4

無印:2003年11月5日より四類(全数)から「五類(全数)」に分類変更された。

^{*:2003}年11月4日までは、「急性ウイルス性肝炎」として四類に分類されており、A型とE型を含む。

^{*2:2003}年11月5日より新たに追加指定された。

第3表-3-1 一、二、三、四、五類全数把握疾病 年齢階級別累計表 (2003年第1週~2003年第52週)

年齢階級	101 エボラ出血熱	102 クリミア・コンゴ出血熱	重症急性呼吸器症候群*	痘そう*	103 ペ ス ト	104マールブルグ病	105 ラッサ熱	201 コ レ ラ	202 細菌性赤痢	203 腸 チ フ ス	204 パラチフス	205 急性灰白髄炎	206 ジフテリア	301腸管出血性大腸菌感染症
0歳														4
1~4歳									10					19
5~9歳									2					11
10~14歳														10
15~19歳								1	2					12
20~24歳								2	21	5	2			27
25~29歳								1	17	5	1			12
30~34歳								1	17	5	1			9
35~39歳									14	2	2			14
40~44歳									3					11
45~49歳										2				6
50~54歳									6					6
55~59歳									5					7
60~64歳									2					8
65~69歳									2	1	1			4
70歳以上									4					22
合 計								5	105	20	7			182

^{*:2003}年11月5日より新たに追加指定された。

第3表-3-2 一、二、三、四、五類全数把握疾病 年齢階級別累計表 (2003年第1週~2003年第52週)

年齢階級	E型肝炎*	434 ウエストナイル熱	A型肝炎*	402エキノコックス症	403 黄 熱	404 オウム病	405 回帰熱	407 Q 熱	408 狂 犬 病	ザ* 高病原性鳥インフルエン	413コクシジオイデス症	サル 痘 *	415腎症候性出血熱	418 炭 疽	419 つつが虫病
0歳															
1~4歳															
5~9歳								1							
10~14歳															
15~19歳															
20~24歳	1		1												
25~29歳															
30~34歳			2												
35~39歳						1									1
40~44歳						1									
45~49歳															
50~54歳															
55~59歳															1
60~64歳															
65~69歳															1
70歳以上															
合 計	1		3			2		1							3

^{*:2003}年11月5日より新たに追加指定された。

第3表-3-3 一、二、三、四、五類全数把握疾病 年齡階級別累計表 (2003年第1週~2003年第52週)

年齢階級	420 デング熱	ニパウイルス 感染症*	421日本紅斑熱	422 日本脳炎	427ハンタウイルス肺症候群	428 B ウイルス病	429 ブルセラ症	430 発しんチフス	ボツリヌス症*2	431 マ ラ リ ア	野兎症*	432 ライム病	リッサウイルス感染症*	433 レジオネラ症	レプトスピラ症*
0歳															
1~4歳										1					
5~9歳										1					
10~14歳															
15~19歳	1									1					
20~24歳	3									9					
25~29歳	3									5				1	
30~34歳	5									7					
35~39歳										2					
40~44歳	2									1				1	
45~49歳	1									2				1	
50~54歳														2	
55~59歳										3				2	
60~64歳														2	
65~69歳														2	
70歳以上										1				7	
合 計	15									33				18	

^{*:2003}年11月5日より新たに追加指定された。 *2:2003年11月5日より新たに追加指定された。11月4日までは、「乳児ボツリヌス症」を含む。

第3表-3-4 一、二、三、四、五類全数把握疾病 年齡階級別累計表 (2003年第1週~2003年第52週)

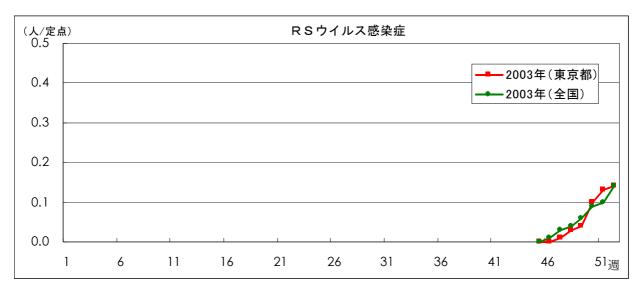
年齢階級	401アメーバ赤痢	406 (A型・E型を除く)*	急性脳炎*2	409 クリプトスポリジウム症	410 ヤコブ病 エルト・	411 劇症型溶血性レンサ球菌	412後天性免疫不全症候群	414 ジアルジア症	416 髄膜炎菌性髄膜炎	417 先天性風疹症候群	424 梅 毒	425 破傷風	ブドウ球菌感染症*2バンコマイシン耐性黄色	426バンコマイシン耐性
0歳											1			
1~4歳	1		1				1							
5~9歳														
10~14歳		2						1						
15~19歳	2	1					3							
20~24歳	4	13		2			30	3	2		5			
25~29歳	11	17					57	3			12			
30~34歳	14	7				1	72	5			3			
35~39歳	18	6		3			66	3			13	1		
40~44歳	18	2					36	4			6			
45~49歳	17	5				1	25	1			6			
50~54歳	17	5				1	32	2			7	1		
55~59歳	5	4			2		17	2			3	1		
60~64歳	6	3			1		10	2	1		5			
65~69歳	6	1			3		8	2						2
70歳以上	3	1		1	7	3	2	1	1		6			2
合 計	122	67	1	6	13	6	359	29	4		67	3		4

無印:2003年11月5日より四類(全数)から「五類(全数)」に分類変更された。 *:2003年11月4日までは、「急性ウイルス性肝炎」として四類に分類されており、A型とE型を含む。 *2:2003年11月5日より新たに追加指定された。

(2) 小児科・内科疾患

ア RSウイルス感染症

2003 年 11 月、感染症予防法改正後、定点把握疾患として加えられ、11 月以来 68 件が報告された。



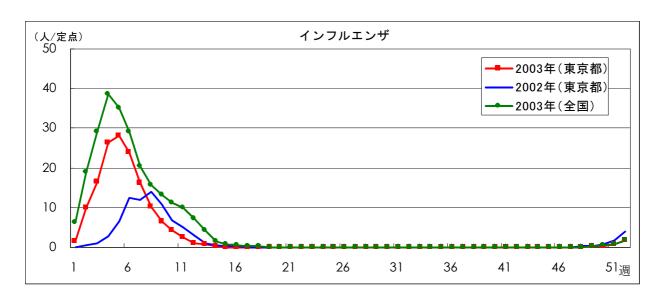
イ インフルエンザ (インフルエンザ様疾患)

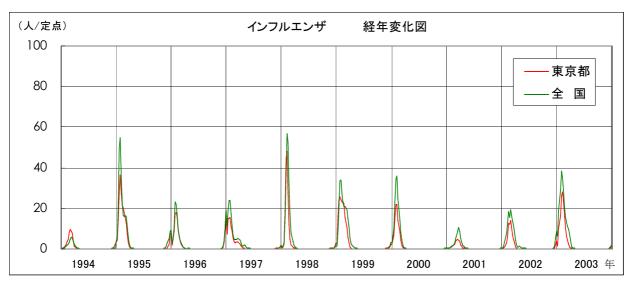
2003 年の年間患者発生数は 27,007 件 (151.72 人/定点)で、昨年 (83.58 人/定点)に比し 181.5%の増加であり、過去 10 年では第 4 位であった。当年の前期流行波 (2002/2003 期)は、前年第 51 週 (1.86 人/定点)に始まり、ピークを第 5 週 (28.11 人/定点)とし、第 12 週 (1.10 人/定点に終る中流行であった。

起因ウイルスは前年末から当年第 12 週までに得た 621 検体のうち、陽性は 163 株、その内訳は A H 1 型; 0 株、A H 3 型; 106 株、B 型; 57 株であった。検出時期は 2002 年第 48 週から 03 年第 3 週まではA H 3 型 53 株、B 5 株であったが、以後次第にB型優位に移行し、第 4 週から第 7 週の間はA H 3 型; 49 株、B型 32 株であり、第 8 週から第 12 週の間はA H 3 型; 4 株、B型; 20 株であった。ちなみに前期流行波の全国規模は、02 年第 50 週 (1.65 人/定点) に始まり 03 年第 14 週 (1.60 人/定点) に終る流行で、ピークは第 4 週 (38.52 人/定点) であった。後期流行波 (2003/2004 期) は当年第 52 週 (1.68 人/定点) に始まり、2004 年第 10 週 (1.58 人/定点) に終る流行で、ピークは 04 年第 5 週 (25.57 人/定点) であり、検出ウイルス (03 年第 46 週~ 04 年第 12 週) は 202 株中、A H 1 型; 0 株、A H 3 型; 199 株、B 型; 3 株であった。

付記:鳥インフルエンザを巡る動き

1997年に香港でH 5 N 1 株の人への感染(18 人感染、6 人死亡)が確認され、さらに 1999年 4 月に香港でH 9 N 2 株の人への感染が報告され、2003年 2 月にも中国福建省へ里帰りした香港の家族の 2 人がH 5 N 1 に罹患して死亡。2003年 4 月にはオランダで獣医師がH 7 N 7 株に感染、死亡。この間、東南アジアの広域各地で、鶏が鳥インフルエンザに罹患・死亡する被害があり、わが国でも 2003年 12 月に山口県阿東町で、2004年 2 月には大分県九重町で、さらに京都府丹波町で鶏がH 5 N 1 株に感染したが、人への感染は認められなかった。





ウ 咽頭結膜熱

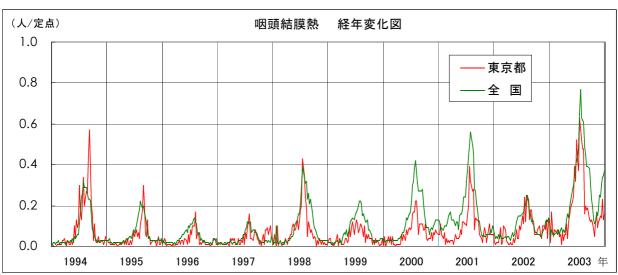
咽頭結膜熱は小児科・内科と眼科の双方の対応疾患であるが、感染症法施行以来、定点の見直しにより小児科・内科が定点分析を担当している。

2003 年の患者報告数は 1,353 件 (9.53 人/定点)であり、前年 (4.23 人/定点)比で 225.3%の倍増であり、過去 10 年では第 1 位であった。本症は夏期に流行する感染症であり、当年の患者発生推移では、第 18 週 (17 件、0.12 人/定点)より増加傾向がみられ、第 21 週 (31 件、0.22 人/定点)には増勢が明らかとなり、動揺を示しながらも増加し、第 28 週 (90 件、 0.63 人/定点)をピークとして、以後増減を示しながら減少し、第 37 週には 0.13 人/定点となり、第 41 週 (0.08 人/定点)以降低位安定期に入っている。なお、当年のピークは過去 10 年で最高であり、第 2 位は 1994 年第 36 週 (0.57 人/定点)、第 3 位は 1998 年第 28 週 (0.43 人/定点)であった。

本症は、ときに局地的小流行をみることがあり、当年は区東部圏、区南部圏、西多摩圏、区中央部圏にやや多く発生した。罹患年齢は $1\sim5$ 歳が多く、1,353件中 1,034件 (76.4%)が $1\sim5$ 歳であった。

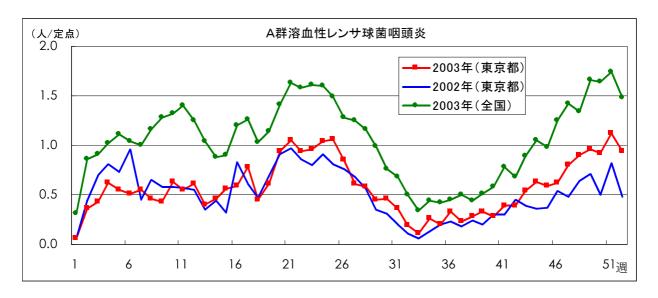
最近 10 年間の流行状況を定点当り年間発生数でみると、1994 年 4.86 人、95 年 2.25 人、96 年 1.52 人、97 年 2.22 人、98 年 3.77 人、99 年 2.24 人、2000 年 3.44 人、01 年 4.54 人、02 年 4.23 人、03 年 9.53 人であり、 $2 \sim 3$ 年の流行周期がみられるようである。

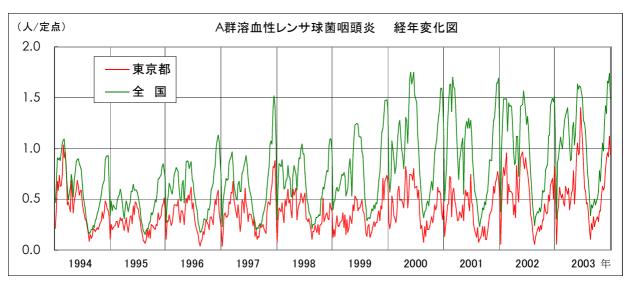




エ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(溶連菌感染症)

2003 年の報告数は 4,261 件(30.01 人/定点)であり、前年(26.56 人/定点)比 113.0%の軽度増加であったが、過去 10 年間では、前年に続いて第 1 位を占める。本症は 1994 年まで横這いないし微増傾向を示したが、1994 年(23.02 人/定点)は過去最高であった。1995 年(14.19 人/定点)以降、報告件数の低値が続いたが、2000 年(22.95 人/定点)から増加傾向を示し、昨年は 94 年の報告数を超え、第 1 位となり、さらに本年も記録を更新し連続第 1 位であった。本症の疫学像は梅雨期と晩秋冬期に増加するW字型流行像を示すことで知られるが、02 年の山は低く、03 年はこれよりやや増大したとはいえ、全国の流行推移より低位にある。ブロック別発生状況では、区東部圏、区東北部圏、北多摩北部圏で多発し、南多摩圏、北多摩西部圏、区西部圏には少ない。年齢別発生状況では、3 ~ 6 歳が 2248 件(52.8%)と過半数を占めている。





才 感染性胃腸炎

2003 年の報告数は 35,718 件(251.54 人/定点)であり、前年(244.08 人/定点)比 103.1%の横這い状態であるが、過去 10 年間では昨年に続き、第1位の報告件数であった。

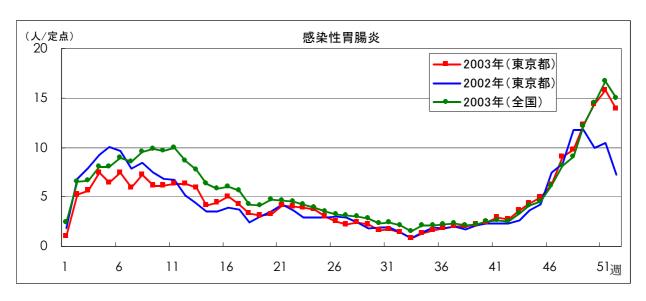
本症は秋季に始まり冬季を通じ春季にかけて流行する疾患で、通年図では年末と年初に大きな山と 5、6月に低い山を示す流行像をみる。03年前期流行波は、02年後期流行波(ピーク;第48、49週=11.80人/定点)の延長で、第6週(7.50人/定点)をピークとする例年並の流行であり、03年後期流行波は第51週(15.80人/定点)をピークとする流行で、前期流行波は昨年と並行的に推移する傾向であり、中期小流行波と後期流行波は全国流行波と重複するようであった。

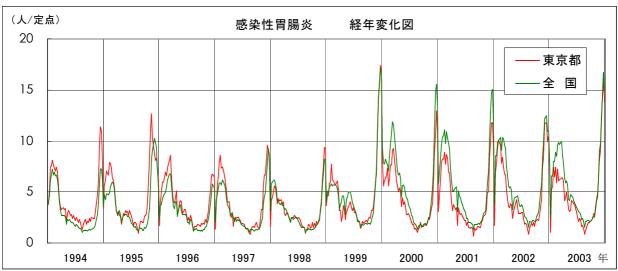
2003 年前期の感染性胃腸炎の原因の多くはノロウイルスであり、一部にロタウイルスが混在していた。

後期流行波の第 45 週 ~第 52 週の原因もノロウイルス(主因: NoroG II)が大部分を占め、一部にロタウイルス、アデノウイルスが検出された。

1999 年 3 月までは感染性胃腸炎と乳児嘔吐下痢症を別集計していたが、同年 4 月感染症予防法施行以後は両疾患を集計して報告されているので、下記に併記して対比した。

年	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
内科•小児科定点数	138	138	142	142	142	142	142	142	142	142
感染性胃腸炎のみ	29,637	32,597	28,069	28,144	23,600	34,137	33,084	31,639	34,659	35,718
人/定点	214.76	236.21	197.67	198.20	166.20	240.40	232.99	222.81	244.08	251.54
感染性胃腸炎+乳児嘔吐下痢症	35,099	40,406	32,993	33,710	27,964	36,245	33,084	31,639	34,659	35,718
人/定点	254.34	292.80	232.35	237.39	196.93	255.25	232.99	222.81	244.08	251.54





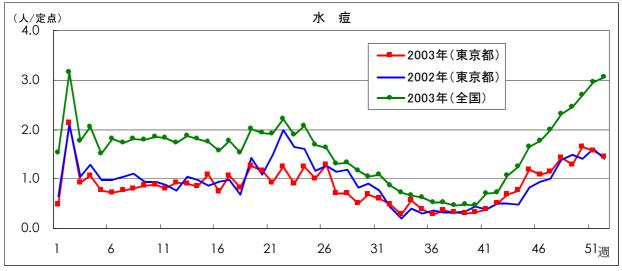
(経年変化図は、感染性胃腸炎のみのものを掲載している)

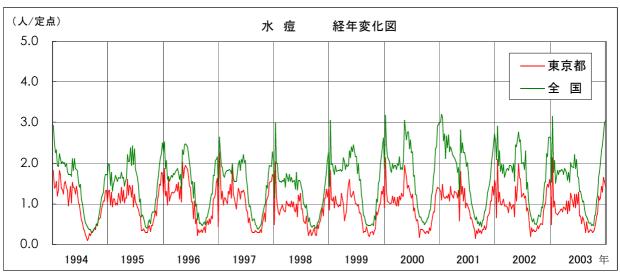
力 水痘

2003 年の報告数は 6,439 件 (45.35 人/定点)であり、前年 (49.85 人/定点) 比 91.0%の横這い状態、過去 10 年で第 9 位であった。流行波型は毎年同様にみえるが、当年流行の推移をみると、全国流行波の低位に並行して経過しており、春から初夏の流行波は前年よりやや低く、第 19 週 (1.27 人/定点) から第 26 週 (1.29 人/定点) にかけて台地状に推移し、以後緩やかに低下して夏季、秋季の減少期を経て、晩秋、冬季の漸増期(ピーク:第 50 週= 1.65 人/定点)を迎え、04 年に移行している。

最近 10 年間の年定点当り年次推移では、第 1 位 1996 年 55.72 人に次いで 97 年 (50.61 人/定点)、94 年 (50.51 人/定点)、95 年 (50.41 人/定点)、次いで第 5 位が 02 年 (49.85 人/定点)であり、第 6 位 00 年 (49.11 人/定点)、以下 01 年 (48.43 人/定点)、99 年 (45.83 人/定点)、そして第 9 位当年、第 10 位 98 年 (41.87 人/定点)である。 97 年以前は年報告 50.00 人/定点以上、98 年以降は年発生 50.00 人/定点未満であり、減少傾向にある。

ブロック別発生状況は、西多摩圏 (96.20 人/定点) が最多、次いで区東北部圏、北多摩北部圏であり、区西部圏が少なく、また島しょ圏も少数発生であった。罹患年齢は従来とほとんど変りなく、5歳未満が 74.6% (4800 件) と過半数で、10歳未満が大部分を占めており、10歳以上は 3.4% (219 件)で前年 (3.2%、228 件) 並み、20~29歳代も 1.3% (86 件)で昨年 (1.2%、82 件) 並みであった。





キ 手足口病

当年の報告数は 6,872 件 (48.39 人/定点)であり、前年 (22.63 人/定点)に比し 213.8%の倍増であり、過去 10 年間では第 2 位であった。第 1 位は 1995 年 (58.04 人/定点) で、過去 10 年余の大きな流行をみると、1993、95、98、2000、<math>03 年と 2、3 年の間隔で流行が認められる。1995 年の流行後、96 年 (14.94 人/定点)の激減、1998 年 (39.87 人/定点)の流行後、99 年 (5.94 人/定点、過去 10 年で第 10 位)の激減、2000 年 (45.52 人/定点)の流行後の 01 年 (15.02 人/定点)の激減、そして 03 年の流行後の 04 年は非流行が期待される年に当る。

2003 年の流行推移をみると、第 23 週から漸増し、第 29 週 (5.93 人/定点)のピークの後、減少して第 36 週に至る一峰型流行であった。地域別発生状況では、区東部圏、区東北部圏、西多摩圏に多く発生し、北多摩西部圏で少なかった。罹患年齢は $1 \sim 3$ 歳児 (3,716 人) が 54.1%を占め、 $1 \sim 5$ 歳児 (5,374 人) では 78.2%を占めた。

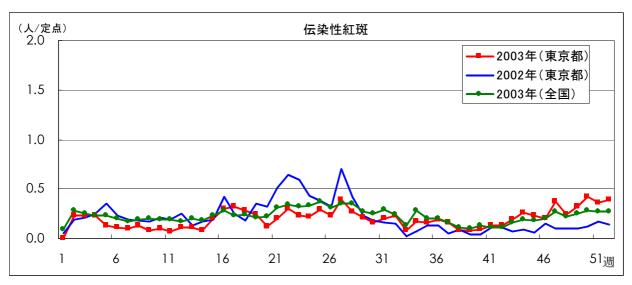




ク 伝染性紅斑

当年の報告数は 1,471 件 (10.36 人/定点)で、前年 (11.08 人/定点)比 93.5%の横這いであり、過去 10 年では第 7 位であった。この 10 年間余の流行疫学では、1992 年 (26.90 人/定点)の流行後、93 年から 3 年間の非流行期があり、96 年 (19.82 人/定点、過去 10 年第 1 位)の流行後、97 年 (11.89 人/定点)、98 年 (11.92 人/定点)、99 年 (8.07 人/定点)の非流行期を経て、2000、01 年の小流行があり、02 年、03 年と非流行年が続いた。本症は $2 \sim 3$ 年の周期で弱い流行発生をみるようである。感染症予防法施行以前の疫学統計でも 1986 年 (49.4 人/定点)、87 年 (31.4 人/定点)と流行後、3 年の非流行期を経て1991 年 (33.50 人/定点)、92 年 (26.90 人/定点)の流行が知られている。

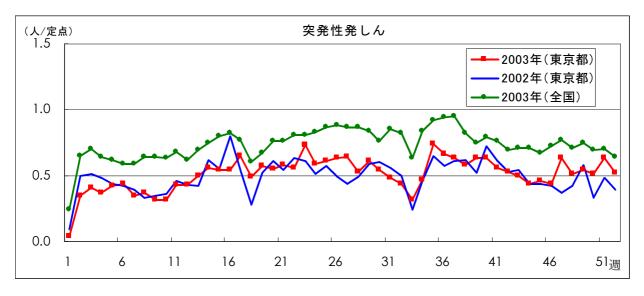
当年の罹患年齢別分布では、 $1 \sim 5$ 歳 52.9% (778 件)、 $6 \sim 8$ 歳 28.7% (422 件)であり、地域別発生状況は区南部圏、北多摩北部圏、区西南部圏に多く、西多摩圏、北多摩南部圏に少なかった。

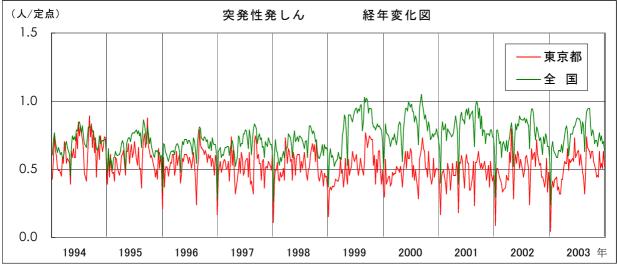




ケ 突発性発しん

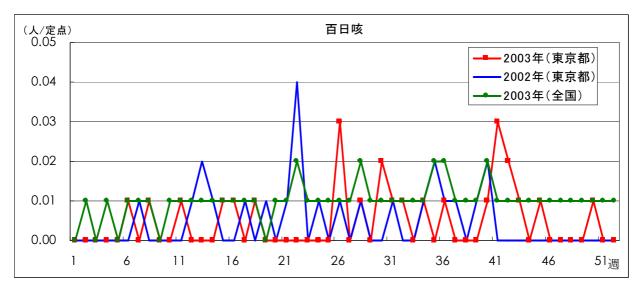
当年の本症年間報告数は 3,777 件(26.60 人/定点)であり、前年(25.58 人/定点)比 104.0%と前年並の報告であり、過去 10 年では第 7 位であった。年間報告数は多少動揺があるが、患者発生数の推移は、毎年同じようなパターンである。患者報告数は毎年、夏期にやや多くなる傾向があり、罹患年齢は 2 歳未満が極めて多く、当年も 96.7%(3,654 件)を占めている。最近 10 年間の定点当り年間報告数順位は、94 年 32.75 人、95 年 29.75 人、96 年 28.46 人、99 年 27.12 人、97 年 27.04 人、98年 27.04 人、当年、2000 年 25.80 人、02 年 25.58 人、01 年 24.70 人の順であり、長期的にみれば微減傾向にみえるが、前年比横這い状態が続いている。地域別発生状況に特徴はみられない。

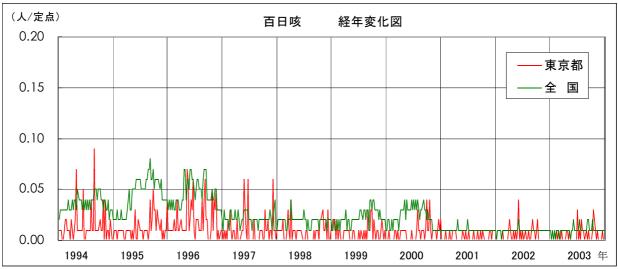




コ 百日咳

2003 年の年間報告数は 34 件(0.24 人/定点)で、前年(32 件、0.23 人/定点)比 104.3%の横這いで、過去 10 年で第 8 位。97 年以来、年間 100 件未満、01 年以後は 50 件未満の報告である。 最近 10 年間で 100 件以上の報告は 94 年(101 例)と 96 年(143 件)であった。年間定点当り報告数では、1987 年以降 1 人台が続き、93 年からは 1 人未満となり、1998 年から 0.5 人未満である。百日咳ジフテリア破傷風混合ワクチンの普及の成果と思われる。2003 年の発生患者の罹患年齢は、6 か月未満 4 件、7~12 か月未満が 11 件であり、12 か月未満が 44.1%(15 件)を占める。乳児期の予防接種完了の促進が望まれる。 1~5 歳 11 件、学童例も散見される。流行季節は百日咳が流行していた頃は春秋の季節に多発していたが、少数発生の現在では季節的特徴は明かでない。ブロック別発生状況では区東北部圏に 15 件の報告が目立った。

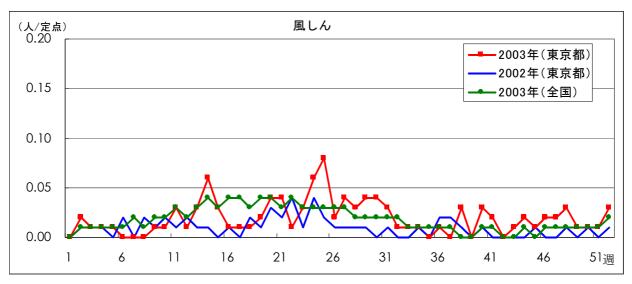


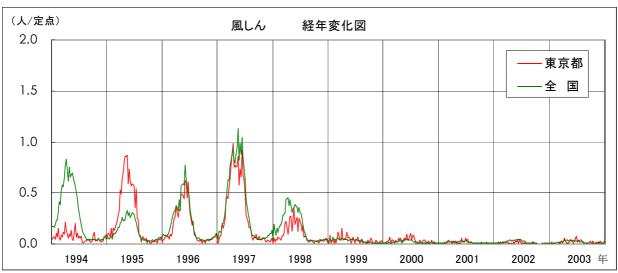


サ 風しん

2003 年の年間報告数は 143 件 (1.01 人/定点)で、前年 (0.50 人/定点) 比 201.4%の倍増であり、98 年 以来の連続減少が中断し、過去 10 年間で第 8 位であった。経年変化図によれば、風しんの流行は全国では 1992 年を中心に 3 年間の流行期があったが、東京では同期の 93 年 (9.60 人/定点) の発生数は多くなく、94 年は減少した後、増加傾向を辿り、97 年 15.75 人と増加したが、98 年 (5.11 人/定点)、99 年 2.01 人、2000 年 1.59 人、01 年 0.80 人、02 年 0.50 人 (過去 10 年間最少) と連続的に減少した後の当年の増加であった。

当年罹患年齢分布は 2 歳未満 14.0% (20 件)、 $2\sim5$ 歳 25.2% (36 件)、 $6\sim9$ 歳 14.7% (21 件)であり、ブロック別発生状況は、北多摩北部圏、南多摩圏にやや多く発生をみたほか、少数散発であった。かつて経験した数年おきの大きな流行はなくなったが、風しん抗体保有率の低い $1979\sim87$ 年生れの年齢層にワクチン接種の不徹底が憂慮される。この 4 年間に先天風しん症候群 4 例が出生している。

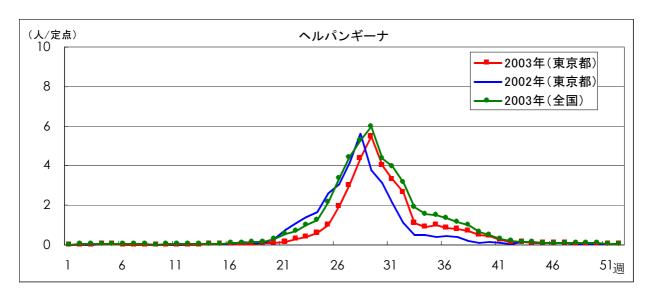


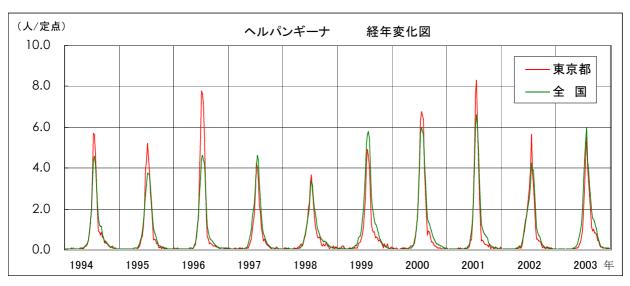


シ ヘルパンギーナ

当年の年間報告数は 5,064 件 (35.66 人/定点)で、前年 (35.68 人/定点)比 99.9%の横這いであり、過去 10 年間で第 8 位の報告数である。当年の流行は第 25 週 (1.03 人/定点)から第 35 週 (1.02 人/定点)に及ぶ単峰型流行で、ピークは第 29 週 (5.49 人/定点)であった。これは、2002 年のピーク (第 28 週 ; 5.63 人/定点)より低く、本年の全国流行像のピーク (第 29 週、5.97 人/定点)よりも低い。本症は毎年流行を繰り返しているが、過去 10 年間の定点当り年報告では、最多は 96 年 50.42 人で、第 2位 2000 年 46.32 人、第 3 位 01 年 44.46 人/定点、次いで 99 年、94 年、02 年、第 7 位当年、95 年、98年、第 10 位 97 年の順であった。過去の年間発生のピークの最高値は 01 年 (第 28 週 ; 8.31 人/定点)であり、第 2 位 96 年 (第 27 週の 7.77 人/定点)、第 3 位 2000 年 (第 28 週 ; 6.76 人/定点)で、定点当り年間報告数の最多は 1987 年 56.2 人であった。

当年の罹患年齢は 1 ~ 3 歳 (2,926 件)が 57.8 %を占め、年齢別頻度は例年同様であり、ブロック別発生状況では、北多摩北部圏、南多摩圏、区東部圏、区東北部圏に多く、北多摩西部圏、北多摩南部圏に少なかった。



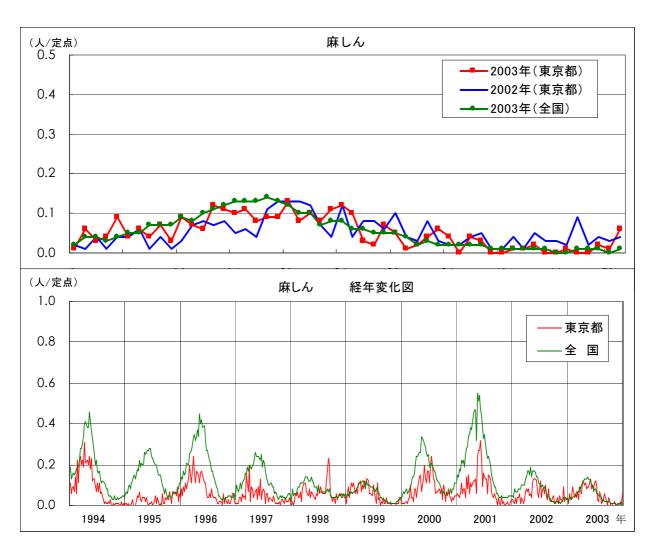


ス 麻しん (成人麻しんを除く) (麻しん様疾患)

2003 年の年間報告数は 376 件(2.65 人/定点)で、前年(2.65 人/定点)に比べ1件少なく、過去 10年間では第 8 位であった。当年の流行は第 14 週(0.12 人/定点)よりり緩やかに増加し始め、第 21 週(0.13 人/定点)に低いピークを作り、初夏に向って緩やかに減少し、第 27 週(0.10 人/定点)以後低値となった。十数年前に比べると、麻しんは確かに減少したが、世界の先進国と比べると、わが国は麻しん多発国であり、今後の麻しん対策に努力を要する。

最近の麻しんの流行は 91 年であり、東京の定点当り発生数は 20.90 人で、これに匹敵する規模の流行はないが、93 年 9.70 人、96 年 4.04 人、01 年 4.42 人(いずれも年定点当り)に小流行があり、その間は低位発生で経過している。また、東京の流行状況は、過去 10 年を通じて全国レベルと平行しながら、なお低位にある。

当年の流行をブロック別にみると、西多摩圏、北多摩北部圏、区東北部圏に多く、区西部圏、区西北部圏に少ない傾向があるが、発生数も少なく、特異的ではない。罹患年齢分布は、2歳未満(93件)24.7%、2~5歳(92件)24.5%であり、10歳以上(112件)29.8%(01年26.4%、2000年21.4%、99年17.9%、02年31.6%)であって、年長者麻しんが増加傾向にある。これは基幹定点からの成人麻しんの年次的増加傾向からも理解されるところで、ワクチン非接種者や接種もれ者、ワクチン接種不応者などの蓄積による局地発生と判断される。10歳以上の麻しん罹患者は1987~88年頃は5%弱であったが、1994年12.4%、95年17.3%、96年17.0%、97年13.7%、98年15.6%、99年17.9%と年々上昇している。また、ワクチン歴がある年長児の罹患や麻しんの再感染も注目されてきた。

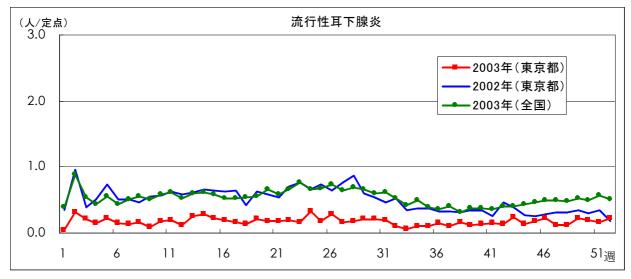


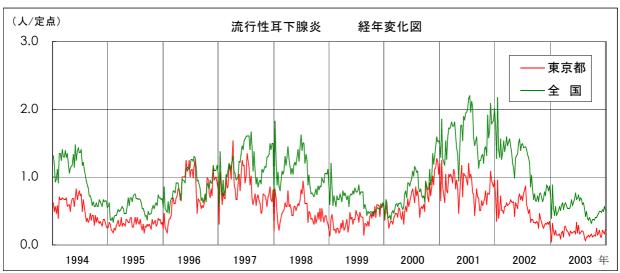
セ 流行性耳下腺炎

2003 年の年間報告数は 1,290 件 (9.08 人/定点)で、前年 (25.90 人/定点) 比 35.1%の激減であり、過去 10 年では第 10 位である。本症は春から初夏にかけて流行する傾向があるが、当年の流行状況は全国流行状況の低位に併行しながら、微変動を示した。年初第 2 週前後、第 13 ~ 14 週前後、第 24 ~ 26 週、第 43 週に小発生をみるが、10 年単位でみると、非流行期の変動範囲であった。

当年の罹患年齢は、5 歳未満(543 件)42.1%、5 ~ 9歳(594 件)46.0%、10 ~ 14歳(93 件)7.2%、15歳以上(60 件)4.7%で、例年と変りない。ブロック別発生状況は、南多摩圏、区東北部圏、西多摩圏に多く、北多摩南部圏、区中央部圏で少なかった。

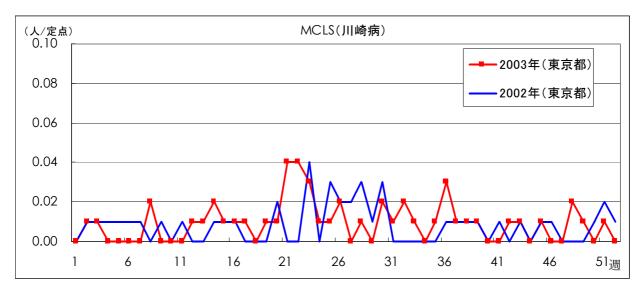
過去 10 年間の流行像をみると、第 1 位は 2001 年 (44.25 人/定点)であり、第 2 位 97 年 (42.93 人/定点)、以下 96 年 (39.87 人/定点)、2000 年 (33.83/定点)、94 年 (27.17/定点)、98 年 (26.15 人/定点(2)、第 7 位 02 年、第 8 位 99 年、第 9 位 95 年 (15.93 人/定点)、第 10 位当年であった。過去 10 年の経年変化図から、流行性耳下腺炎は第 2 年目をピークとする 3 年続きの流行があり、1 ~ 2 年の非流行期を挟んで流行を繰り返しているようである。

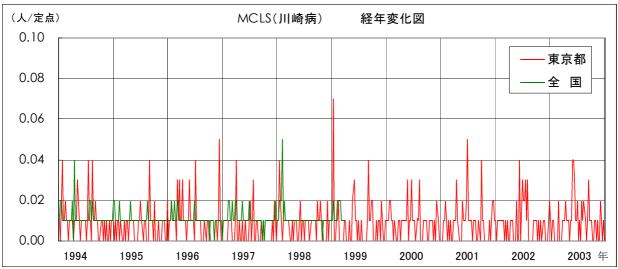




ソ MCLS (川崎病)

本症は東京都単独の調査対象疾患である。2003年の報告数は66件(0.46人/定点)で、前年(O.42人/定点)比109.5%の横這い状態である。MCLSは近年大きな流行がなく、最近10年間の最多報告年は1999年の76件(0.54/定点)で、最少報告年は97年の39件(0.27/定点)であり、当年は第5位であった。当年の発生報告が春から初夏にやや多いようにみえるが、少数発生で明らかではなく、年齢分布では乳幼児期に多い傾向がみられるが、地域別発生状況に特徴はない。



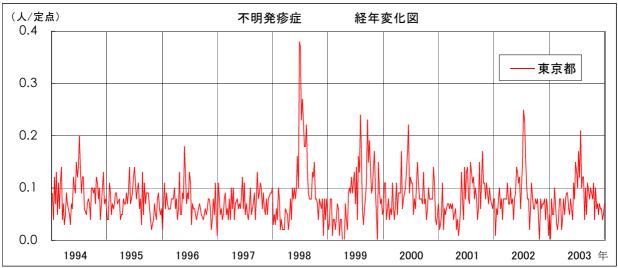


タ 不明発疹症

本症も東京都単独の調査対象疾患で、エンテロウイルスによる夏かぜ発疹症を想定している。

本年の報告数は 579 件(4.08 人/定点)で、前年(4.32 人/定点)比 94.4%の横這い状態で、10 年間で第7位である。この 10 年間の発生状況では、大きな流行はなく、最多報告は 98 年(5.00/定点)、次いで 94 年(4.57/定点)、2000 年(4.54/定点)、以下 99 年、02 年、01 年、03 年、95 年、97 年、第 10位は 96 年であった。当年の発生状況をみると、例年のように夏期に増加する傾向がみられる。罹患年齢は、3 歳未満 (381 件) が 65.8% を占めていた。ブロック別発生状況では、南多摩圏、北多摩北部圏、区東北部圏に多い傾向であるが、特徴はみられない。





(3)眼科疾患

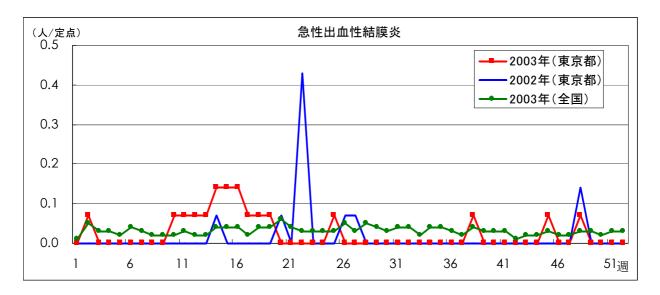
ア 急性出血性結膜炎

2003年の報告数は 18 例 (定点あたり 1.29 人) で、前年の報告数 12 例 (定点あたり 0.86 人) より増加していたが、ほぼ例年のレベルであった。東京都では 1994年以後定点あたり 2.00 人以下の低い発生数で推移している。

患者発生数推移には大きな偏りがみられ、3 月の第 10 週から 5 月の第 19 週までの 10 週間に連続して 13 例が発生し、全体の 4 分の 3 を占め、残り 5 例は 1 例ずつ年間にわたり散発していた。

地域的にも偏りがあり、約 60%の 11 例が多摩東村山からの報告で、6 例が 23 区部、残り 1 例が 町田からの報告であった。

罹患年齢は、9歳の1例を除き全て20歳以上の成人に発生しており、20歳代30歳代で13例を数えた。





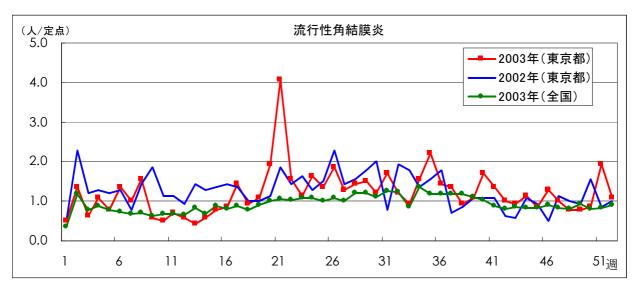
イ 流行性角結膜炎

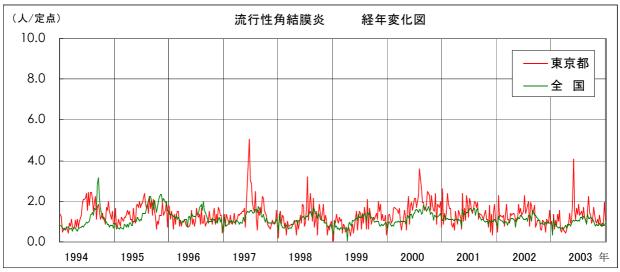
2003年の報告数は880例(定点あたり62.86人)で、前年の報告数925例(定点あたり66.07人)の95.1%と連続して減少し、ほぼ例年通りの水準であった。

患者発生数推移は第 21 週を除けばほぼ平均していた。第 21 週には大田区の定点施設で院内感染があり 36 例の報告があがったが、迅速的確な対策がとられたため翌第 22 週以降は 2 例以下と感染拡大が予防された。その他には第 35 週に定点あたり 2 例を超えるピークがあっただけで、一年を通じてほぼまんべんなく定点あたり 2 名以下の発生が認められた。全国との比較では、3 月から 4 月にかけての 8 週間を除き、わずかながら全国を上回るレベルでの発生を認めた。

地域的には、新宿区(158例)、文京(143例)が目立っていたが、これは例年のことで、角結膜疾患を専門とする大学施設が定点に含まれていることの影響があると考えられた。また、23区部での発生が669例(76.0%)と多かった。

罹患年齢は、20 歳から 39 歳が 423 例と約半数を占め、20 歳から 59 歳が 624 例 (70.9%) であった。10 歳未満の71 例 (8.1%) は各年齢層に分散して発生していた。

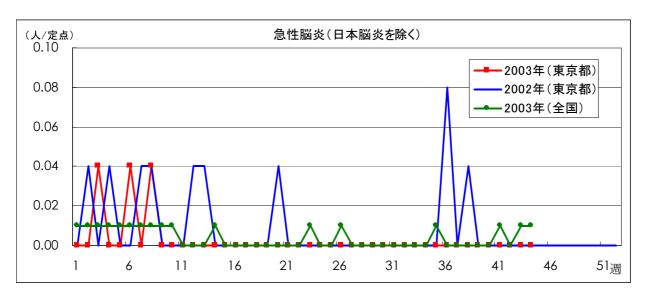


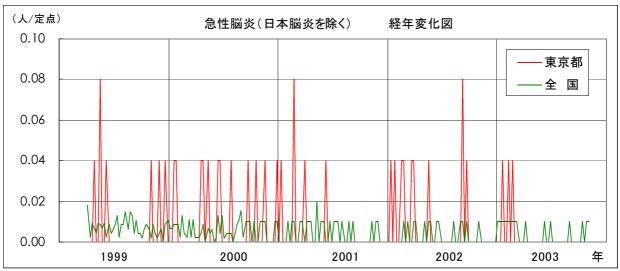


(4) 基幹定点における週報告疾病

ア 急性脳炎(日本脳炎を除く)

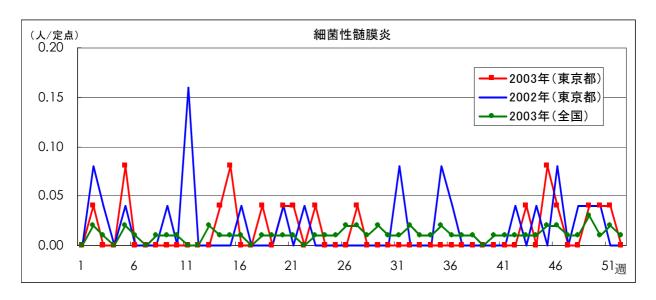
2003 年の急性脳炎患者報告数は 3 件 (0.12 人/定点) (男: 女= 2:1)であり、前年 (10 件、 0.40 人/ 定点) の 1/3 に減少したが、この 5 年間 3 件から 12 件の間を、隔年増減を繰り返している。当年は 1 ~ 2 月 (第 3 週、第 6 週、第 8 週に各 1 件) に発生しており、地域は墨田区、池袋、多摩小平と分散して、罹患年齢は 12 か月未満、1 歳、20 ~ 29 歳であった。

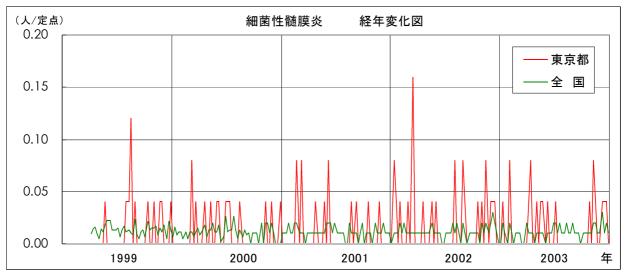




イ 細菌性髄膜炎

2003 年の細菌性髄膜炎患者報告数は 18 件 (0.72 人/定点) (男:女= 10:8)であり、前年 $(24 \text{ 件} \times 0.96 \text{ 人/定点})$ に比べ 75%に減少した。発生は、第 12 週から第 23 週の間に 1、2 件の分散報告と第 43 週から第 51 週の間に 1、2 件の分散報告からみて、 $4 \sim 6$ 月に 7 件報告と $11 \sim 12$ 月に 6 件報告は 小流行を思わせるものがあり、また年齢的ににも 12 か月未満 5 件、 $1 \sim 4$ 歳 8 件など集約性をみるが、地域的には世田谷区 7 件以外は分散していて、地域的特徴も認められない。

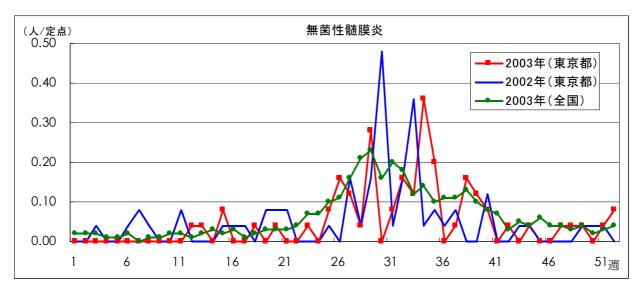


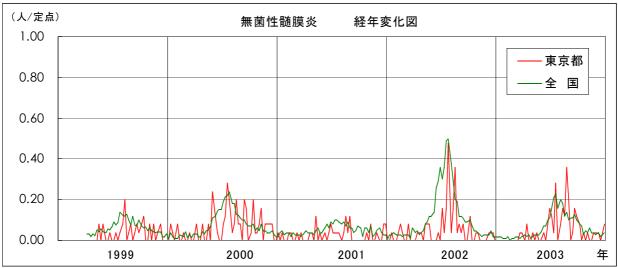


ウ 無菌性髄膜炎

2003 年の無菌性髄膜炎患者報告数は 66 件 (2.64 人/定点)であり、前年 (66 件、2.64 人/定点)と同数である。発生時期は、66 件 (男: 女= 38: 28) 中 49 件 (74%) (男: 女= 28: 21) が第 25 週から第 39 週の間に報告された。同期間は 6 月中旬から 9 月の夏期シーズンであり、エンテロウイルスによる無菌性髄膜炎が想定される。罹患年齢は 2 歳未満 10 件、2 ~ 6 歳 16 件、7 ~ 14 歳 11 件、15 ~ 19 歳 4 件、20 ~ 69 歳 24 件であり、発生地域に区東部圏が多く、その他は分散しており、特徴はない。ウイルス検出情報では、第 28 ~ 35 週の間の無菌性髄膜炎患者から Echo 13 が 36 株検出されて

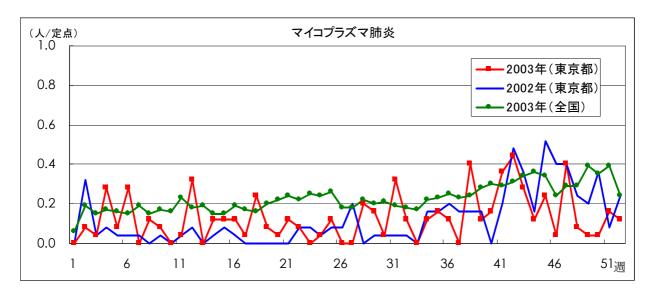
ウイルス検出情報では、第 $28\sim35$ 週の間の無菌性髄膜炎患者から Echo 13 が 36 株検出されている。





エ マイコプラズマ肺炎

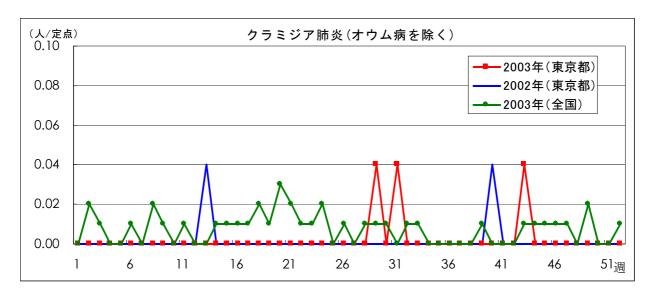
感染症予防法施行以前の定点観測疾患「異型肺炎」に代り基幹定点からの確定診断を伴う報告対象疾患である。2003年の本症患者報告数は173件(6.92人/定点)であり、3年連続の非流行期後の02年(163件、6.52人/定点、01年比362%)に続く流行で、過去5年間最大の発生であったが、02年比103%で横這い連続流行であった。本症は秋期から冬期に集約する傾向があり、当年も第28週から第47週にかけて100件(57.8%)の報告(02年は第34~50週にかけて114件;69.9%)をみた。罹患年齢は2~5歳38.2%(66件)、6~9歳26.0%(45件)、10~14歳18.5%(32件)であり、地域的には区西北部圏に多い傾向がみられた。

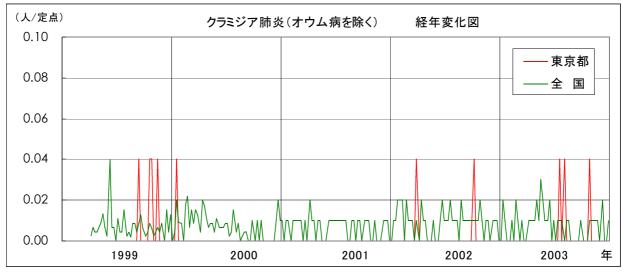




オ クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

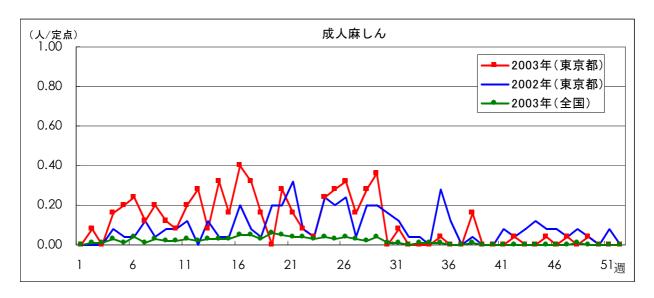
2003 年のクラミジア肺炎患者報告数は 3 件 (0.12/定点) (第 29 週、第 31 週、第 43 週) (7 歳、 $10 \sim 14$ 歳、 $40 \sim 49$ 歳) であり、02 年より 1 件多く、01 年は報告なく、2000 年は 1 件であった。

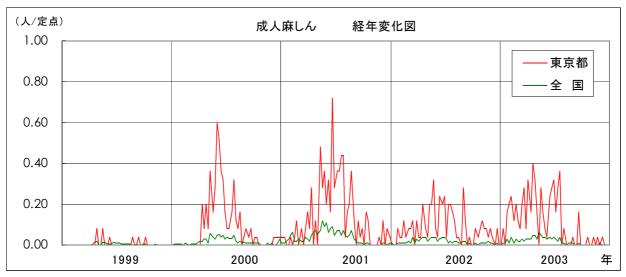




カ 成人麻しん

2003 年の成人麻しん患者報告数 144 件 (5.76 人/定点)であり、前年 (4.64 人/定点)比 124.1%の増加であった。当年の患者発生は年間通じて散発しているが、第 11 週から第 29 週の間に 103 件 (71.5%)が報告された。罹患年齢は 15 \sim 19 歳 20 件、20 \sim 29 歳 82 件、30 \sim 39 歳 31 件、40 \sim 49 歳 7 件、50 \sim 59 歳 4 件であり、地域的には区東部圏に多く発生した。

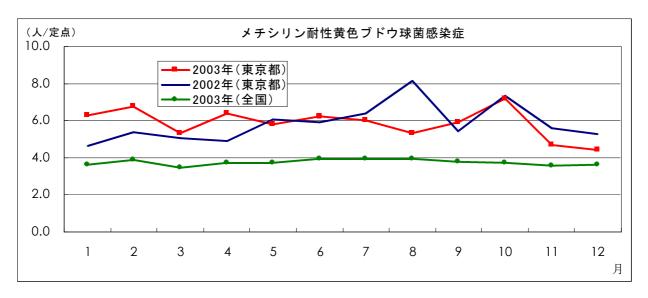


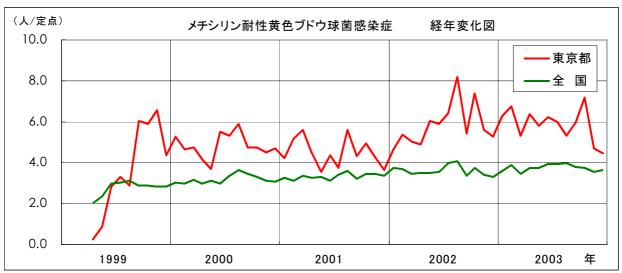


(5) 基幹定点における月報告疾病

ア メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

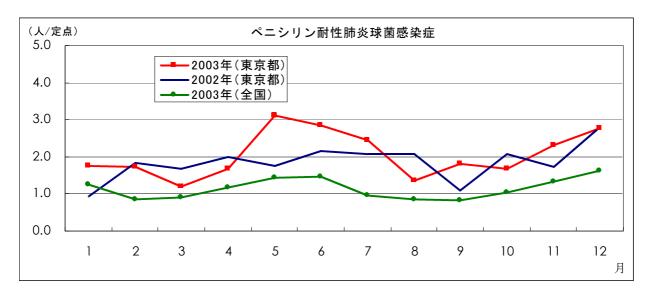
2003 年のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 感染症患者報告数は 1,757 件 (70.28 人/定点)であり、男子 1,199 件、女子 558 件で男: 女= 2:1 である。前年の男子 1,140 件、女子 619 件、計 1,759件 (70.36/定点) に比べ男子 105.2%、女子 90.1%、合計 99.9%の横這いであるが、調査開始以来増加傾向がみられる。月別報告をみると、男子は月報告数 72 件から 117 件に分散しており、女子は月報告数 26 件から 64 件に分散し、夏期にやや多い傾向があるが、季節差は明かでない。罹患年齢は男女とも 4 歳以下と男性は 55 歳以上、女性は 65 歳以上に多い傾向がみられる。

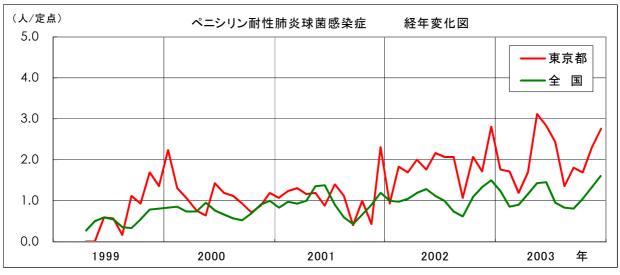




イ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

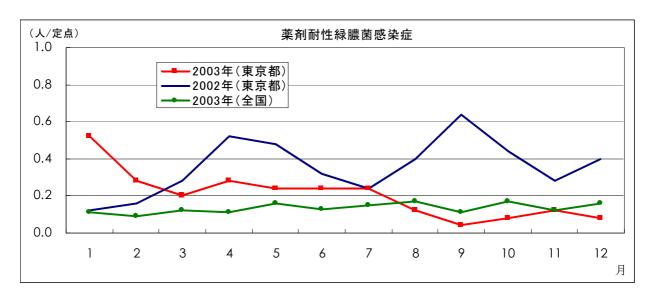
2003 年のペニシリン耐性肺炎球菌 (PRSP) 感染症患者報告数は 617 件 (22.28 人/定点) で、男子 366 件、女子 251 件、男: 女= 1.5:1 である。前年 (男子 333 件、女子 224 件、計 557 件) と比べると、男子 109.9%、女子 112.1%であり、合計では 110.8%の軽増である。月別患者報告状況は、男女とも 5 ~ 7 月にやや多い傾向をみるが、明らかでない。患者の年齢分布は、男女とも 4 歳以下と 70 歳以上に多かった。

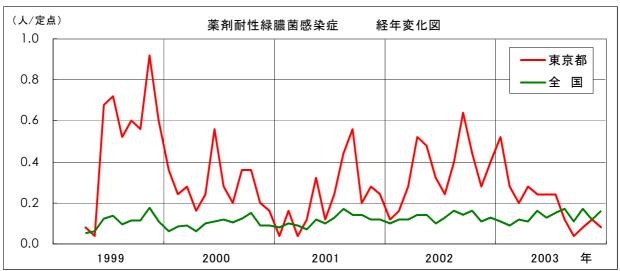




ウ 薬剤耐性緑膿菌感染症

2003 年の薬剤耐性緑膿菌感染症の報告数は 61 件(2.44 人/定点)で、男子 53 件、女子 8 件、男:女= 6.5:1 である。前年(男子 81 件、女子 26 件、計 107 件)と比べて、男子 65.4%、女子 30.8%の減少、合計では 57.0%の半減であった。罹患年齢は男女とも 4 歳以下にやや多く、65 歳以上に多い傾向がみられるが、明らかでない。月別患者報告数が多くなく、好発季節も明らかな傾向を見出せない。



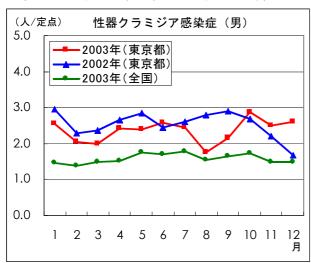


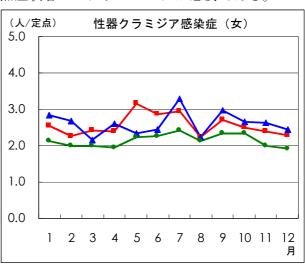
(6) 性感染症

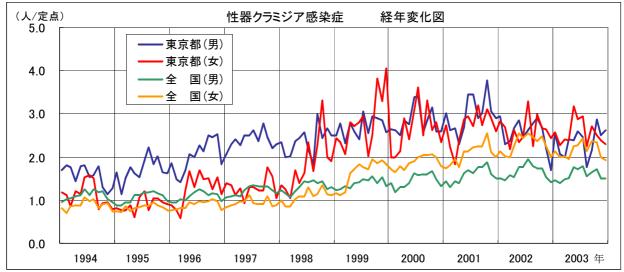
2003 年、東京都のSTI定点からの総報告数は 5,504(5,725)で、前年から 4.0 %の減少である。 内訳は男子 2,870(2,955)、女子 2,634(2,770)である(カッコ内は 2002 年、以下同様)。男子は 3.0 %、女子は 2.2 %とともに減少。最多疾患は性器クラミジア感染症 2,422(2,536)、以下淋菌感染症 1,298(1,249)、性器ヘルペス 865(950)、尖圭コンジローマ 618(502)。トリコモナス 343(447)、梅毒様疾患 68(41)で症例数の順位は前年同様である。増加がみられたのは尖圭コンジローマ、梅毒である。全体としては前年とほぼ同様であり、1992 年の在日タイ人女子HIV感染者多数の報道による東京都及び全国の淋菌報告数の約半数への激減、1998 年以降の核酸増幅検出法の普及によるとくに女子でのクラミジアの倍増のような激変はそれ以降起きていない。

ア 性器クラミジア感染症

報告数は男子 1,161 (1,251)、女子 1,261 (1,285)で、前年と同じく女子が男子を上回った。若年女子のクラミジア陽性率は 5 %前後、既往を示す抗体陽性率は 25 %前後で、この状況はクラミジア抗体が検出可能となった 1980 年代後半から現在まで、また日本各地で不変であり、その間に行われたクラミジアに対する医療は効果をあげていない。臨床的検出法がなく、その存在すらも不明であった本症はPCRの普及により一転して「起因菌検出が最も容易、確実な感染症」となり、アンプリコアPCRの使用量は日本で年間百万アッセイに達しているにもかかわらずである。女子で症状を欠く本症は、病院での対処では抑止できず、無症状者のスクリーニングが必要である。

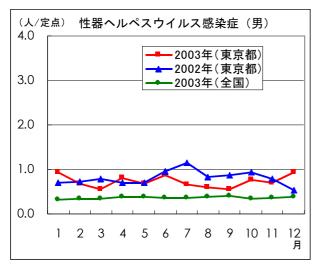


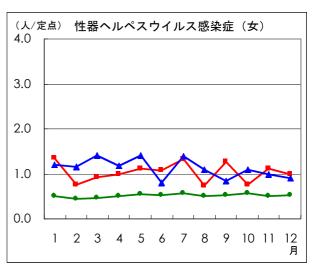


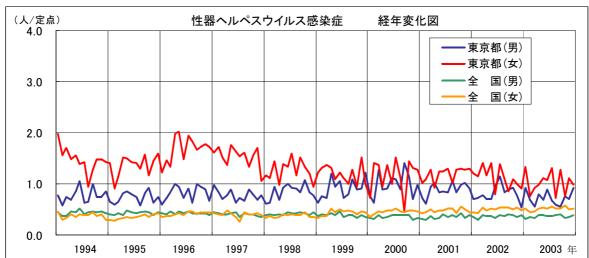


イ 性器ヘルペスウイルス感染症

報告数は男子 358 (397)、女子 507 (553)。男女比1:1.42 で、本症の症状が女子で激しく受診機会が多いことをうかがわせる。ヘルペスウイルスには1型、2型の血清型があり1型は上半身、2型は下半身とすみわけるといわれる。衛生状況の向上、少子化に伴い小児期の口唇ヘルペスは減少し、成人期のヘルペス抗体保有率は30年前の90%超から約50%に減少している。1型、2型抗体間の交叉は不完全で、同一個体の両者の感染も生じ得るが、成人期になっての初感染による本症の増加が生じていると考えられる。

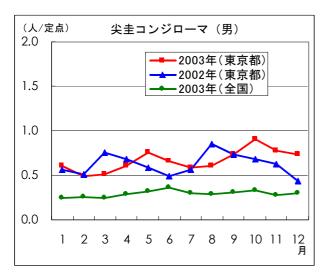


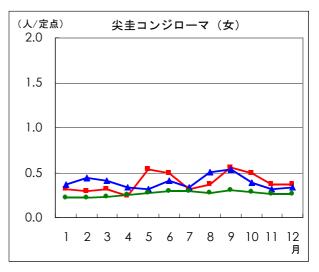


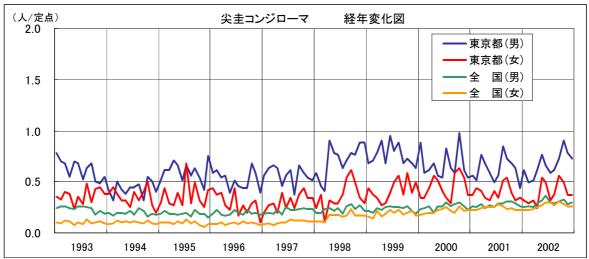


ウ 尖圭コンジローマ

報告数は男子 327 (308)、女子 191 (194)。男女比 1.71:1 で、視認による本症の自、他覚が女子で困難であることが示唆される。ヒトパピローマウイルスは培養不能であり。抗体検出法もなく感染の自然史は未だ不詳である。ようやくウイルスの多数の遺伝子型を、「子宮癌の原因となる高リスク群」と「尖圭コンジローマの原因である低リスク群」とに大別して検出するハイブリッドキャプチャー法が輸入許可となり、ウイルス検出率の高さと本症発症数の少なさとの関係の解明が期待される。

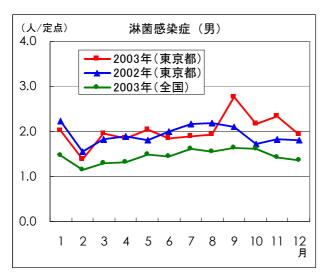


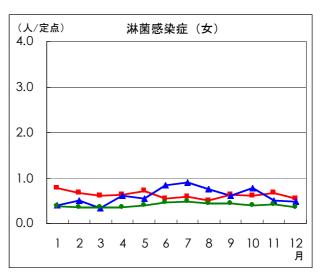


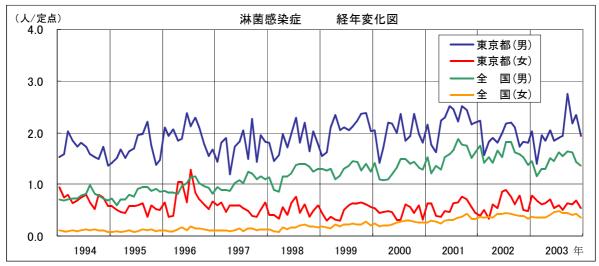


工 淋菌感染症

報告数は男子 990 (950)、女子 308 (299)。男女比は 3.2:1。欧米では 20 世紀前半に 5:1 程度であった本症の男女比は 1970 年には 1:1 に近づき、「少数の女子 C S W による多数の男子の感染」から「女子の性活動の自由度の男子との均等化」による男女比の激変が記録されている。S T I の専門クリニックがなく、男子、女子が泌尿器科、婦人科で別々に診療される日本では、個々の診療内容に相違が大きく、報告数の男女比がそのまま実体であるとは考えにくい。経験的には男子淋菌性尿道炎の感染源は、咽頭の場合も含めて C S W である場合が多い。クラミジアの高感度検出法が未普及であった 1996 年以降、6 年振りにはじめて、本年 8 月、9 月の男子淋菌報告数が男子クラミジアを上回った。女子の報告数が男子を上回るクラミジアとは相違し、女子は男子の 1/4 程度で抑制が比較的容易である本症の報告数が、短期間ではあるがクラミジアを上回ったのは淋菌の耐性増加の影響であると思われる。

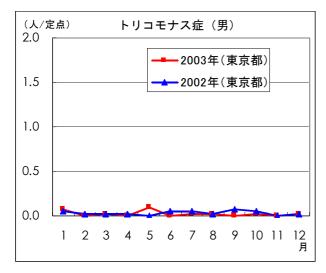


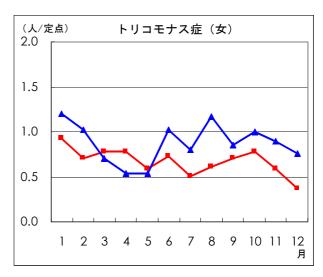


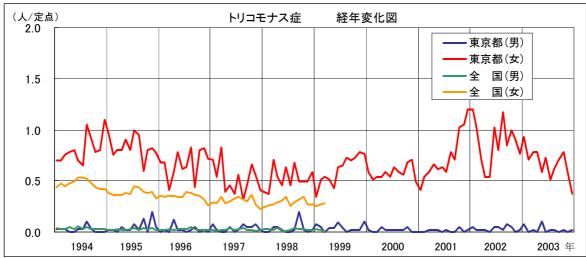


オ トリコモナス症

報告数は男子 12 (16)、女子 331 (431) で、男女比は 1:27.6。一般に女子のSTI感染者の年齢層は男子に比して低いが、本症と再発症例の多いヘルペスとは例外となっている。膣以外への病変の波及がないことなどから、トリコモナスについては淋菌、クラミジアなどと相違して新しい非培養検出法の開発はなされず、経路を含め感染の自然史の解明が遅れている。男子の症例数の少ない理由は、診断の不十分ではなく、モビルンカスなどと同じく男子でのトリコモナスの定着の困難性にあると思われる。

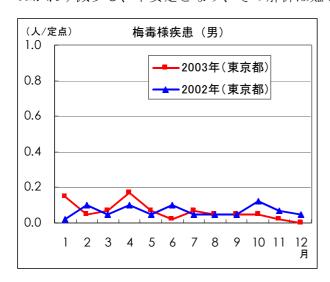


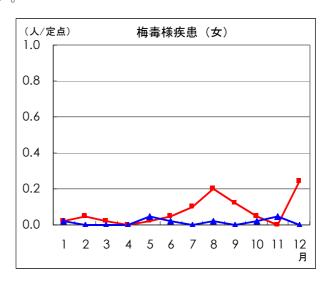


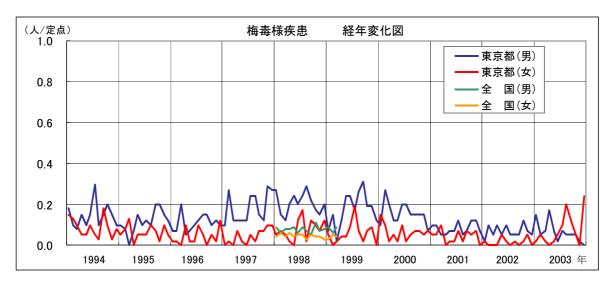


力 梅毒様疾患

報告数は男子 32 (33)、女子 36 (8)。男女比は 1:4.5。1999 年の新感染症法の後にも東京都のみで継続された本症の定点スクリーニングによる報告数は、「定点数の変更により連続性の失われた全国のSTI報告数」について、変更前後の報告数の推移把握のための唯一の手がかりとなるものと期待されたが、「前年号の本欄」、「本号の本年の概況」に書いた如く報告基準による修飾をまぬがれず減少し、不安定となり、その解析は難しい。







第4表-1-1 週別患者発生数推移表(インフルエンザ・小児科) 2003年第1週~2003年第52週

			/\														人
		1	501		; J	601	602	603	604	605 ±	606 /=:	607	608	609	610	611	612
		ン	イン	ds	* R S	咽 頭	球 A 菌群	感染	水痘	手 足	伝染	突 発	百日	風し	ル	麻 し	流行
		フル	フ	小児	ウ	結	咽溶	性	/立		性	性	咳	ん	パ	ん	性
\m	THE BE	エ	íν	科	Ź	膜	頭血	胃		病	紅	発	~ .	, ,	ン	, 0	革
週	期間	ン	工	定	ル	熱	炎性	腸			斑	し			ギ		下
		ザウ	ン	点	ス		ν	炎				ん			j		腺
		定点	ザ	数	感染		ンサ								ナ		炎
		数			症		9										
1	12.30~ 1. 5	178	291	142	/11.	3	8	145	70	1		5				2	6
2	$1. 6 \sim 1.12$	178	1,779	142		24	51	744	303	8	33	49		3	3	8	45
3	1.13~ 1.19	178	2,946	142		11	61	799	132	6	33	58		1	2	4	30
4	1.20~ 1.26	178	4,692	142		7	88	1,057	150	6	33	52		1	5	6	21
5	1.27~ 2. 2	178	5,004	142		11	78	918	110	3	19	60		1	4	13	31
6	2. 3~ 2. 9	178	4,325	142		10	72	1,065	104	3	15	63	2		3	6	22
7 8		178	2,871	142		11	78	840	110	2	14	49	1	1	3	8	20
9	2. 17~ 2. 23 2. 24~ 3. 2	178 178	1,796 1,155	142 142		10 7	65 61	1,034 869	114 122	8	18 11	52 46	1	1	3	6 10	23 13
10	3. 3~ 3. 9	178	760	142		8	89	873	125	2	14	46		1	2	4	25
11	3. 10~ 3. 16	178	454	142		2	78	905	113	1	10	61	1	4	3	13	29
12	3. 17~ 3. 23	178	196	142		10	86	904	130	6	15	61		2	3	10	17
13	3.24~ 3.30	178	120	142		4	57	846	128	10	15	71		4	2	9	37
14	3.31~ 4. 6	178	60	142		8	65	592	121	12	12	79		8	4	17	40
15	4. 7∼ 4.13	178	11	142		8	80	630	154	20	29	77	1	4	6	15	31
16	4. 14~ 4. 20	178	7	142		16	84	712	107	15	42	77	1	2	10	14	28
17	4. 21~ 4. 27	178	7	142		6	111	594	152	25	45	92	-	1	5	16	24
18 19	$4.28 \sim 5.4$ $5.5 \sim 5.11$	178 178		142 142		17 21	75 87	467 437	117 180	17 22	40 34	71 81	1	3	7 11	10 13	21 30
20	$5. 12 \sim 5.18$	178		142		27	134	459	166	60	17	78		6	16	13	25
21		178		142		31	149	586	131	100	29	83		5	18	19	26
22	5. 26~ 6. 1	178	1	142		36	134	575	177	117	43	79		1	43	11	29
23		178		142		56	136	552	127	155	33	103		4	61	15	23
24	6. 9∼ 6.15	178	1	142		46	148	532	176	186	31	84		8	88	11	47
25	6.16∼ 6.22	178		142		74	151	425	142	333	41	87		12	146	15	25
26	6. 23~ 6. 29	178		142		60	120	354	183	518	32	90	4	3	279	17	41
27	6.30~ 7.6	178		142		53	86	308	101	652	55	94	- 1	6	445	14	23
28 29	7. $7 \sim 7.13$ 7. $14 \sim 7.20$	178 178		142 142		90 81	82 64	344	99 72	730 842	39 30	75 87	1	5	619 780	3	26 30
30	$7.14 \sim 7.20$ $7.21 \sim 7.27$	178		142		74	66	229	98	687	23	76	3	6	571	10	30
31	7. 28~ 8. 3	178		142		68	51	244	86	520	28	68	2	4	473	7	27
32		178		142		68	27	205	69	423	33	62	2	1	376	2	14
33		178		142		23	15	121	40	197	12	46		1	160	3	8
34		178		142		29	37	182	81	194	24	67	1	2	129	6	15
35		178		142		26	28	222	54	178	23	105			145	8	15
36		178		142		27	47	254	41	151	27	94	2	2	118	5	21
37		178		142		19	32	290	51	105	23	90		4	116		16
38 39		178 178		142 142		17 18	40 47	289 315	47 42	109 81	11 12	83 90		4	102 69	5 4	23 17
40		178		142		16	40	345	45	70	13	90	2	4	63	4	19
_		178		142		11	56	408	55	35	19	79	4	3	36		22
		178		142		7	55	383	74	34	19	78	3		23	1	18
43	10. 20~10. 26	178	1	142		17	77	508	98	29	27	72	1	2	21	2	34
		178	3	142		22	90	613	110	25	37	63		3	16	3	20
_		178	1	142		13	84	693	167	34	32	66	1	1	14		25
_		178	1	142	0	17	88	882	155	26	28	62		3	17	-	31
_		178 178	12 7	142 142	2	18 22	114 128	1,278 1,380	163 203	42 24	53 34	90 73		3	11 10	1	17 17
		178	24	142	10	20	137	1,745	182	18	46	77		1	4		31
		178	56	142	14	32	131	2,035	235	10	59	73	1	1	5	3	27
		178	127	142	18	18	159	2,244	222	9	51	89		2	5	1	23
		178	299	142	20	23	134	1,970	205	10	55	74		4	7	9	32
	合 計		27,007		68	1,353	4,261	35,718	6,439	6,872	1,471	3,777	34	143	5,064	376	1,290

*:2003年45週より新たに追加指定された。

第4表-1-2 週別患者発生数推移表(眼科·基幹·小児科) 2003年第1週~2003年第52週

				人							人			人
			701	702		901	902	903	904	905	906		1	2
			急	流		(急	細	無	マノ	(ク	成		不	M
		眼	性 出	行 性	基	日性 本脳	菌性	菌性	イコ	オラウミ	人麻	小児	明 発	C L
		科	血	角	幹	脳炎	髄	髄	プ	ムジ	L	科	疹	S
週	期間	定	性	結	定点	炎*	膜	膜	ラ	病ア	$\tilde{\lambda}$	定	症	
		点数	結	膜	点数	を	炎	炎	ズ	は肺		点		
		数	膜	炎	数	除			マ	除炎		数		
			炎			<			肺	<				
)			炎)				
1	12.30∼ 1. 5	14		7	25							142		
2	1. 6∼ 1.12	14	1	19	25		1		2		2	142	12	1
3	1.13~ 1.19	14		9	25	1			1			142	7	2
4	1.20~ 1.26	14		15	25				7		4	142	7	
5	1.27~ 2. 2	14		11	25		2		2		5	142	14	
6	2. 3~ 2. 9	14		19	25	1			7		6	142	4	
7	2.10~ 2.16	14		14	25						3	142	3	
8	2.17~ 2.23	14		22	25	1			3		5	142	5	3
9	2.24~ 3. 2	14	-	8	25				2		3	142	11	
10	3. 3~ 3. 9	14	1	7	25				4		2	142	12	
11	3.10~ 3.16	14	1	10	25			-	1		5	142	3	-
12	3.17~ 3.23	14	1	8	25			1	8		7	142	5	1
13	3.24~ 3.30	14	1	6	25		1	1	0		2	142	11	1 3
14 15	$3.31 \sim 4.6$ $4.7 \sim 4.13$	14	2	8	25 25		1	0	3		8	142 142	7 12	1
-	$\frac{4.7 \sim 4.13}{4.14 \sim 4.20}$	14	2	11	25 25		2	2	3		10	142	13	1
16	4. 21~ 4. 27	14		20	25				1			142	13	1
17 18	4. 28~ 5. 4	14	1 1	13	25		1	1	6		8	142	10	1
19	5. 5~ 5.11	14	1	15	25		1	1	2		4	142	9	1
20	$5. \ 5 \sim 5.11$ $5. \ 12 \sim 5.18$	14	1	27	25		1	1	1		7	142	11	2
21	5. 19~ 5. 25	14		57	25		1	1	3		4	142	6	5
22	5. 26~ 6. 1	14		22	25		1		2		2	142	16	5
23	6. 2~ 6. 8	14		16	25		1	1			1	142	11	4
24	6. 9~ 6.15	14		23	25		1	1	1		6	142	22	1
25	6. 16~ 6. 22	14	1	19	25			2	3		7	142	18	2
26	6. 23~ 6. 29	14	1	26	25			4	Ü		8	142	14	3
27	6.30~ 7. 6	14		18	25		1	3			4	142	24	
28	7. 7~ 7.13	14		20	25		-	2	5		7	142	17	1
29	7.14~ 7.20	14		21	25			7	4	1	9	142	30	
30	7. 21~ 7. 27	14		17	25				1			142	14	3
31	7.28~ 8. 3	14		24	25			2	8	1	2	142	17	1
32	8. 4~ 8.10	14		17	25			4	3			142	17	3
33	8.11~ 8.17	14		13	25			3				142	6	2
34	8.18~ 8.24	14		22	25			9	3			142	14	
35	8.25∼ 8.31	14		31	25			5	4		1	142	7	1
36	9. 1∼ 9. 7	14		20	25				3			142	16	4
37	9. 8∼ 9.14	14		19	25			1				142	11	1
38	9.15∼ 9.21	14	1	13	25			4	10		4	142	14	2
39	9.22~ 9.28	14		15	25			3	3			142	13	1
40	9.29~10. 5	14		24	25			2	4			142	12	
41	10. 6~10.12	14		19	25				10			142	15	
42	10.13~10.19	14		14	25			1	11		1	142	7	2
43	10.20~10.26	14		13	25		1		7	1		142	14	1
44	10.27~11. 2	14		16	25			1	4			142	9	
45	11. 3~11. 9	14	1	12	25		2		6		1	142	10	1
46	11.10~11.16	14		18	25		1		4			142	7	
47	11. 17~11. 23	14		14	25			1	10		1	142	10	
48	11. 24~11. 30	14	1	11	25			1	2			142	9	3
49	12. 1~12. 7	14		11	25		1	1	1		1	142	8	1
50	12. 8~12.14	14		12	25		1		1			142	5	
51	12. 15~12. 21	14		27	25		1	1	5			142	7	2
52	12. 22~12. 28	14	10	15	25		10	2	3		144	142	10	22
	合 計		18	880		3	18	66	173	3	144		579	66

*:2003年11月5日より「五類(全数)」に分類変更された。

第4表-2-1 週別定点当たり患者発生数推移表(インフルエンザ・小児科) 2003年第1週~2003年第52週

			人/定点													人/定,	点
		イ	501		. D	601	602	603	604	605 ±	606	607	608 	609	610	611	612
		ン	イン	小	* R S	咽頭	球A菌群	感染	水痘	手足	伝染	突 発	百日	風し	ル	麻し	流行
		フル	フ	見児	ウ	結	咽溶	性	/3/2		性	性	咳	$\tilde{\lambda}$	パ	h	性
週	期間	工	ル	科	イ	膜	頭血	胃		病	紅	発			ン		耳
旭	利用	ン ロ	エ	定	ル	熱	炎性	腸			斑	l,			ギー		下响
		ザ 定	ザ	点数	ス 感		レン	炎				ん			ナ		腺炎
		点	,	奴	染		サ										
		数			症												
1	12.30~ 1. 5	178	1.63	142		0.02	0.06	1.02	0.49	0.01		0.04				0.01	0.04
2	1. 6~ 1.12	178	9.99	142		0.17	0.36	5.24	2.13	0.06	0.23	0.35		0.02	0.02	0.06	0.32
3		178	16.55	142		0.08	0.43	5.63	0.93	0.04	0.23	0.41		0.01	0.01	0.03	0.21
4		178	26.36	142		0.05	0.62	7.44	1.06	0.04	0.23	0.37		0.01	0.04	0.04	0.15
5	1. 27~ 2. 2	178	28.11	142		0.08	0.55	6.46	0.77	0.02	0.13	0.42	0.01	0.01	0.03	0.09	0.22
- 6 7	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	178 178	24.30 16.13	142 142		0.07	0.51	7.50 5.92	0.73	0.02	0.11	0.44	0.01	0.01	0.02	0.04	0.15
8	$2.17 \sim 2.23$	178	10.13	142		0.03	0.46	7.28	0.80	0.01	0.10	0.37	0.01	0.01	0.02	0.04	0.14
9	2. 24~ 3. 2	178	6.49	142		0.05	0.43	6.12	0.86	0.01	0.08	0.32	0.01	0.01	0.02	0.07	0.09
10	3. 3∼ 3. 9	178	4.27	142		0.06	0.63	6.15	0.88	0.01	0.10	0.32		0.01	0.01	0.03	0.18
11	3. 10~ 3. 16	178	2.55	142		0.01	0.55	6.37	0.80	0.01	0.07	0.43	0.01	0.03	0.02	0.09	0.20
12	3. 17~ 3. 23	178	1.10	142		0.07	0.61	6.37	0.92	0.04	0.11	0.43		0.01	0.02	0.07	0.12
13	3. 24~ 3. 30	178	0.67	142		0.03	0.40	5.96	0.90	0.07	0.11	0.50		0.03	0.01	0.06	0.26
14 15	$3.31 \sim 4.6$ $4.7 \sim 4.13$	178 178	0.34	142 142		0.06	0.46	4.17	0.85 1.08	0.08	0.08	0.56	0.01	0.06	0.03	0.12	0.28
16	4. 14~ 4. 20	178	0.06	142		0.06	0.56	5.01	0.75	0.14	0.20	0.54	0.01	0.03	0.04	0.11	0.22
17	4. 21~ 4. 27	178	0.04	142		0.04	0.78	4.18	1.07	0.11	0.32	0.65	0.01	0.01	0.04	0.10	0.17
18	4. 28~ 5. 4	178	0.01	142		0.12	0.53	3.29	0.82	0.12	0.28	0.50	0.01	0.01	0.05	0.07	0.15
19	5. 5∼ 5.11	178		142		0.15	0.61	3.08	1.27	0.15	0.24	0.57		0.02	0.08	0.09	0.21
20	5. 12∼ 5. 18	178		142		0.19	0.94	3.23	1.17	0.42	0.12	0.55		0.04	0.11	0.09	0.18
21	5. 19~ 5. 25	178		142		0.22	1.05	4.13	0.92	0.70	0.20	0.58		0.04	0.13	0.13	0.18
22	5. 26~ 6. 1	178	0.01	142		0.25	0.94	4.05	1.25	0.82	0.30	0.56		0.01	0.30	0.08	0.20
23	6. 2~ 6. 8	178	0.01	142		0.39	0.96	3.89	0.89	1.09	0.23	0.73		0.03	0.43	0.11	0.16
24 25	6. $9 \sim 6.15$ 6. $16 \sim 6.22$	178 178	0.01	142 142		0.32	1.04	3.75 2.99	1.24	1.31 2.35	0.22	0.59		0.06	1.03	0.08	0.33
26	6. 23~ 6. 29	178		142		0.42	0.85	2.49	1.29	3.65	0.23	0.63	0.03	0.08	1.96	0.11	0.18
27	6.30~ 7. 6	178		142		0.37	0.61	2.17	0.71	4.59	0.39	0.66		0.04	3.13	0.10	0.16
28	7. 7∼ 7.13	178		142		0.63	0.58	2.42	0.70	5.14	0.27	0.53	0.01	0.03	4.36	0.03	0.18
29	7. 14~ 7. 20	178		142		0.57	0.45	2.23	0.51	5.93	0.21	0.61		0.04	5.49	0.02	0.21
30	7. 21~ 7. 27	178		142		0.52	0.46	1.61	0.69	4.84	0.16	0.54	0.02	0.04	4.02	0.07	0.21
31	7. 28~ 8. 3	178		142		0.48	0.36	1.72	0.61	3.66	0.20	0.48	0.01	0.03	3.33	0.05	0.19
33	8. 4~ 8. 10 8. 11~ 8. 17	178 178		142 142		0.48	0.19	0.85	0.49	2.98 1.39	0.23	0.44	0.01	0.01	2.65 1.13	0.01	0.10
34		178		142		0.10	0.11	1.28	0.57	1.37	0.00	0.32	0.01	0.01	0.91	0.02	0.11
35	8. 25~ 8. 31	178		142		0.18	0.20	1.56	0.38	1.25	0.16	0.74	0.01	0.01	1.02	0.06	0.11
36		178		142		0.19	0.33	1.79	0.29	1.06	0.19	0.66	0.01	0.01	0.83	0.04	0.15
37	9. 8∼ 9.14	178		142		0.13	0.23	2.04	0.36	0.74	0.16	0.63			0.82		0.11
38	9.15∼ 9.21	178		142		0.12	0.28	2.04	0.33	0.77	0.08	0.58		0.03	0.72	0.04	0.16
39	9. 22~ 9. 28	178		142		0.13	0.33	2.22	0.30	0.57	0.08	0.63	0.01	0.00	0.49	0.03	0.12
40		178		142 142		0.11	0.28	2.43	0.32	0.49	0.09	0.63	0.01	0.03	0.44		0.13
41	10. 6~10.12 10.13~10.19	178 178		142		0.08	0.39	2.87 2.70	0.39	0.25	0.13	0.56 0.55	0.03	0.02	0.25	0.01	0.15 0.13
_	10. 20~10. 26	178	0.01	142		0.12	0.54	3.58	0.69	0.24	0.19	0.51	0.02	0.01	0.15	0.01	0.24
44	10. 27~11. 2	178	0.02	142		0.15	0.63	4.32	0.77	0.18	0.26	0.44		0.02	0.11	0.02	0.14
	11. 3~11. 9	178	0.01	142		0.09	0.59	4.88	1.18	0.24	0.23	0.46	0.01	0.01	0.10		0.18
		178	0.01	142		0.12	0.62	6.21	1.09	0.18	0.20	0.44		0.02	0.12		0.22
47		178	0.07	142	0.01	0.13	0.80	9.00	1.15	0.30	0.37	0.63		0.02	0.08	0.01	0.12
48		178	0.04	142	0.03	0.15	0.90	9.72	1.43	0.17	0.24	0.51		0.03	0.07		0.12
49 50		178	0.13	142 142	0.07	0.14	0.96 0.92	12.29 14.33	1.28	0.13	0.32	0.54	0.01	0.01	0.03	0.02	0.22
51		178 178	0.31	142	0.10	0.23	1.12	15.80	1.56	0.07	0.42	0.63	0.01	0.01	0.04	0.02	0.19
		178	1.68	142	0.13	0.16	0.94	13.87	1.44	0.07	0.39	0.52		0.01	0.04	0.01	0.23
	平均		2.92		0.06			4.84	0.87	0.93	0.20	0.51	0.00	0.02	0.69	0.05	0.17
-		_											_				

*:2003年45週より新たに追加指定された。

第4表-2-2 週別定点当たり患者発生数推移表(眼科・基幹・小児科)

2003年第1调~2003年第52调

			1 /字	上 上						2003年	F第1週	<u>1</u> ~20€		
			人/定. 701	 702		901	902	903	904	人/定 905	 906		<u>人/定</u> 1	2
			急	流		(急	細	無	₹ 304	~ ク	成		- 木	M
			性	行		日性	菌	菌	ィ	オラ	人	ı,	明	C
		眼	出	性	基	本脳	性	性	п	ウミ	麻	小児	発	L
		科	血	角	幹	脳炎	髄	髄	プ	ムジ	L		疹	S
週	期間	定	性	結	定	炎*	膜	膜	ラ	病ア	λ	科 定	症	
		点	結	膜	点	を	炎	炎	ズ	は肺	70	点	/11.	1
		数	膜	炎	数	除	<i>y</i> C	90	マ	除炎		数		
			炎	90		<			肺	\(\frac{1}{2}\)		奴		
			<i>5</i> C			Ò			炎	()				
									<i>)</i> (
1	12.30∼ 1. 5	14		0.50	25							142		
2	1. 6∼ 1.12	14	0.07	1.36	25		0.04		0.08		0.08	142	0.08	0.01
3	1.13~ 1.19	14		0.64	25	0.04			0.04			142	0.05	0.01
4	1.20~ 1.26	14		1.07	25				0.28		0.16	142	0.05	
5	1.27~ 2. 2	14		0.79	25		0.08		0.08		0.20	142	0.10	
6	2. 3~ 2. 9	14		1.36	25	0.04			0.28		0.24	142	0.03	
7	2.10~ 2.16	14		1.00	25						0.12	142	0.02	
8	$2.17 \sim 2.23$	14		1.57	25	0.04			0.12		0.20	142	0.04	0.02
9	$2.17 \circ 2.23$ $2.24 \sim 3.2$	14		0.57	25	0.04			0.12		0.20	142	0.04	0.04
_			0.07						0.08			-		
10	3. 3~ 3. 9	14	0.07	0.50	25				0.01		0.08	142	0.08	
11	3.10~ 3.16	14	0.07	0.71	25				0.04		0.20	142	0.02	
12	$3.17 \sim 3.23$	14	0.07	0.57	25			0.04	0.32		0.28	142	0.04	0.01
13	3.24~ 3.30	14	0.07	0.43	25			0.04			0.08	142	0.08	0.01
14	3.31~ 4. 6	14	0.14	0.57	25		0.04		0.12		0.32	142	0.05	0.02
15	4. 7∼ 4.13	14	0.14	0.79	25		0.08	0.08	0.12		0.16	142	0.08	0.01
16	4.14~ 4.20	14	0.14	0.86	25				0.12		0.40	142	0.09	0.01
17	4. 21~ 4. 27	14	0.07	1.43	25				0.04		0.32	142	0.09	0.01
18	4. 28~ 5. 4	14	0.07	0.93	25		0.04	0.04	0.24		0.16	142	0.07	0.01
_							0.04	0.04			0.10	-		0.01
19	5. 5~ 5.11	14	0.07	1.07	25		0.04	0.04	0.08		0.00	142	0.06	0.01
20	5.12∼ 5.18	14		1.93	25		0.04	0.04	0.04		0.28	142	0.08	0.01
21	$5.19 \sim 5.25$	14		4.07	25		0.04		0.12		0.16	142	0.04	0.04
22	5.26∼ 6. 1	14		1.57	25				0.08		0.08	142	0.11	0.04
23	6. 2∼ 6. 8	14		1.14	25		0.04	0.04			0.04	142	0.08	0.03
24	6. 9∼ 6.15	14		1.64	25				0.04		0.24	142	0.15	0.01
25	6.16~ 6.22	14	0.07	1.36	25			0.08	0.12		0.28	142	0.13	0.01
26	6.23~ 6.29	14		1.86	25			0.16			0.32	142	0.10	0.02
27	6.30~ 7. 6	14		1.29	25		0.04	0.12			0.16	142	0.17	
28	7. 7~ 7. 13	14		1.43	25		0.01	0.08	0.20		0.28	142	0.12	0.01
29	$7.14 \sim 7.20$	14		1.50	25			0.28	0.16	0.04	0.36	142	0.12	0.01
30	$7.21 \sim 7.27$				25			0.20		0.04	0.30	-	0.10	0.00
		14		1.21				0.00	0.04	0.04	0.00	142		0.02
31	7. 28~ 8. 3	14		1.71	25			0.08	0.32	0.04	0.08	142	0.12	0.01
32	8. 4~ 8.10	14		1.21	25			0.16	0.12			142	0.12	0.02
33	8.11~ 8.17	14		0.93	25			0.12				142	0.04	0.01
34	8.18~ 8.24	14		1.57	25			0.36	0.12			142	0.10	
35	8.25∼ 8.31	14		2.21	25			0.20	0.16		0.04	142	0.05	0.01
36	9. 1∼ 9. 7	14		1.43	25				0.12			142	0.11	0.03
37	9. 8~ 9.14	14		1.36	25			0.04				142	0.08	0.01
38	9. 15~ 9. 21	14	0.07	0.93	25			0.16	0.40		0.16	142	0.10	0.01
39	$9.22 \sim 9.28$	14	0.01	1.07	25			0.12	0.12		0.10	142	0.09	0.01
40	9. 29~10. 5	14		1.71	25			0.12	0.12			142	0.09	0.01
_								0.00						
41	10. 6~10.12	14		1.36	25			0.01	0.40		0.01	142	0.11	0.01
42	10.13~10.19	14		1.00	25			0.04	0.44		0.04	142	0.05	0.01
43	10.20~10.26	14		0.93	25		0.04		0.28	0.04		142	0.10	0.01
44	10.27~11. 2	14		1.14	25			0.04	0.16			142	0.06	
45	11. 3~11. 9	14	0.07	0.86	25		0.08		0.24		0.04	142	0.07	0.01
46	11.10~11.16	14		1.29	25		0.04		0.16			142	0.05	
47	11. 17~11. 23	14		1.00	25			0.04	0.40		0.04	142	0.07	
48	11. 24~11. 30	14	0.07	0.79	25			0.04	0.08		3.01	142	0.06	0.02
49	12. 1~12. 7	14	0.01	0.79	25		0.04	0.04	0.04		0.04	142	0.06	0.02
								0.04			0.04	-		0.01
50	12. 8~12.14	14		0.86	25		0.04	0.01	0.04			142	0.04	0.01
51	12. 15~12. 21	14		1.93	25		0.04	0.04	0.20			142	0.05	0.01
52	12. 22~12. 28	14		1.07	25			0.08	0.12			142	0.07	
	平均		0.02	1.21		0.00	0.01	0.05	0.13	0.00	0.11		0.08	0.01

*:2003年11月5日より「五類(全数)」に分類変更された。

第5表-1-1 保健所別患者報告数累計表(インフルエンザ・小児科) 2003年1週~2003年52週

	イン	人 501 イ ン		* R S	601 咽 頭	602 球A 菌群	603 感 染	604 水 痘	605 手 足	606 伝 染	607 突 発	608 百 日	609 風 し	610 ヘ ル	611 麻 し	人 612 流 行
	フルエン	フルエ	小児科定	ウ イ ル	^妈 結 膜 熱	咽溶 頭血 炎性	性 胃 腸) 2.	足口病	米性紅斑	性 発 し	咳	λ	パパンギー	<i>λ</i>	行性耳下:
	ザ定点数	ゲザ	点数	ス感染症		レンサ	炎				ん			ナ		腺 炎
千代田	5	380	4		2	7	175	43	49	40	21		2	47	9	9
中央区	4	466	3		3	84	973	257	280	13	154	3	2	165	9	20
みなと	7	497	6	31	207	323	699	81	98	20	76		1	70	4	12
新宿区	7	810	6		6	83	2,008	121	184	35	94	1	5	135	13	32
文京	4	542	3		5	27	533	85	83	11	22		1	58	5	22
台東	4	814	3	4	43	188	1,326	184	604	93	149	2		190	13	18
墨田区	4	403	3		13	44	447	72	256	16	60			37	11	17
江東区	4	403	3		37	278	1,322	208	485	35	131		1	107	5	25
品川区	7	872	6		44	141	1,650	233	204	123	156		1	210	18	77
目黒区	4	273	3		16	123	489	170	131	42	79		1	63	7	16
大田区	10	1,488	9		185	414	2,428	462	279	172	284		7	410	26	59
世田谷区	9	1,232	8		117	118	2,391	255	218	116	254	1	3	200	21	75
渋谷区	5	659	4		41	30	1,540	124	118	52	105		13	84	8	59
中野区	7	1,655	6	8	16	109	1,870	217	227	79	125	2		203	14	28
杉並	7	762	6	2	5	94	1,042	96	104	36	86	1	1	66	3	40
池袋	6	223	5		8	7	257	102	88	7	57		4	45		69
北区	5	1,043	4		66	230	1,205	230	340	57	282	1	7	235	6	39
荒川区	3	303	2		2	23	380	34	42	7	21	9	1	43	10	7
板橋区	7	777	6	0	6	62	591	153	116	19	46		5	58	12	13
練馬区	6	964	5	2	14	222	715	205	159	59	123	0	5	153	16	30
足立	5	686	4		23	115	996	233	148	53	55	3	1	163	22	58
- 葛飾 - 江東川	5	1,240	4	0	9	350	1,308	498	653	31	232	3	9	251	17	121
江戸川 多摩川	5	1,129	3	2	207	354 85	2,009	310 284	518	48 19	143	1 2	3 2	354 279	6 20	47 30
秋川	3	501 605	2	1	64 5	81	942 737	197	310 83	2	105 30		1	23	6	63
八王子	3	517	2		58	30	286	146	89	37	62		13	204	4	58
南多摩	4	704	3		19	41	1,029	203	108	22	118		10	238	6	57
町田	3	671	2	1	2	30	1,195	156	139	31	56		10	113	9	23
多摩立川	5	681	4	1	8	54	424	173	27	10	10	1	2	38	14	25
村山大和	3	597	2		10	40	477	57	26	32	22	1	6	27	12	33
府中小金井	4	559	3		7	16	174	67	36	5	36		4	33	10	9
41江調布	4	559	3		28	64	488	163	241	16	173	1	8	68	5	9
三鷹武蔵野	5	1,005	4	4	1	109	899	168	45	21	85	1	2	60	5	18
多摩小平	4	1,771	3	12	64	126	1,300	267	202	66	193	1	13	445	14	33
多摩東村山	4	926	3	1	11	137	1,394	180	150	46	108		8	94	16	32
島しょ	2	290	1		1	22	19	5	32		24		1	95		7
合 計	178	27,007	142	68	1,353	4,261	35,718	6,439	6,872	1,471	3,777	34	143	5,064	376	1,290
前年計	178	14,877	142	_	600	3,772	34,659	7,079	3,213	1,574	3,632	32	71	5,067	377	3,678
当年/前年		1.82		-	2.26	1.13	1.03	0.91	2.14	0.93	1.04	1.06	2.01	1.00	1.00	0.35
増減数		12,130		-	753	489	1,059	-640	3,659	-103	145	2	72	-3	-1	-2,388
定点当たり報	告数	151.72		0.48	9.53	30.01	251.54	45.35	48.39	10.36	26.60	0.24	1.01	35.66	2.65	9.08

*:2003年45週より新たに追加指定された。

第5表-1-2 保健所別患者報告数累計表(眼科·基幹·小児科) 2003年1週~2003年52週

			人							人			人
	眼科定点数	701急性出血性結膜炎	702 / / / / / / / / / / / / / / / / / / /	基幹定点数	901 901 1 901 8 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	902 細菌性髄膜炎	903無菌性髄膜炎	904	905クラミジア肺炎	906 成人麻しん	小児科定点数	1 不明発疹症	2 M C L S
					$\overline{}$			炎)				
千代田				2		1		2	1	2	4	8	7
中央区		_		<u> </u>							3	15	_
みなと	1	2	71	1			_	4.0	_	2.1	6	13	2
新宿区	2	4	158	2		4	5	40	1	21	6	79	
文京	1		143	1		1	3			28	3		0
台東				-	1	-	0.0	-	-	F.4	3		2
墨田区	-		0.1	1	1	1	22	1	1	54	3	0	
江東区	1		91								3	9	
品川区											6	27	3
目黒区	1		07			1	0			0	3	10	3
大田区	1		87	1		1	2			9	9	63	6
世田谷区	1		0	2		7	8			1	8	41	4
渋谷区	1		3	2		2	5	0			4	1.77	1
中野区				1			2	8			6	17	1
杉並	1		50	1	1		_	C			6	0	
池袋	1		59	1	1		5	6			5	3	1
北区	1										4	39	1 2
荒川区	1		57	1			0	0.0		2	6	7	2
板橋区 練馬区				1			8	80				7	2
展											5	1	
				1				1			4	C 4	C
葛飾 江戸川				1				1			4	64 28	6
多摩川				1		1		2			3	28	4
秋川				1		1		۷				5	
八王子	1		13	1			1	9		4	2	5 1	
南多摩	1		13	1			1	9		4	3	28	1
町田	1	1	58								2	28	1
多摩立川	1	1	50	1			2	3			4	20	
村山大和	1		51	1			4	J			2	26	2
府中小金井	1		- 01	1							3	20	
4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				1							3	3	
三鷹武蔵野	2		21	1						2	4	3	2
多摩小平	J			1	1		3	15		21	3	11	3
多摩東村山		11	68	1			Ü	10			3	36	15
島しよ		11		1				6			1	8	10
合 計	14	18	880	25	3	18	66	173	3	144	142	579	66
前年計	14	12	925	25	10	24	66	163	2	116	142	613	60
当年/前年		1.50	0.95		0.30	0.75	1.00	1.06	1.50	1.24		0.94	1.10
増減数		6	-45		-7	-6		10	1	28		-34	6

*:2003年11月5日より「五類(全数)」に分類変更された。

第5表-2-1 保健所別定点当たり患者報告数累計表(インフルエンザ・小児科) 2003年1週~2003年52週

		人/定点	·												人/定	
	インフルエンザ定点数	501 インフルエンザ	小児科定点数	RSウイルス感染症	601 咽頭結膜熱	602 A群溶血性レンサ	603 感染性胃腸炎	604 水 痘	605 手足口病	606 伝染性紅斑	607 突発性発しん	608百日咳	609 風 しん	610 6くくペンキーナ	611 麻 しん	612 流行性耳下腺炎
千代田	5	76.00	4		0.50	1.75	43.75	10.75	12.25	10.00	5.25		0.50	11.75	2.25	2.25
中央区	4	116.50	3		1.00	28.00	324.33	85.67	93.33	4.33	51.33	1.00	0.67	55.00	3.00	6.67
みなと	7	71.00	6	5.17	34.50	53.83	116.50	13.50	16.33	3.33	12.67		0.17	11.67	0.67	2.00
新宿区	7	115.71	6		1.00	13.83	334.67	20.17	30.67	5.83	15.67	0.17	0.83	22.50	2.17	5.33
文京	4	135.50	3		1.67	9.00	177.67	28.33	27.67	3.67	7.33		0.33	19.33	1.67	7.33
台東	4	203.50	3	1.33	14.33	62.67	442.00	61.33	201.33	31.00	49.67	0.67		63.33	4.33	6.00
墨田区	4	100.75	3		4.33	14.67	149.00	24.00	85.33	5.33	20.00			12.33	3.67	5.67
江東区	4	100.75	3		12.33	92.67	440.67	69.33	161.67	11.67	43.67		0.33	35.67	1.67	8.33
品川区	7	124.57	6		7.33	23.50	275.00	38.83	34.00	20.50	26.00		0.17	35.00	3.00	12.83
目黒区	4	68.25	3		5.33	41.00	163.00	56.67	43.67	14.00	26.33		0.33	21.00	2.33	5.33
大田区	10	148.80	9		20.56	46.00	269.78	51.33	31.00	19.11	31.56		0.78	45.56	2.89	6.56
世田谷区	9	136.89	8		14.63	14.75	298.88	31.88	27.25	14.50	31.75	0.13	0.38	25.00	2.63	9.38
渋谷区	5	131.80	4		10.25	7.50	385.00	31.00	29.50	13.00	26.25		3.25	21.00	2.00	14.75
中野区	7	236.43	6	1.33	2.67	18.17	311.67	36.17	37.83	13.17	20.83	0.33		33.83	2.33	4.67
杉並	7	108.86	6	0.33	0.83	15.67	173.67	16.00	17.33	6.00	14.33	0.17	0.17	11.00	0.50	6.67
池袋	6	37.17	5		1.60	1.40	51.40	20.40	17.60	1.40	11.40		0.80	9.00		13.80
北区	5	208.60	4		16.50	57.50	301.25	57.50	85.00	14.25	70.50	0.25	1.75	58.75	1.50	9.75
荒川区	3	101.00	2		1.00	11.50	190.00	17.00	21.00	3.50	10.50	4.50	0.50	21.50	5.00	3.50
板橋区	7	111.00	6		1.00	10.33	98.50	25.50	19.33	3.17	7.67		0.83	9.67	2.00	2.17
練馬区	6	160.67	5	0.40	2.80	44.40	143.00	41.00	31.80	11.80	24.60		1.00	30.60	3.20	6.00
足立	5	137.20	4		5.75	28.75	249.00	58.25	37.00	13.25	13.75	0.75	0.25	40.75	5.50	14.50
葛飾	5	248.00	4		2.25	87.50	327.00	124.50	163.25	7.75	58.00	0.75	2.25	62.75	4.25	30.25
江戸川	5	225.80	4	0.50	51.75	88.50	502.25	77.50	129.50	12.00	35.75	0.25	0.75	88.50	1.50	11.75
多摩川	4	125.25	3	0.33	21.33	28.33	314.00	94.67	103.33	6.33	35.00	0.67	0.67	93.00	6.67	10.00
秋川	3	201.67	2		2.50	40.50	368.50	98.50	41.50	1.00	15.00		0.50	11.50	3.00	31.50
八王子	3	172.33	2		29.00	15.00	143.00	73.00	44.50	18.50	31.00		6.50	102.00	2.00	29.00
南多摩	4	176.00	3		6.33	13.67	343.00	67.67	36.00	7.33	39.33		3.33	79.33	2.00	19.00
町田	3	223.67	2	0.50	1.00	15.00	597.50	78.00	69.50	15.50	28.00			56.50	4.50	11.50
多摩立川	5	136.20	4		2.00	13.50	106.00	43.25	6.75	2.50	2.50	0.25	0.50	9.50	3.50	6.25
村山大和	3	199.00	2		5.00	20.00	238.50	28.50	13.00	16.00	11.00	0.50	3.00	13.50	6.00	16.50
府中小金井	4	139.75	3		2.33	5.33	58.00	22.33	12.00	1.67	12.00		1.33	11.00	3.33	3.00
狛江調布	4	139.75	3		9.33	21.33	162.67	54.33	80.33	5.33	57.67	0.33	2.67	22.67	1.67	3.00
三鷹武蔵野	5	201.00	4	1.00	0.25	27.25	224.75	42.00	11.25	5.25	21.25	0.25	0.50	15.00	1.25	4.50
多摩小平	4	442.75	3	4.00	21.33	42.00	433.33	89.00	67.33	22.00	64.33	0.33	4.33	148.33	4.67	11.00
多摩東村山	4	231.50	3	0.33	3.67	45.67	464.67	60.00	50.00	15.33	36.00		2.67	31.33	5.33	10.67
島しよ	2	145.00	1		1.00	22.00	19.00	5.00	32.00		24.00		1.00	95.00		7.00

*:2003年45週より新たに追加指定された。

第5表-2-2 保健所別定点当たり患者報告数累計表(眼科・基幹・小児科) 2003年1週~2003年52週

		人/定	点						人/定			,,,	人/定	· 点
	眼科定点数	701急性出血性結膜炎	702流行性角結膜炎	基幹定点数	901年脳炎を除く)	902 細菌性髄膜炎	903無菌性髄膜炎	904	905 クラミジア肺炎	906 成人麻しん	7. 罗希 汉 点娄	き 斗	1 不明発疹症	2 M C L S
千代田				2		0.50		1.00	0.50	1.00		4	2.00	1.75
中央区												3	5.00	
みなと	1	2.00	71.00	1								6	2.17	0.33
新宿区	2	2.00	79.00	2		2.00	2.50	20.00	0.50	10.50		6	13.17	
文京	1		143.00	1		1.00	3.00			28.00		3		
台東												3		0.67
墨田区				1	1.00	1.00	22.00	1.00	1.00	54.00		3		
江東区	1		91.00									3	3.00	
品川区												6	4.50	0.50
目黒区												3	3.33	1.00
大田区	1		87.00	1		1.00	2.00			9.00		9	7.00	0.67
世田谷区				2		3.50	4.00			0.50		8	5.13	0.50
渋谷区	1		3.00	2		1.00	2.50					4		
中野区				1			2.00	8.00				6	2.83	0.17
杉並				1								6		
池袋	1		59.00	1	1.00		5.00	6.00				4	0.75	
北区												4	9.75	0.25
荒川区	1		57.00									2	3.50	1.00
板橋区				1			8.00	8.00		2.00		6		
練馬区												5	1.40	0.40
足立												4		
葛飾				1				1.00				4	16.00	1.50
江戸川												4	7.00	1.00
多摩川				1		1.00		2.00				3		
秋川												2	2.50	
八王子	1		13.00	1			1.00	9.00		4.00		2	0.50	
南多摩												3	9.33	0.33
町田	1	1.00	58.00								L	2	14.00	
多摩立川				1			2.00	3.00				4		
村山大和	1		51.00									2	13.00	1.00
府中小金井				1							L	3		
狛江調布											L	3	1.00	
三鷹武蔵野	2		10.50	1						2.00		4	0.75	0.50
多摩小平				1	1.00		3.00	15.00		21.00		3	3.67	1.00
多摩東村山				1								3	12.00	5.00
島しょ				1				6.00				1	8.00	

*:2003年11月5日より「五類(全数)」に分類変更された。

第5表-3-1 年齢階級別累計表(インフルエンザ・小児科) 2003年1週~2003年52週

	人	_		201							200			0.1.1	人
	501 イ	*	R	601 咽	602 球 A	603 感	604 水	605 手	606 伝	607 突	608 百	609 風	610	611 麻	612 流
	シ		S	頭	菌群	染性	痘	足	染性	発性	日	L	ル	し	
	フ		ウ	結	咽溶	性		岸口	性红	性系	咳	ん	パ	ん	行性耳下腺
	ルエ		イル	膜熱	頭血 炎性	胃腸		病	紅 斑	発 し			ンギ		上下
	ン		ス	7111	レ	腸 炎			%±.	h]		腺
	ザ		感		ンサ								ナ		炎
			染症		9										
6か月未満	68		7	5	2	273	133	46	14	264	4	5	38	5	
12か月未満	367		10	29	18	1,836	400	341	66	2,144	11	6	457	36	4
1歳	1,217		16	211	82	4,297	1,115	1,376	82	1,246	2	9	1,177	52	58
2歳	1,329		5	205	207	3,666	1,120	1,243	80	85	2	9	951	23	103
3歳	1,567		9	241	403	3,489	1,107	1,097	122	20	4	11	798	23	182
4歳	2,046		3	213	653	3,522	925	907	244	4	2	10	641	25	196
5歳	1,809		1	164	654	3,018	645	751	250	3	1	6	437	21	202
6歳	1,852		9	94	538	2,294	355	413	175	1	1	5	212	18	154
7歳	1,671			36	484	1,795	194	209	148	4		6	103	23	104
8歳	1,590			37	327	1,489	148	147	99	1		5	59	20	76
9歳	1,385			29	211	1,104	78	76	59	1	1	5	46	18	58
10~14歳	4,238			32	285	2,434	119	96	88	1	1	21	47	54	93
15~19歳	1,752			4	33	880	14	19				15	12	32	19
20~29歳	1,745		8	53	364	5,621	86	151	44	3	5	30	86	26	41
30~39歳	2,108														
40~49歳	1,192														
50~59歳	553														
60~69歳	317														
70~79歳	139														
80歳以上	62														
合 計	27,007		68	1,353	4,261	35,718	6,439	6,872	1,471	3,777	34	143	5,064	376	1,290
前年計	14,877		_	600	3,772	34,659	7,079	3,213	1,574	3,632	32	71	5,067	377	3,678
当年/前年	1.82		_	2.26	1.13	1.03	0.91	2.14	0.93	1.04	1.06	2.01	1.00	1.00	0.35
増減数	12,130		-	753	489	1,059	-640	3,659	-103	145	2	72	-3	-1	-2,388

注:小児科定点把握対象疾病のうち、「20~29歳」は「20歳以上」と読みかえる。 *:2003年45週より新たに追加指定された。

第5表-3-2 年齢階級別累計表(眼科·基幹·小児科) 2003年1週~2003年52週

		人						人		人
	701急性出血性結膜炎	702 / / / / / / / / / / / / / / / / / / /	901急性脳炎*	902細菌性髄膜炎	903無菌性髄膜炎	904	905 クラミジア肺炎	906 成人麻疹	1 不明発疹症	2 M C L S
6か月未満		4		1	7				27	6
12か月未満		2	1	4		1			109	16
1歳		12	1	2	3	20			176	10
2歳		10		2		18			69	8
3歳		13		2	4	19			58	8
4歳		10		2	5	15			41	5
5歳		9			4	14			21	3
6歳		4			3	8			13	2
7歳		5			2	21	1		10	2
8歳		2			1	8			8	2
9歳	1			1	2	8			7	
10~14歳		17			6	32	1		19	1
15~19歳		36			4	4		20	3	1
20~29歳	6	217	1	1	10	3		82	18	2
30~39歳	7	206		1	9	1		31		
40~49歳	2	100			3		1	7		
50~59歳	1	101			2	1		4		
60~69歳	1	70		1						
70~79歳		62		1	1					
80歳以上										
合 計	18	880	3	18	66	173	3	144	579	66
前年計	12	925	10	24	66	163	2	116	613	60
当年/前年	1.50	0.95	0.30	0.75	1.00	1.06		1.24	0.94	1.10
増減数	6	-45	-7	-6		10	1	28	-34	6

注:小児科定点把握対象疾病のうち、「20~29歳」は「20歳以上」と読みかえる。 注:眼科疾患のうち、「70~79歳」は「70歳以上」と読みかえる。 *:2003年11月5日より「五類(全数)」に分類変更された。

第6表-1-1 二次医療圏別患者報告数累計表(インフルエンザ・小児科) 2003年1週~2003年52週

	インフルエンザ定点数	入 501 イ ン フ ル エ ン ザ	小児科定点数	* RSウイルス 感染症	601 咽頭結膜熱	602 A群溶血性レンサ	603 感染性胃腸炎	604 水 痘	605 手足口病	606 伝染性紅斑	607 突発性発しん	608 百 日 咳	609 風 し ん	610 ヘルパンギーナ	611 麻 し ん	612 612 旅行性耳下腺炎
1 区中央部圏	24	2,699	19	35	260	629	3,706	650	1,114	177	422	5	6	530	40	81
2 区南部圏	17	2,360	15		229	555	4,078	695	483	295	440		8	620	44	136
3 区西南部圏	18	2,164	15		174	271	4,420	549	467	210	438	1	17	347	36	150
4 区西部圏	21	3,227	18	10	27	286	4,920	434	515	150	305	4	6	404	30	100
5 区西北部圏	24	3,007	20	2	94	521	2,768	690	703	142	508	1	21	491	34	151
6 区東北部圏	13	2,229	10		34	488	2,684	765	843	91	308	15	11	457	49	186
7 区東部圏	13	1,935	10	2	257	676	3,778	590	1,259	99	334	1	4	498	22	89
8 西多摩圏	7	1,106	5	1	69	166	1,679	481	393	21	135	2	3	302	26	93
9 南多摩圏	10	1,892	7	1	79	101	2,510	505	336	90	236		23	555	19	138
10 北多摩西部圏	8	1,278	6		18	94	901	230	53	42	32	2	8	65	26	58
11 北多摩南部圏	13	2,123	10	4	36	189	1,561	398	322	42	294	2	14	161	20	36
12 北多摩北部圏	8	2,697	6	13	75	263	2,694	447	352	112	301	1	21	539	30	65
13 島しょ圏	2	290	1		1	22	19	5	32		24		1	95		7
合 計	178	27,007	142	68	1,353	4,261	35,718	6,439	6,872	1,471	3,777	34	143	5,064	376	1,290

*:2003年45週より新たに追加指定された。

第6表-1-2 二次医療圏別患者報告数累計表(眼科・基幹・小児科) 2003年1週~2003年52週

			人							人			人
	眼科定点数	701急性出血性結膜炎	702 流行性角結膜炎	基幹定点数	901 急性脳炎 *	902 細菌性髄膜炎	903無菌性髄膜炎	904	905 クラミジア肺炎	906 成人麻疹	小児科定点数	1 不明発疹症	2 M C L S
1 区中央部圏	2	2	214	4		2	3	2	1	30	19	36	11
2 区南部圏	1		87	1		1	2			9	15	90	9
3 区西南部圏	1		3	4		9	13			1	15	51	7
4 区西部圏	2	4	158	4		4	7	48	1	21	18	96	1
5 区西北部圏	1		59	2	1		13	86		2	20	49	3
6 区東北部圏	1		57	1				1			10	71	8
7 区東部圏	1		91	1	1	1	22	1	1	54	10	37	4
8 西多摩圏				1				6			5	5	
9 南多摩圏	2	1	71	1			1	9		4	7	57	1
10 北多摩西部圏	1		51	1		1		2			6	26	2
11 北多摩南部圏	2		21	2			2	3			10	6	2
12 北多摩北部圏		11	68	2						2	6	47	18
13 島しょ圏				1	1		3	15		21	1	8	
合 計	14	18	880	25	3	18	66	173	3	144	142	579	66

*:2003年11月5日より「五類(全数)」に分類変更された。

第6表-2-1 二次医療圏別定点当たり患者報告数累計表(インフルエンザ・小児科)

2003年1週~2003年52週

		人/定点													人/定	<u> </u>
	インフルエンザ定点数	501 インフルエンザ	小児科定点数	* RSウイルス感染症	601 咽頭結膜熱	602 A群溶血性レンサ	603 感染性胃腸炎	604 水 痘	605 手足口病	606 伝染性紅斑	607 突発性発しん	608 百日咳	609 風 しん	610	611 麻 しん	612 流行性耳下腺炎
1 区中央部圏	24	112.46	19	1.84	13.68	33.11	195.05	34.21	58.63	9.32	22.21	0.26	0.32	27.89	2.11	4.26
2 区南部圏	17	138.82	15		15.27	37.00	271.87	46.33	32.20	19.67	29.33		0.53	41.33	2.93	9.07
3 区西南部圏	18	120.22	15		11.60	18.07	294.67	36.60	31.13	14.00	29.20	0.07	1.13	23.13	2.40	10.00
4 区西部圏	21	153.67	18	0.56	1.50	15.89	273.33	24.11	28.61	8.33	16.94	0.22	0.33	22.44	1.67	5.56
5 区西北部圏	24	125.29	20	0.10	4.70	26.05	138.40	34.50	35.15	7.10	25.40	0.05	1.05	24.55	1.70	7.55
6 区東北部圏	13	171.46	10		3.40	48.80	268.40	76.50	84.30	9.10	30.80	1.50	1.10	45.70	4.90	18.60
7 区東部圏	13	148.85	10	0.20	25.70	67.60	377.80	59.00	125.90	9.90	33.40	0.10	0.40	49.80	2.20	8.90
8 西多摩圏	7	158.00	5	0.20	13.80	33.20	335.80	96.20	78.60	4.20	27.00	0.40	0.60	60.40	5.20	18.60
9 南多摩圏	10	189.20	7	0.14	11.29	14.43	358.57	72.14	48.00	12.86	33.71		3.29	79.29	2.71	19.71
10 北多摩西部圏	8	159.75	6		3.00	15.67	150.17	38.33	8.83	7.00	5.33	0.33	1.33	10.83	4.33	9.67
11 北多摩南部圏	13	163.31	10	0.40	3.60	18.90	156.10	39.80	32.20	4.20	29.40	0.20	1.40	16.10	2.00	3.60
12 北多摩北部圏	8	337.13	6	2.17	12.50	43.83	449.00	74.50	58.67	18.67	50.17	0.17	3.50	89.83	5.00	10.83
13 島しょ圏	2	145.00	1		1.00	22.00	19.00	5.00	32.00		24.00		1.00	95.00		7.00

第6表-2-2 二次医療圏別定点当たり患者報告数累計表(眼科・基幹・小児科)

2003年1週~2003年52週

人/定点										人/定点 人/定点				点
	眼科定点数	701急性出血性結膜炎	702 流行性角結膜炎		基幹定点数	901 (日本脳炎を除く)1 急性脳炎 *	902 細菌性髄膜炎	903無菌性髄膜炎	904	905 クラミジア肺炎	906 成人麻疹	小児科定点数	1 不明発疹症	2 M C L S
1 区中央部圏	2	1.00	107.00		4		0.50	0.75	0.50	0.25	7.50	19	1.89	0.58
2 区南部圏	1		87.00	L	1		1.00	2.00			9.00	15	6.00	0.60
3 区西南部圏	1		3.00		4		2.25	3.25			0.25	15	3.40	0.47
4 区西部圏	2	2.00	79.00	L	4		1.00	1.75	12.00	0.25	5.25	18	5.33	0.06
5 区西北部圏	1		59.00		2	0.50		6.50	43.00		1.00	20	2.45	0.15
6 区東北部圏	1		57.00	L	1				1.00			10	7.10	0.80
7 区東部圏	1		91.00	L	1	1.00	1.00	22.00	1.00	1.00	54.00	10	3.70	0.40
8 西多摩圏				L	1				6.00			5	1.00	
9 南多摩圏	2	0.50	35.50		1			1.00	9.00		4.00	7	8.14	0.14
10 北多摩西部圏	1		51.00		1		1.00		2.00			(4.33	0.33
11 北多摩南部圏	2		10.50		2			1.00	1.50			10	0.60	0.20
12 北多摩北部圏					2						1.00	6	7.83	3.00
13 島しょ圏					1	1.00		3.00	15.00		21.00		8.00	

*:2003年11月5日より「五類(全数)」に分類変更された。

第7表-1 月報告疾病患者報告数推移表 2003年1月~2003年12月

(男女計)							人
月	STI定点数	801とというである。	802 性器ヘルペスウイルス	803 尖圭コンジローマ	804 淋菌感染症	3トリコモナス症	4 梅毒様疾患
1月	41	209	93	38	115	41	7
2月	41	177	59	32	85	29	4
3月	41	181	61	34	105	33	4
4月	41	197	73	35	102	32	7
5月	41	228	74	53	113	28	4
6月	41	224	80	47	98	30	3
7月	41	222	81	37	102	22	7
8月	41	164	54	40	100	26	10
9月	41	199	75	53	139	29	7
10月	41	220	62	57	114	33	4
11月	41	200	75	47	124	24	1
12月	41	201	78	45	101	16	10
合	計	2,422	865	518	1,298	343	68

			人
基幹定点数	951メチシリン耐性黄色	952 ペニシリン耐性肺炎	953 薬剤耐性緑膿菌感染症
25	157	44	13
25	169	43	7
25	133	30	5
25	159	42	7
25	145	78	6
25	155	71	6
25	150	61	6
25	133	34	3
25	148	45	1
25	180	42	2
25	117	58	3
25	115	69	2
	1,761	617	61

第7表-2 月報告疾病定点当たり推移表 2003年1月~2003年12月

(男女計)											
月	STI定点数	801とというというという。	802 性器ヘルペスウイルス	803 尖圭コンジローマ	804 	3トリコモナス症	4 梅毒様疾患				
1月	41	5.10	2.27	0.93	2.80	1.00	0.17				
2月	41	4.32	1.44	0.78	2.07	0.71	0.10				
3月	41	4.41	1.49	0.83	2.56	0.80	0.10				
4月	41	4.80	1.78	0.85	2.49	0.78	0.17				
5月	41	5.56	1.80	1.29	2.76	0.68	0.10				
6月	41	5.46	1.95	1.15	2.39	0.73	0.07				
7月	41	5.41	1.98	0.90	2.49	0.54	0.17				
8月	41	4.00	1.32	0.98	2.44	0.63	0.24				
9月	41	4.85	1.83	1.29	3.39	0.71	0.17				
10月	41	5.37	1.51	1.39	2.78	0.80	0.10				
11月	41	4.88	1.83	1.15	3.02	0.59	0.02				
12月	41	4.90	1.90	1.10	2.46	0.39	0.24				
平	均	4.92	1.76	1.05	2.64	0.70	0.14				

		人/定点	Ī.
基幹定点数	951メチシリン耐性黄色	952 ペニシリン耐性肺炎	953 薬剤耐性緑膿菌感染症
25	6.28	1.76	0.52
25	6.76	1.72	0.28
25	5.32	1.20	0.20
25	6.36	1.68	0.28
25	5.80	3.12	0.24
25	6.20	2.84	0.24
25	6.00	2.44	0.24
25	5.32	1.36	0.12
25	5.92	1.80	0.04
25	7.20	1.68	0.08
25	4.68	2.32	0.12
25	4.60	2.76	0.08
	5.87	2.06	0.20

第7表-3 月報告疾病患者報告数推移表 2003年1月~2003年12月

(男性)							人
月	STI定点数	801とというというという。	802 性器ヘルペスウイルス	803 尖圭コンジローマ	804 	3トリコモナス症	4 梅毒様疾患
1月	41	104	38	25	83	3	6
2月	41	84	28	20	57		2
3月	41	82	23	21	80	1	3
4月	41	99	33	25	76		7
5月	41	98	28	31	84	4	3
6月	41	106	36	27	76		1
7月	41	101	27	24	78	1	3
8月	41	72	24	25	79	1	2
9月	41	88	23	30	113		2
10月	41	118	31	37	89	1	2
11月	41	102	29	32	96		1
12月	41	107	38	30	79	1	
合	計	1,161	358	327	990	12	32

			人
基幹定点数	951メチシリン耐性黄色	952 ペニシリン耐性肺炎	953 薬剤耐性緑膿菌感染症
25	106	20	11
25	108	26	6
25	98	16	5
25	117	27	6
25	93	50	4
25	106	42	6
25	115	39	5
25	87	25	3
25	96	27	1
25	116	24	2
25	72	33	3
25	87	37	1
	1,201	366	53

第7表-4 月報告疾病患者報告数推移表 2003年1月~2003年12月

(女性)							人
月	STI定点数	801とというである。 とれ おり おい かい	802 性器ヘルペスウイルス	803 尖圭コンジローマ	804 淋菌感染症	3トリコモナス症	4 梅毒様疾患
1月	41	105	55	13	32	38	1
2月	41	93	31	12	28	29	2
3月	41	99	38	13	25	32	1
4月	41	98	40	10	26	32	
5月	41	130	46	22	29	24	1
6月	41	118	44	20	22	30	2
7月	41	121	54	13	24	21	4
8月	41	92	30	15	21	25	8
9月	41	111	52	23	26	29	5
10月	41	102	31	20	25	32	2
11月	41	98	46	15	28	24	
12月	41	94	40	15	22	15	10
合	計	1,261	507	191	308	331	36

			人
基幹定点数	951メチシリン耐性黄色	952ペニシリン耐性肺炎	953 薬剤耐性緑膿菌感染症
25	51	24	2
25	61	17	1
25	35	14	
25	42	15	1
25	52	28	2
25	49	29	
25	35	22	1
25	46	9	
25	52	18	
25	64	18	
25	45	25	
25	28	32	1
	560	251	8

第8表 基幹定点報告疾病年齡階級別累計表 (2003年1月~2003年12月)

<u> </u>										
	95	51	95	52	95	53				
年齢階級				ペニシリン耐性肺炎 球菌感染症		录膿菌感	合	計		
	男	女	男	女	男	女	男	女		
0歳	73	41	57	19	3	2	133	62		
1~4歳	46	20	152	126	2		200	146		
5~9歳	27	15	24	20			51	35		
10~14歳	3	9	5	3			8	12		
15~19歳	6	4		1			6	5		
20~24歳	13	10	1	6	3	1	17	17		
25~29歳	14	14	3	5	1		18	19		
30~34歳	20	9	2	6			22	15		
35~39歳	15	14	6	2	3		24	16		
40~44歳	34	8	2	5	5	3	41	16		
45~49歳	22	11	5	4	1		28	15		
50~54歳	56	22	1	6	6		63	28		
55~59歳	74	25	7	6	5		86	31		
60~64歳	105	29	18	6	1		124	35		
65~69歳	143	46	13	13	7	1	163	60		
70歳以上	550	283	70	23	16	1	636	307		
合 計	1,201	560	366	251	53	8	1,620	819		
前年計	1,140	619	333	224	81	26	1,554	869		
当年/前年	1.05	0.90	1.10	1.12	0.65	0.31	1.04	0.94		
増減数	61	-59	33	27	-28	-18	66	-50		

第9表-1 性感染症保健所別、二次医療圈別患者報告数 2003年1月~2003年12月

		80	<u>) 1</u>	80	19	80	13	80) ₄		2	4	1		人
	定点	性器クラ		性器ヘル	ペスウイ	尖圭コンジ		淋菌原		トリコモ		梅毒核		合	計
	数	染症 男	女	ルス感染男	症 女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
中央区	2	82	2	20	<u> </u>	75 14	女	32	<u>吳</u> 1	カ	<u>吳</u> 2	Ð	女	73 148	10
みなと	2	78	165	42	77	18	39	35	49	4	14	4	3	181	347
新宿区	5	223	215	21	88	59	54	258	74	1	11	1	6	561	448
文京	1			3										3	
台東	5	9	353	8	237	1	31	7	51		189		3	25	864
墨田区	1	39	1	31	5	19		40						129	6
江東区	2	180	87	83	13	48	5	219	21		1	4		534	127
品川区	1	17				5		2						24	
大田区	3	4	7	10	2	1		7	1					22	10
渋谷区	3	96	2	14	1	3		13	1					126	4
中野区	1	53		14		3		17				1		88	
池袋	3	210	146	65	28	98	24	102	22		9	13	5	488	234
北区	1	6		5		7		13						31	
荒川区	1	1	38		7		5		2		3		1	1	56
板橋区	2	28		15	1	18	2	23	2			3		87	5
足立	1	53	3	13	3	15		53	4					134	10
八王子	3		119		25		10		5		88		16		263
町田	1		24		3		2				5				34
多摩立川	2	58	97	14	9	14	17	143	75	6	9	7	2	242	209
三鷹武蔵野	1	24	2		3	4	2	26		2				56	7
合 計	41	1,161	1,261	358	507	327	191	990	308	12	331	32	36	2,880	2,634
前年計		1,251	1,285	397	553	308	194	950	299	16	431	33	8	2,955	2,770
当年/前年		0.93	0.98	0.90	0.92	1.06	0.98	1.04	1.03	0.75	0.77	0.97	4.50	0.97	0.95
増減数		-90	-24	-39	-46	19	-3	40	9	-4	-100	-1	28	-75	-136
定点当たり報告	子数	28.32	30.76	8.73	12.37	7.98	4.66	24.15	7.51	0.29	8.07	0.78	0.88	70.24	64.24
	ı														
区中央部圏	10	169	520	73	319	33	70	74	101	4	205	4	6	357	1,221
区南部圏	4	21	7	10	2	6		9	1					46	10
区西南部圏	3	96	2	14	1	3		13	1					126	4
区西部圏	6	276	215	35	88	62	54	275	74		11	1	6	649	448
区西北部圏	6	244	146	85	29	123	26	138	24		9	16	5	606	239
区東北部圏	2	54	41	13	10	15	5	53	6		3		1	135	66
区東部圏	3	219	88	114	18	67	5	259	21		1	4		663	133
南多摩圏	4		143		28		12		5		93		16		297
北多摩西部圏	2	58	97	14	9	14	17	143	75	6	9	7	2	242	209
北多摩南部圏	1	24	2		3	4	2	26		2				56	7

第9表-2 性感染症保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数 2003年1月~2003年12月

点数 染症 男 月 中央区 2 41.00	ア感 性器へ/ ルス感数 女 男 .00 10.00		80 尖圭コン	03 Sin—ə)4	3	3	4	1		
点	ルス感染 男	注症	尖圭コン	ジローマ								
中央区 2 41.00		+r		Σ Γ Υ	淋菌原	感染症	トリコモ	ナス症	梅毒棕	兼疾患	合	計
1.2.47	.00 10.00	^	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
みなと 2 39 00 8		2.50	7.00		16.00	0.50		1.00			74.00	5.00
	2.50 21.00	38.50	9.00	19.50	17.50	24.50	2.00	7.00	2.00	1.50	90.50	173.50
新宿区 5 44.60 4	3.00 4.20	17.60	11.80	10.80	51.60	14.80		2.20		1.20	112.20	89.60
文京 1	3.00										3.00	
	1.60	47.40	0.20	6.20	1.40	10.20		37.80		0.60	5.00	172.80
墨田区 1 39.00	.00 31.00	5.00	19.00		40.00						129.00	6.00
江東区 2 90.00 4	.50 41.50	6.50	24.00	2.50	109.50	10.50		0.50	2.00		267.00	63.50
品川区 1 17.00			5.00		2.00						24.00	
大田区 3 1.33	3.33	0.67	0.33		2.33	0.33					7.33	3.33
渋谷区 3 32.00	.67 4.67	0.33	1.00		4.33	0.33					42.00	1.33
中野区 1 53.00	14.00		3.00		17.00				1.00		88.00	
池袋 3 70.00 4	3.67 21.67	9.33	32.67	8.00	34.00	7.33		3.00	4.33	1.67	162.67	78.00
北区 1 6.00	5.00		7.00		13.00						31.00	
荒川区 1 1.00 3	3.00	7.00		5.00		2.00		3.00		1.00	1.00	56.00
板橋区 2 14.00	7.50	0.50	9.00	1.00	11.50	1.00			1.50		43.50	2.50
足立 1 53.00	13.00	3.00	15.00		53.00	4.00					134.00	10.00
八王子 3 3	0.67	8.33		3.33		1.67		29.33		5.33		87.67
町田 1 2	.00	3.00		2.00				5.00				34.00
多摩立川 2 29.00 4	7.00	4.50	7.00	8.50	71.50	37.50	3.00	4.50	3.50	1.00	121.00	104.50
三鷹武蔵野 1 24.00	2.00	3.00	4.00	2.00	26.00		2.00				56.00	7.00
合計 41 1,161 1	261 358	507	327	191	990	308	12	331	32	36	2,880	2,634
前年計 1,251 1	285 397	553	308	194	950	299	16	431	33	8	2,955	2,770
当年/前年 0.93	0.98	0.92	1.06	0.98	1.04	1.03	0.75	0.77	0.97	4.50	0.97	0.95
増減数 -90	-24 -39	-46	19	-3	40	9	-4	-100	-1	28	-75	-136
定点当たり報告数 28.32 3	0.76 8.73	12.37	7.98	4.66	24.15	7.51	0.29	8.07	0.78	0.88	70.24	64.24
											-	
区中央部圏 10 16.90 5	7.30	31.90	3.30	7.00	7.40	10.10	0.40	20.50	0.40	0.60	35.70	122.10
区南部圏 4 5.25	.75 2.50	0.50	1.50		2.25	0.25					11.50	2.50
区西南部圏 3 32.00	0.67 4.67	0.33	1.00		4.33	0.33					42.00	1.33
	5.83 5.83	14.67	10.33	9.00	45.83	12.33		1.83	0.17	1.00	108.17	74.67
区西北部圏 6 40.67 2	.33 14.17	4.83	20.50	4.33	23.00	4.00		1.50	2.67	0.83	101.00	39.83
区東北部圏 2 27.00 2	0.50 6.50	5.00	7.50	2.50	26.50	3.00		1.50		0.50	67.50	33.00
区東部圏 3 73.00 2	.33 38.00	6.00	22.33	1.67	86.33	7.00		0.33	1.33		221.00	44.33
	5.75	7.00		3.00		1.25		23.25		4.00		74.25
北多摩西部圏 2 29.00 4	3.50 7.00	4.50	7.00	8.50	71.50	37.50	3.00	4.50	3.50	1.00	121.00	104.50
北多摩南部圏 1 24.00	2.00	3.00	4.00	2.00	26.00		2.00				56.00	7.00

第9表-3 性感染症年齢階級別累計表 2003年1月~2003年12月

	80) 1	80	10	80	12	80	24	l '	3		1		人
年齢階級			の 性器へル ルス感染	ペスウイ	尖圭コン			54 感染症	トリコモ	ĺ	梅毒梅	=	合	計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳														
1~4歳														
5~9歳														
10~14歳		1						1						2
15~19歳	46	165	7	17	6	22	35	57	1	23		1	95	285
20~24歳	205	457	32	98	49	72	194	98	4	81	1	4	485	810
25~29歳	261	322	40	132	52	47	228	79		61	6	9	587	650
30~34歳	202	181	52	124	57	25	203	30	3	40	9	6	526	406
35~39歳	185	81	54	44	58	17	148	23	2	44	5	3	452	212
40~44歳	97	33	50	34	31	4	72	7	1	22	4	6	255	106
45~49歳	66	15	39	16	31	2	46	1	1	28	3	1	186	63
50~54歳	41	3	30	9	25	2	25	8		15	1	3	122	40
55~59歳	38	3	27	13	13		19	1		9	1		98	26
60~64歳	9		10	9	2		11			5	1	1	33	15
65~69歳	6		11	4	2		5	2		1			24	7
70歳以上	5		6	7	1		4	1		2	1	2	17	12
合 計	1,161	1,261	358	507	327	191	990	308	12	331	32	36	2,880	2,634
前年計	1,251	1,285	397	553	308	194	950	299	16	431	33	8	2,955	2,770
当年/前年	0.93	0.98	0.90	0.92	1.06	0.98	1.04	1.03	0.75	0.77	0.97	4.50	0.97	0.95
増減数	-90	-24	-39	-46	19	-3	40	9	-4	-100	-1	28	-75	-136

第 2 章

東京都感染症発生動向調査事業における病原体検索成績

平成 11 年 4 月から施行された感染症法により位置づけを新たにされた本事業においては、各地 方感染症情報センターは患者情報と病原体情報を収集・分析し、速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとされている。平成 15 年、東京都立衛生研究所(現東京都健康安全研究センター)は、病原体定点などの医療機関から搬入された検体及び感染症発生時の調査の検体を用いて病原体の検索を行うとともに、都内協力検査機関からの病原体情報をとりまとめ、東京都感染症週報の病原体情報及び東京都微生物検査情報(月報)として関係機関に提供・公開した。実施した主な検査は定点把握の 5 類感染症のウイルス検査、感染症調査のウイルス検査、全数把握の 4、5 類感染症の細菌検査、性感染症の抗体検査と遺伝子検査、多摩地区の定点の感染性胃腸炎及びインフルエンザの検査である。

1 ウイルス

(1) 臨床診断名別の検体搬入状況

平成 15 年 1 月から 12 月末までの間に、東京都内の小児科および基幹検査定点より 2,157 件の検体が搬入された。その内訳は、糞便 445 件、咽頭拭い液 1,123 件、髄液 368 件、血液 119 件、結膜拭い液 15 件、尿 32 件および、胸水、胃液、剖検材料等のその他 55 件である。臨床診断名別の検体搬入状況は表 1 に示す通りである。

表 1. 臨床診断名別の検体搬入状況

交 1. 端床砂凼1					検 体 #	重		
診断名	検体数	咽頭拭い液	糞便	髄液	血液	尿	結膜拭い液	その他
下気道炎	374	327	35	4	1	5	1	1
感染性胃腸炎	292	17	235	5				35
無菌性髄膜炎	171	32	16	122	1			
上気道炎	170	152	9	5	1	3		
不明発疹症	156	133	11	1	7	1	1	2
不明熱	154	76	21	46	9	2		
痙攣	120	37	18	65				
脳症	83	11	5	59	7	1		
インフルエンザ	79	63	3	13				
川崎病	66	42	22	1		1		
デング熱	34				34			
肝炎	33	10	15		7	1		
手足口病	27	17	3	6	1			
突発性発疹	24	24						
リンパ節炎	21	17	3					1
ΗΙV	19			1	18			
流行性耳下腺炎	17	17						
ヘルパンギーナ	16	15	1					
伝染性紅斑	16	16						
口内炎	14	11	1					2
流行性角結膜炎	14	1					13	
麻疹	13	10		2	1			
心筋炎	10	4	5					1
尿路感染症	10	3	2	2		3		
サイトメガロ	10	3	1	1	1	4		
麻痺	8	4	3	1				
筋炎	7	2	3			1		1
腎炎	7	3	2			2		
Q熱	6				6			
ツツガムシ病	5				4			1
風疹	5	4				1		
ウエストナイル	4				4			
水痘	4	2		1				1
その他	168	70	31	33	17	7		10
総計	2,157	1,123	445	368	119	32	15	55

搬入された検体の臨床診断名は、上気道炎 170 件、下気道炎 374 件、感染性胃腸炎 292 件、無菌性髄膜炎 171 件、不明発疹症 156 件、不明熱 154 件、痙攣 120 件、脳炎・脳症 83 件、インフルエンザ 79 件、川崎病 66 件、デング熱 34 件、肝炎 33 件、手足口病 27 件、突発性発疹 24 件、リンパ節炎 21 件、HIV19 件、流行性耳下腺炎 17 件、ヘルパンギーナ 16 件、伝染性紅斑 16 件、流行性角結膜炎 14 件、口内炎 14 件、麻疹 13 件、サイトメガロ感染症 10 件、心筋炎 10 件、尿路感染症 10 件、麻痺 8 件、腎炎 7 件、筋炎 7 件、Q熱 6 件、ツツガムシ病 5 件、風疹 5 件、ウエストナイル熱 4 件、水痘 4 件及びその他 168 件であった。その他、意識障害、運動障害、中耳炎、腸重積、脱水症、膵炎、敗血症、心臓弁膜疾患、無呼吸症等の感染症診断のないものや臨床診断名の記載の無いもの等も含まれていた。

(2) 臨床診断名別にみたウイルス分離状況

搬入された検体 2,157 件を対象に、組織培養(HeLa・Hep-2・RD・MDCK・Vero・B95a 細胞等)及び乳のみマウスによるウイルス分離試験を行った。その結果、273 株のウイルスが分離同定された。分離されたウイルスの内訳は、図 1 に示すようにアデノウイルス 125 株 (45.8%)、エコーウイルス 35 株 (12.8%)、インフルエンザウイルス 16 株 (5.9%)、コクサッキーウイルス 15 株 (5.5%)、アストロウイルス 14 株 (5.1%)、ヘルペスウイルス 1 型 9 株 (3.3%)、ポリオウイルス 9 株 (3.3%) ムンプスウイルス 4 株 (1.5%)、RS ウイルス 1 株 (0.4%)、麻疹ウイルス 1 株 (0.4%) である。また、酵素抗体法によりロタウイルス抗原 44 株 (16.1%) が確認された。

臨床診断名別にみたウイルス分離状況を表2に示した。

ムンプス (4) RSウイルス (1) 麻疹ウイルス (1) アストロウイルス (14) コクサッキーウイルス (15) インフルエンザウイルス (16) ロタウイルス (44) アデノウイルス (125)

図. 1 ウイルス分離数 (総検出数273株)

表2. 臨床診断名別にみたウイルス分離状況

表 2. 臨床	診断名 かんりゅう かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい	וויל ו	<u>_</u> か	/ <u></u>	71	ル.	人刀	`稚1	人汀	C				A 61:0													
												点 反		_													
		上気道炎	下気道炎	インフル	脳炎・脳	無菌性髄膜	感染性胃腸	不明発疹症	手足口病	ヘルパン	突発性発	麻疹	伝染性紅	川崎病	不明熱	痙攣	咽頭結時	流行性角結時	流行性耳	肝炎	リンパ節	口内炎	耳下腺炎	中耳炎	麻痺	その他	総
		У.	У.	ルエンザ	脳症	膜炎	腸炎	症	71-51	ンギーナ	発疹		斑				熱	芦結膜炎	けん けんしゅうしゅう けんしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅう しゅう		炎		У.				計
分離ウイルス	検体数	170	374	79	83	171	292	156	27	16	24	13	16	66	154	120	2	14	17	33	21	14	2	2	8	283	2157
分離ウイルス	総計	26	43	12	1	11	69	13	8	10	2	1	1	2	21	11	1	9	7	6	1	5	1	1	1	10	273
インフルエンザ	AH3		6	3												1											10
インフルエン・リ	В			4											2												6
	1		4	1			2								2	5								1			15
	2	6	13	1			4	5		1	1				6	1		1	1	1			1				43 51
	3	14	12	1	_		4	2	1	1				1	2	2	1	1		3						6	51
アデノ	4	2								1																	3
	5		1	1	_																					2	4
	19				_													7									7
	40/41						2				_			- 1											_		2
ポリオ	1				1		1	- 1						1	- 1										1		4
小りな	2 3				-		1	1							1					1							3
	A10				-				1																		1
	A10				-			1	1	3																	5
	B1				-				_	1																	1
コクサッキー	B2					1																					1
	B3			1																							1
	B4				\neg						1		1		1												3
	B5		2												1												3
	3																		1								1
	6					3	1								1						1						6
エコー	7	1													1												2
	9		1					1							1											1	4
	18		2			5										1			1								9
	25					1																					1
エンテロ	71	1						3	4	3					1												12
単純ヘルペス	1	1	1]									2		Щ					5					9
RS		1																									1
アストロ							13													1							14
ムンプス																			4								4
ロタ			1			1	40									1										1	44
麻疹												1															1

臨床診断別にみたウイルス分離状況を表 2 に示す。

呼吸器系疾患では、インフルエンザ患者から、インフルエンザウイルス (INFV) 7 株 (AH3 型:3 株、B型:4株)、アデノウイルス (ADV) 4株 (1型:1株、2型:1株、3型:1株、5型:1株) コクサッキーB群ウイルス (CBV) 3型1株が分離された。上気道炎患者から、ADV22株 (2型:6株、3型:14株、4型:2株)、エコーウイルス (EV) 7型1株、エンテロウイルス 71型(EnV71)1株、単純ヘルペスウイルス (HSV) 1型1株、RS ウイルス (RSV) 1株が分離された。下気道炎患者から、INFV AH3型6株、ADV 30株 (1型:4株、2型:13株、3型:12株、5型:1株)、CBV 5型2株、EV 3株 (9型:1株、18型:2株)、HSV1型1株が分離され、酵素抗体法によりA群ロタウイルス (RoAV)1株が確認された。

発疹性疾患では、手足口病患者から、ADV 2株(2型:1株、3型:1株)、コクサッキーA群ウイルス(CAV)2株(10型:1株、12型:1株)、エンテロウイルス71型(EnV71)4株が分離された。ヘルパンギーナ患者から、ADV3株(2型:1株、3型:1株、4型:1株)、CAV12型3株、CBV1型1株、EnV71 3株が分離された。不明発疹患者から、ADV7株(2型:5株、3型:2株)、ポリオウイルス(PV)2型1株、CAV12型1株、EV9型1株、EnV713株が分離された。

髄膜脳炎では、無菌性髄膜炎患者から、CBV2型1株、EV9株(6型:3株、18型:5株、25型:1株)が分離され、酵素抗体法によりRoAV1株が確認された。脳炎・脳症患者から、PV2型 1株が分離された。

感染性胃腸炎患者から、ADV 12株(1型:2株、2型:4株、3型:4株、40/41型:2株)、PV3株(1型:1株、2型:1株、3型:1株)、EV6型 1株が分離され、酵素抗体法によってアストロウイルス(AsV)13株とRoAV40株が確認された

けいれん患者からは、INFVAH3型が 1 株、ADV 8 株(1型:5株、2型:1株、3型:2株)、EV18型が 1 株分離され、酵素抗体法によって RoAV 1 株が確認された。

不明熱患者検体からは、INFB型が2株、ADV 10株 (1型:2株、2型:6株、3型:2株)、PV1型1株、CBV 2株 (4型:1株、5型:1株)、EV 3株 (6型:1株、7型:1株、9型:1株)、EnV711株、HSV1型 2株が分離された。

(3) 臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況

臨床診断名別にみた遺伝子検出状況を図2、表3に示す。

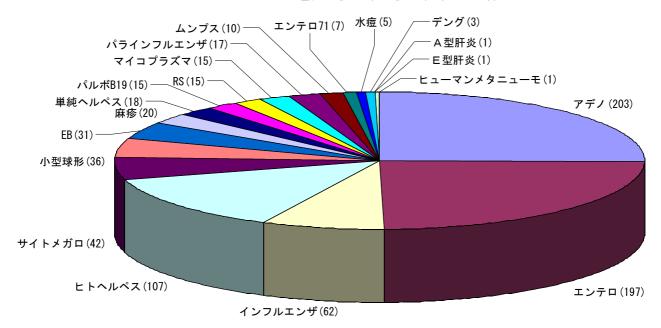


図2. ウイルス遺伝子検出数(検出総数 806件)

① 搬入された検体 2,157 件を対象に遺伝子検索を実施した結果、陽性例は 806 件であった。その内訳をみると、アデノウイルス陽性例が 806 件中 203 件(25.2%)と最も多く、以下、EV197 件(24.4%)、ヒトヘルペスウイルス(HHV)107 件(13.3%)、INFV62 件(7.7%)、サイトメガロウイルス(CMV)42件(5.2%)、ノロウイルス(NoV)36 件(4.5%)、EB ウイルス(EBV)31 件(3.8%)、麻疹ウイルス(MeV)20件(2.5%)、HSV18 件(2.2%)、パラインフルエンザウイルス(PIV)17 件(2.1%)、パルボ B19 ウイルス(PB19)15 件(1.9%)、RSV15 件(1.9%)、マイコプラズマ(Myco)15 件(1.9%)、ムンプスウイルス(MuV)10 件(1.2%)、EnV71 型4件(0.9%)、水痘・帯状疱疹(VZV)ウイルス 9 件(0.6%)、デングウイルス(DenV)3 件(0.4%)、A型肝炎ウイルス(HAV)、E型肝炎ウイルス(HEV)、ヒューマンメタニューモウイルス(hMNV)はそれぞれ1件(0.1%)であった。

各ウイルスに対する遺伝子検査の陽性率は、アデノウイルスでは 1359 件中 203 件と 14.9%であり、以下、EnV 23.8%、INFVAH3 型 5.4%、INFVB 型 5.8%、HHV6 型 48.1%、HHV7 型 8.6%、CMV 25.3%、NoV 12.0%、EBV 11.7%、MeV18.0%、HSV 10.7%、PB19 17.2%、RSV 2.9%、Myco 2.3%、PIV1 型 4.9%、PIV3 型 8.9%、MuV13.7%、EnV71 16.7%、 VZV 16.1%、DenV 23.6%、HAV 16.7%、HEV

表3. 臨床症状別にみたウイルス遺伝子検出状況

秋 ⁰ . m////////////////////////////////////	検	陽	<u> </u>	,,,	٠,٠	<u> </u>	• .	<u> </u>	1 1/1	// 0					臨	床	診	:) (#	· 名								_	_				_	\neg
	查総数	性数	下気道炎	上気道炎	インフルエンザ	その他	ヘルパンギーナ	不明発疹症	染性胃腸炎		口内炎	手足口病	川崎病	伝染性紅斑	突発性発疹	脳症	不明熱	痙攣 10	麻疹	無菌性髄膜炎	流行性角結膜炎	流行性耳下腺炎	頚部リンパ節炎	デング熱	尿路感染症	水痘	咽頭結膜熱	中耳炎	風疹	心筋炎	腎炎	伝染性単核球症	その他
アデノ	1359	203		28	6	9	4	17	32			ვ	5		1	1	13	10		1	12						2	2					9
エンテロ	829	197	12	19		13	10	23	5	3		15	2		1		23	10	1	50					1					1	Ш	ш	13
インフルエンザ AH3		30		13	26	1		1					1			3	1	1									Ш	ш			Ш	ш	1
B	556	32	4	12	13	1							1				1															ш	1
ヒトヘルペス 6	189	91	4	8		2	1	35					1		13	3	5	15		2							ш		1		1		2
	187	16		2				8						1	3			2														ш	
サイトメガロ	166	42	15	6		3		2		10							4								2		ш						3
小型球形	300	36							35	1																						ш	
EB	264	31	2	6	1	3		4		1			1				2		2	1		1	5				ш		1			_1_	3
麻疹	111	20	1		1			5						1	1				11									<u> </u>					
単純ヘルペス	168	18	3	1		2					9					1	2															ш	2
パルボ B19		15						6					1	8													ш						
RS	520	15	13	1									1														ш	ш				ш	
マイコプラズマ	665	15	13														1						1					<u></u> '			Ш		ш
パラインフルエ 1	123	6	6																								Ш	ш			ш		
ンザ 3	123	11	11																								ш				Ш		ш
ムンプス	73	10				1											2					7					ш				Ш	ш	_1_
エンテロ 71	42	7					1	1				4								1							ш	ш			ш	\square	\Box
水痘	31	5														2										3	ш	∟'			Ш	ш	ш
デング $\frac{1}{2}$	17	2		$oxed{oxed}$																				2			ш	igspace			ш	\square	ш
3	17	1																						1			ш	∟'			ш	\square	ш
A型肝炎	6	1		Ш						1																	ш	∟'			Ш	Щ	ш
E型肝炎	3	1								1																	ш	∟'			Ш	\perp	ш
ヒューマンメタニューモ	16	1	1																								ш	∟'			ш	\square	ш
総計	6408	806	150	84	34	34	16	102	72	20	9	22	12	10	19	18	53	38	14	55	12	8	6	3	3	3	2	2	2	1	1	_ 1_	34

33.3%、hMNV 6.3%であった。

- ② EnV 遺伝子は、検出されたもののうち、無菌性髄膜炎患者検体からの検出が 25.4%と最も多く、 次いで、発疹性疾患患者 (不明発疹、ヘルパンギーナ、手足口病) から約 24.4%、下気道炎、上気 道炎患者等の呼吸器感染症患者検体から 15.7%、不明熱から 11.7%と様々な検体から検出された。
- ③ ADV 遺伝子検出例の 26.6%は下気道炎が占めており、13.8%は上気道炎、15.8%が感染性胃腸炎患者検体から検出された。不明発疹症患者からの検出は8.4%であった。
- ④ HHV6 遺伝子は不明発疹症からの検出が最も多く 38.5%であった。痙攣症状を示す患者からの検出が 16.5%とそれに続いて多く、突発性発疹からの検出率は 14.3%であった。

(4) 臨床診断別にみた抗体検査状況

血清学的検査結果を表 4 示す。搬入された血液検体 119 件について酵素抗体法、中和抗体法、補体結合反応を行った。デング熱については、搬入された検体 34 件のうち 12 件 (38.5%) が抗デングウイルス抗体陽性であった。HIV 感染症疑いで搬入された 18 件については、5 件の抗HIV 抗体が陽性であった。ウイルス性肝炎と診断された 6 検体について E 型肝炎

表 4. 抗体検査結果

診断名	陽性	陰 性	合 計
デング熱	12	22	34
HIV感染症	5	13	18
Q熱		8	8
ウイルス性肝炎	2	4	6
ツツガムシ病		3	3
ライム病	1	2	3
ウエストナイル		1	1
クラミジア		1	1
その他		9	9
総 計	20	63	83

抗体を測定したところ、IgM 抗体は全て陰性であったが、IgG 抗体は 2 検体が陽性であった。また、ライム病が疑われた 3 検体のうち 1 件についてその原因である抗 Borrelia burgdorferi IgM 抗体が陽性であった。 Q 熱疑い患者では、抗 Coxiella burnetii 抗体が全例とも陰性であった。

(5) 感染症疫学調査

① SARS関連の検査結果

平成 15 年 3 月 17 日から 9 月 22 日までに、重症急性呼吸器症候群 (SARS) 伝播確認地域より帰国後、38 度以上の急な発熱及び咳、呼吸困難等の呼吸器症状を示し、胸部レントゲン写真で肺炎を示す症例 (SARS 可能性例、一部疑い例、接触者を含む)が都内において 37 例確認された。これら 37 例より採取された 111 検体(咽頭ぬぐい液、喀痰、ふん便、血液および尿)を対象に、SARS コロナウイルスを含む病原体検索を実施した。検索した病原体は、SARS コロナウイルス、メタニューモウイルス、インフルエンザウイルス、アデノウイルス、パラインフルエンザウイルス、マイコプラズマ、クラミジアなどである。その結果、SARS コロナウイルス遺伝子および同ウイルスに対する抗体を検出した例はなかったが、19 例からアデノウイルス、インフルエンザウイルスまたはメタニューモウイルス等のウイルス遺伝子が検出され、8 例でクラミジアに対する抗体が陽性となった。

② 幼稚園における無菌性髄膜炎の流行

平成 15 年 5 月末に北区保健所管内の幼稚園において、園児を中心に無菌性髄膜炎の流行が起こった。患者は園児及びその兄弟であり、患者が呈した主な臨床症状は、発熱、頭痛であった。また、この他の症状として上気道炎を併発している患者もみられた。

当センターにおいて、これら 5 名の患者から採取された検体 15 件(咽頭拭い液 5 件、髄液 5 件及び糞便 5 件)のウイルス検査を実施したところ、内 3 名から採取された検体 5 件(咽頭拭い液 1 件、髄液 1 件及び糞便 3 件)よりエコーウイルス 18 型が検出された。

エコーウイルス 18 型による無菌性髄膜炎は、全国では、エコーウイルス 30 型、6 型及びエンテロウイルス 71 型に次いで多く報告されており、東京都の感染症発生動向調査においても、6-7 月に無菌性髄膜炎患者から検出されている。このことから、本事例はエコーウイルス 18 型の都内初発例であったことが推察された。

2 細 菌

(1) A 群溶血性レンサ球菌

都内 5 カ所の病原体定点(聖母、東京都済生会中央、逓信、佼成、都立清瀬小児)を対象に実施している。 A群溶血性レンサ球菌のサーベイランスは、2003 年には外来患者由来 98 株、入院患者由来 19 株が送られてきた。菌株 107 株のT型について調査した。

A群レンサ球菌の菌分離は $1 \sim 3$ 月: 33 株、 $4 \sim 6$ 月: 35 株、 $7 \sim 9$ 月: 14 株、 $10 \sim 12$ 月: 35 株であった。2003 年には 2,7,8,9 月を除いては毎月 10 株以上送付され、溶レン菌流行の年であった。 (表 5)。

表5. 分離月別件数(外来・入院)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
件数	12	5	16	13	10	12	7	4	3	12	12	11

外来患者由来株 98 株と入院患者由来株 19 株についてT型別を行った。T型は 12 種類に型別され、外来患者由来株はT-12 型:35 株、T-1 型:13 株、T-4 型:132 株、T-28 型:10 株、T-3 型:5 株、T-6 型:4 株、T-B3264 型:4 株などであった。 入院患者由来ではT-3 型:4 株、T-12 型:4 株、T-28 型:3 株、T-4型:2 株、T-11 型:2 株などであった (表 6)。

表6. T型別菌株数

T型	T-1	T-2	T-3	T-4	T-6	T-11	T-12	T-13	T-22	T-25	T-28	T-B3264	UT	合計
外来患者株	13	1	5	13	4	3	35	1	1	3	10	4	5	98
入院患者株	1		4	2	1	2	4				3	1	1	19

(2) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA)

都内 2 カ所の病原体定点(聖母、東京都済生会中央)を対象に小児科外来患者のMR S A 保菌者検索を実施している。また逓信病院、佼成病院および都立清瀬小児は外来・入院患者由来のMR S A 等の型別を実施している。外来患者由来のMR S A は、コアグラーゼ Π 型: 11 株、コアグラーゼ Π 型: 12 株、コアグラーゼ Π 型: 10 株、コアグラーゼ Π 2 が Π 3 で Π 4 で Π 5 で Π 6 で Π 7 に Π 7 で Π 7 で Π 7 で Π 8 に Π 9 に Π

表7. 黄色ブドウ球菌のコアグラーゼ型とエンテロトキシン型

		入	.院(1	/IRS	4)		外	·来(N	/IRS	A)				入院	•外来	E(MS	SSA)			
	I	П	III	VII	X	UT	I	П	${ m I\hspace{1em}I}$	UT	Ι	Ι	${ m III}$	IV	V	VI	VII	VIII	X	UT
_	21	8	12	1	2	2	7	1	2	2	2	2	3		7	1	5	1	4	2
Α			1											1						
AT														1						
В		1	2														1			
ВСТ		10																		
ВС																				
С											1		1				1			
СТ		97						10	1								3			
D		1																		
Т		1																		
計	21	118	15	1	2	2	7	11	1	2	3	2	4	2	7	1	10	1	4	2

入院患者由来のMRSAについては、コアグラーゼ II型: 118 株、コアグラーゼ II型: 21 株、コアグラーゼ II2 (21 株、コアグラーゼ II2 (21 株、コアグラーゼ II2 (32 株などであった (表 7)。

(3) 二類感染症の病原体検索

ジフテリア菌と疑われた株が同定のため送付されてきた。生化学性状試験、PCRによる毒素遺伝子検査の結果、Corynebacterium diphtheriae は否定された。

(4)四類感染症の病原体検索

① レジオネラ症

2003 年に 2 名のレジオネラ症の報告があり、1 株が当所に送付されてきた。血清型は L.pneumophila serogroup 1 であった。

(5) 五類全数把握感染症の病原体検索

① 劇症型レンサ球菌感染症 (TSLS)

2003 年に、東京都内で 6 名の患者発生があり、その内の 4 株が送付されてきた。 S.pyogenes 3 株と G 群の多糖体抗原を保有する、 S.dysgalactiae subsp. equismilis が 1 株送付されてきた。

S.pyogenes 3株のT型はT-1型:1株、T-12型:1株、型別不能:1株であった。また全国の病院から、5名のTSLS患者から分離された5株の検査依頼があり、それらはA群:4株、A群抗原保有 S.dysgalactiae subsp. equismilis であった。A群のT型は、T-3型:3株、T-5/27/44型:1株、UT:1株であった(表8)。

表8. 劇症型レンサ球菌感染症患者由来(A群)株のT型別

T型	T-1	T-3	T-12	T-5/27/44	UT
東京	1		1		1
全国		3		1	1 *

東京でG群が1株検出されている

② 髄膜炎菌性髄膜炎

2003 年に、東京都内で 4 名の髄膜炎菌性髄膜炎患者の発生があった。髄膜炎患者由来 4 株の血清型はB群、C 群、Y 群、型別不能であった。型別不能株を PCR 法による遺伝子検査を実施したところ Y 群の遺伝子を保有していた。

③ バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE)

2003 年に、東京都内で 4 名の VRE 感染症の報告があり、4 株が送付されてきた。

E.faegium: 1株、E.gallinarum: 3株であった。

表9. 分離されたVRE

	VanC
E.faecium	1
E.gallinarum	3

^{*}全国でA群抗原を持つStreptococcus equismilisが1株検出されている。

3 性感染症

2003 年 1 月から 12 月までの間に病原体定点(婦人科医院)から搬入され、検査に供した材料は延べ 400 例の被験者から採取された血清 278 件、子宮頸管擦過(分泌)物 375 件である。被験者の年齢構成は表 10 に示したごとく、最年少は 16 歳で、10 歳代 24 例 (6.0%)、20 歳代が 244 例 (61.0%)と最も多く、30 歳代が 100 例 (25.0%)であった。

供試した材料のうち、血清検体については従来の梅毒血清反応、 クラミジア・トラコマチス (CT) 抗体検査に加えて、5 月以降に搬入 された 205 件については赤痢アメーバ抗体、HIV 抗体、B型・C型

表10. 被験者の年齢構成

年齢群	患者夠	数(%)
16 ~ 19	24	(6.0)
20~24	105	(26.3)
25~29	139	(34.8)
30~34	75	(18.8)
35 ~ 39	25	(6.3)
40~44	12	(3.0)
45 ~ 49	5	(1.3)
50以上	3	(8.0)
不明	12	(3.0)
合計	400	

肝炎ウイルスの検査を実施した。また、子宮頸管擦過(分泌)物では従来の CT 遺伝子、淋菌遺伝子検査、ヒトパピローマウイルス(HPV)遺伝子検査に加え、5 月以降に搬入された 241 件についてはトリコモナス遺伝子検査も併せて実施し、調査を充実させた。

(1)梅毒・クラミジア・淋菌

合計

278

梅毒血清反応は脂質抗原を使用したガラス板法・RPR法と、TP抗原を用いたTPHA法で実施した。抗CT IgA抗体・IgG抗体はELISA法により検査を実施した。

血清検体の検査結果を表 11 に示した。梅毒血清反応検査において陽性となった例数は 5 / 278 例 (1.8%) であった。陽性であった 5 例のうち、20 歳代後半の 2 例は脂質抗原法陽性であったが抗体価は 2 倍・4 倍と高値ではなかった。他 3 例は 40 歳代前半 2 例と後半 1 例で、これらはいずれも脂質抗原法による検査では陰性で TPHA 法のみ陽性であった。

年齢群	検査数	梅毒抗体陽性	CT抗体陽性	内	訳 (陽性数に対	する割合)
十一图7年		(%)	(%)	$IgA(+) \cdot IgG(-)$	$IgA(+) \cdot IgG(+)$	$IgA(-) \cdot IgG(+)$
16~19	21		12 (57.1)	1 (8.3)	7 (58.3)	4 (33.3)
20~24	70		33 (47.1)	1 (3.0)	23 (69.7)	9 (27.3)
25~29	96	2 (2.1)	45 (46.9)	6 (13.3)	26 (57.8)	13 (28.9)
30~34	50		25 (50.0)	2 (8.0)	15 (60.0)	8 (32.0)
35~39	17		9 (52.9)		5 (55.6)	4 (44.4)
40~44	10	2 (20.0)	4 (40.0)		3 (75.0)	1 (25.0)
45~49	3	1 (33.3)	1 (33.3)			1 (100)
50以上	2					
不明	9		4 (44.4)		3 (75.0)	1 (25.0)

表11. 年齢群別血清検体の梅毒、CT抗体検査結果

5 (1.8)

抗CT抗体の陽性数は 133 / 278 例 (47.8%) であった。抗体陽性例中の 10 件 (7.5%) が IgA 抗体のみ陽性、82 件 (61.7%) が IgA 抗体・IgG 抗体ともに陽性で、抗CT抗体陽性例の 69.2% が IgA 抗体を保有していた。残りの 41 件 (30.8%) は IgG 抗体のみ陽性であった。

133 (47.8)

10 (7.5)

82 (61.7)

41 (30.8)

子宮頸管擦過(分泌)物について行った淋菌遺伝子検査およびCT遺伝子検査の結果を表 12 に示した。淋菌遺伝子検査の陽性は全体で 33 / 375 例(8.8%)であった。陽性例を年代別に見ると 10 歳代では 5 件(21.7%)ときわだって高く、20 歳代前半が 9 件(9.2%)、20 歳代後半が 15 件(11.5%)、30 歳代前半が 4 件(5.7%)と、いずれも 30 歳代前半以下であった。

C T遺伝子検査の陽性は 69 / 375 例 (18.4%) であった。年代別に陽性例を見ると、10 代は 11 例 (47.8%) とその陽性率は高く、ついで 20 歳代前半では 22 件 (22.4%)、20 歳代後半は 26 件 (19.8%) であった。30 歳前半の 9 %、後半 8 % に比較すると 10 歳代 20 歳代の陽性率は有意に高いものであった。

血清と子宮頸管擦過(分泌)物が共に搬入され、CT抗体検査と核酸検査を行うことができた 254 例の検査結果を表 13 に示した。CT遺伝子が陽性であった 48 例のうち抗体も陽性であったものは 30 例(62.5%)で、遺伝子が検出さ

表12. 年齢群別子宮頸管擦過(分泌)物の 淋菌およびCT遺伝子検査結果

年齢群	検査数	淋菌遺伝子 (%)	CT遺伝子 (%)
16~19	23	5 (21.7)	11 (47.8)
20~24	98	9 (9.2)	22 (22.4)
25~29	131	15 (11.5)	26 (19.8)
30~34	70	4 (5.7)	6 (8.6)
35~39	24		2 (8.3)
40~44	12		
45 ~ 49	5		
50以上	2		1 (50.0)
不明	10		1 (10.0)
合計	375	33 (8.8)	69 (18.4)

れても抗体陰性であったものが 3 割以上認められた。また、遺伝子陰性例 206 例のうち 91 例 44 % が C T 抗体陽性であったが、このうち 58 例は IgA 抗体を保有していた。

表13. CT遺伝子検査成績別CT抗体検査結果

遺伝子検査 成績と検体数	合計 (%)	抗体	陽 性 内 訳		抗体陰性
		$lgA(+) \cdot lgG(-)$	$lgA(+) \cdot lgG(+)$	$IgA(-) \cdot IgG(+)$	
陽性 48	30 (62.5)	2 (4.2)	22 (45.8)	6 (12.5)	18 (37.5)
陰性 206	91 (44.2)	8 (3.9)	50 (24.3)	33 (16.0)	115 (55.8)
合計 254	121 (47.6)	10 (3.9)	72 (28.3)	39 (15.4)	133 (52.4)

(2) ヒトパピローマウイルス(HPV)の遺伝子検査

子宮頸管擦過(分 泌)物からのHPV 検査はPCR法りの となけって遺伝を ではないる がら型別を行って がら型別を行って がら型別を行って がら型別を がら型別を がらずる がなれた がないる がなれた が

表14. 年齢群別子宮頸管擦過(分泌)物におけるHPV検査結果

年齢群	検査数		陰性 (%)		
十一因77年	快且奴	Highリスク型	Lowリスク型	リスク分類なし	法 正 (/0)
16~19	23	6 (26.1)		4 (17.4)	13 (56.5)
20~29	228	42 (18.4)	10 (4.4)	35 (15.4)	141 (61.8)
30~39	94	18 (19.1)	2 (2.1)	16 (17.0)	58 (61.7)
40~49	17			2 (11.8)	15 (88.2)
50以上	2				2 (100)
不明	9	2 (22.2)			7 (77.8)
合計	373	68 (18.2)	12 (3.2)	57 (15.3)	236 (63.3)

検査を実施した子宮頸管擦過(分泌)物は 373 件あり、そのうち 137 件(36.7%)からHPVの遺伝子を検出した。リスク評価による分類では、16 型、18 型、31 型など 14 の遺伝子型が知られている High リスク群に分類されたのが 68 件(18.2%)、6 型、11 型、42 型など 5 遺伝子型が知られている Low リスク群は 12 件(3.2%)で、そして、いずれの群にも属さずリスク分類されていない遺伝子型となったものは 57 件(15.3%)であった(表 5)。 High リスク型の検出率を年代別に見ると、10 歳代において 6 件(26.0%)、20 歳代で 42 件(18.4%)、30 歳代で 18 件(19.1%)、50 歳代以上で 2 件(18.2%)と、10 歳代で高率であった点が注目される。

(3) ヒト免疫不全ウイルス (HIV) 検査

HIV検査は酵素免疫測定法(ELISA法)を用いてスクリーニング検査を行い、スクリーニング 検査で陽性となった場合には、ウエスタンブロット法等による確認検査を実施し、陽性および陰性 の最終判定を行っている。

5月以降に搬入され検査を実施した血清検体は 205 件であったが、搬入された全ての検体は陰性であった。

(4) 肝炎ウイルス

HIV 抗体検査と同様に、5 月以降に搬入された血清検体 205 件について B 型および C 型の肝炎ウイルスについて検査を実施した。

B型肝炎ウイルス(HBV)の逆受身赤血球凝集反応による HBs 抗原の検出と受身赤血球凝集反応による抗 HBc 抗体の検出の 2 方法によってスクリーニングし、スクリーニングで陽性となった検体は ELISA 法による HBs 抗原の確認を実施した。供試した 205 件のうち抗 HBc 抗体陽性は 9 件(4.4%)が陽性で、B型肝炎ウイルス感染歴が確認された。このうち HBs 抗原が確認できたのは 1件であった。年代別検査成績を表 15 に示すように、20 歳代後半に 1 例、30 歳代に HBs 抗原陽性の 1 例を含む 3 例、40 歳代に 4 例あり、1 例は年代が不明であった。

		1				
年齢群	検査数	нв`	V (%)	H C V (%)		
十一图7年	快且致	HBs抗原	HBc抗体	遺伝子	抗体	
16~19	15					
20~24	53					
25~29	69		1 (1.4)			
30~34	43	1 (2.3)	3 (7.0)			
35~39	8					
40~44	8		3 (37.5)	2 (25.0)	3 (37.5)	
45以上	3		1 (33.3)			
不明	6		1 (16.7)			
合計	205	1 (0.5)	9 (4.4)	2 (1.0)	3 (1.5)	

表15. 年齡群別HBV·HCV検査結果

また、C型肝炎ウイルス (HCV) は HCV 抗原を吸着させたゼラチン粒子凝集法による抗 HCV 抗体検出によってスクリーニングし、陽性例は PCR 法で HCV 遺伝子の確認を行った。この結果、2 例が遺伝子陽性で、抗体のみ陽性であった 1 例を含め 3 例 1.5%が C型肝炎ウイルスの感染歴を有していた。この 3 例共に 40 歳代であった。

(5)赤痢アメーバ

赤痢アメーバの検査は、ELISA 法による血清中の抗赤痢アメーバ IgG 抗体の検出により実施した。 赤痢アメーバ抗体陽性は供試した 205 検体中 3 件 (1.5%) から検出された。陽性 3 例は、20 歳代が 2 例、30 歳代が 1 例と若い世代に認められた。男性同性愛者において赤痢アメーバと梅毒の重複感 染が多いことが知られているが、今回の調査ではその例はなかった。

(6) 膣トリコモナス

検査は子宮頸管擦過(分泌)物を検査試料として、膣トリコモナスのβ-tubulin 遺伝子を標的とす

る PCR 法によって行った。供試した 241 検体中、5 件(2.1%)から膣トリコモナス遺伝子が検出され、 そのすべてが 20 歳代であった。また、赤痢アメーバとの重複感染は認められなかったが、両原虫 の感染状況については今後も注目していく必要がある。

(7) 重複感染の状況

血清と子宮頸管擦過(分泌)物が共に搬入され、調査項目 9 病原体に関する検査を行うことができた 187 例について、陽性例が無かった HIV 以外の病原体による重複感染の状況を、10 歳毎に区切った年齢グループ毎に示した(表 16)。CT、B型・C型肝炎ウイルスについては抗体のみ陽性の場合についても感染歴あったものとして集計した。187 例のうち 8 病原体に関する検査がすべて陰性であったのは 57 例(30.5%)である。1 種類の病原体のみに感染歴を有する例は 71 例(38%)で、2 種以上の病原体に重複感染歴を有していたのは 59 例(32%)にのぼった。年代別にみると、いずれの年代群においても単独感染例が多くみられたが、20 歳代を除いて陽性例の半数以上は重複感染例であった。 特に 10 歳代では上記のいずれかの疾患に感染歴を持つ陽性率は 79%で、その 1/3 以上が 3 種類の病原体に感染歴を有していた。4 種類の病原体に重複感染していた例は 30 歳代前半と 40 歳代前半にそれぞれ 1 例あった。

年齢群	被験者数	感染なし(%)				感染病	原体数			
十田市行	10000000000000000000000000000000000000	営来なし(物)	1種	1種類(%)		2種類(%)		3種類(%)		類(%)
16~19	14	3 (21.4)	5	(35.7)	2	(14.3)	4	(28.6)		
20~29	109	29 (26.6)	47	(43.1)	28	(25.7)	5	(4.6)		
30~39	48	18 (37.5)	15	(31.3)	12	(25.0)	2	(4.2)	1	(2.1)
40以上	10	3 (30.0)	3	(30.0)	2	(20.0)	1	(10.0)	1	(10.0)
不明	6	4 (66.7)	1	(16.7)	1	(16.7)			·	·
合計	187	57 (30.5)	71	(38.0)	45	(24.1)	12	(6.4)	2	(1.1)

表16. 年代別重複感染状況

最も感染例が多くみられた CT 感染歴の有無とその他の性感染症検査成績との関連を検討したところ、表 17 に示すように、CT 感染歴がある群では CT 感染歴が認められなかった群に比べ、肝炎ウイルスを除いた他の病原体の陽性率が高かった。特に、淋菌感染例 22 例のうち 17 例が CT との重複感染であった。今回から検査項目とした原虫類の陽性例は少なかったが、赤痢アメーバ陽性 3 例のうち 2 例、膣トリコモナス陽性 5 例のうちの 4 例がいずれも CT との重複感染例であった。肝炎ウイルスは性感染症の性格を有してはいるが、その他の感染経路もあることから、他の性感染症とは異なった傾向を示したと考えられる。

CT の抗体検査は陽性であっても、必ずしも検査時点での CT 感染を意味するものではないことから、CT 感染を確認するには遺伝子検出など病原体の検査が必要である。しかしながら、CT 感染 歴陽性群では表 17 に示すように、他の性感染症との重複感染率が高いことを示しており、CT 抗体 検査は個人の性感染症に対するリスクを示す一つの指標となりうると考えられた。

表17. CT検査結果別重複感染状況

СТ			病原体陽性数(%)									
検査結果	被験者数梅毒淋		淋菌	トリコモナス	赤痢アメーバ	HPV		HBV	HCV			
人五州水		1147 744	严 图	1 /1 1 / /) = [)) (si-mil)		highリスク型	1	110 V			
陽性	103	2 (1.9)	17 (16.5)	4 (3.9)	2 (1.9)	40 (38.8)	20 (19.4)	5 (4.9)	1 (1.0)			
陰性	84	1 (1.2)	5 (5.9)	1 (1.2)	1 (1.2)	20 (23.8)	11 (13.1)	4 (4.8)	2 (2.4)			
合計	187	3 (1.6)	22 (11.8)	5 (2.7)	3 (1.6)	60 (32.1)	31 (16.6)	9 (4.8)	3 (1.6)			

4 多摩地区の感染症発生動向調査事業における病原体検査成績

健康安全研究センター多摩支所では、感染症発生動向事業の一環として、多摩地区の医療機関(9 定点)の協力を得て平成3年5月から感染性胃腸炎(乳児嘔吐下痢症を含む)について腸管系病原体検索を実施してきている。また、平成8年12月からは、同医療機関においてインフルエンザ様疾患と診断された患者の咽頭ぬぐい液についてもウイルス検索を実施し、本事業の充実を図っている。以下、平成15年1~12月の1年間に得られた成績の概略を報告する。

検査定点として協力していただいた医療機関は、江崎小児クリニック(多摩市)、桜井医院(稲城市)、野上医院(立川市)、藤田医院(武蔵村山市)、さとう小児科医院(八王子市)、星野小児科内科クリニック(あきる野市)、太陽こども病院(昭島市)、及び水野小児科医院(府中市)の9 医療機関である。

(1) 感染性胃腸炎検査成績

平成 15 年の 1 年間に定点医療機関から搬入された感染性胃腸炎の検体は 105 件であった。これらについて、腸管系病原菌及びウイルス検索を行った結果を表 18 に示した。105 検体中 39 件 (37.1%) が病原体陽性であった。陽性例の内訳は、病原菌陽性例が 16 件(15.2%)、ウイルス陽性例が 29 件(27.6%)であった。

表18. 感染性胃腸炎からの腸管系病原体検査成績概要

 $(2003.1 \sim 12)$

				(2003.1 - 12)
年齢	検査	陽性	検出病原体	の内訳(%)
区分			病原菌	ウイルス
1歳未満	15	9(60.0)	0	9(60.0)
1 - 4歳	30	13(43.3)	6(20.0)	8(26.7)
5 - 9歳	6	2(33.3)	1(16.7)	3(50.0)
10 - 14歳	2	0	0	0
15 - 19歳	3	1(33.3)	1(33.3)	0
20歳以上	49	14(28.6)	8(16.3)	9(18.4)
計	105	39(37.1)	16(15.2)	29(27.6)

*同一検体から複数の病原体が検出される場合があるため 陽性件数と検出病原体の数は一致しない。

患者年齢区分別検出状況と月別検出状況を表 19、20 及び図 3 に示した。検出病原体は 7 種類で、4 種の病原菌と 3 種のウイルスが検出された。最も高頻度に検出された病原体はノロウイルスで 13 件、次いでロタウイルス 12 件、腸管病原性大腸菌 6 件、カンピロバクター 5 件、アデノウイルスとサルモネラ属菌が各 4 件ずつ、エロモナス 1 件であった。

各年齢区分と検出病原体をみると 1 歳未満ではウイルスが主な病原体であり、その中心はロタウイルスであった。 $1 \sim 4$ 歳では病原菌とウイルス両者を原因とした例が多く、その中でも多く検出されたのはノロウイルスとカンピロバクターであった。月別病原体検出状況を見ると、これまでと同様 $1 \sim 3$ 月及び 12 月の冬季にウイルスの検出頻度が高かった。また、混合感染例が 5 例ありカンピロバクター+ロタウイルス+アデノウイルスが 1 件、腸管病原性大腸菌+ノロウイルスが 2 件、サルモネラ属菌+腸管病原性大腸菌が 1 件、ロタウイルス+アデノウイルスが 1 件であった。

表19. 感染性胃腸炎からの年齢区分別腸管系病原体検出状況

 $(2003.1 \sim 12)$

		(2000.1 12)							
年齢	検査		病原	東菌			ウイルス		
区分	件数	サル	カンピロ	病原	Η	ロタ	ノロ	マニノ	
		モネラ	バクター	大腸菌	モナス	цŅ	/	アデノ	
1歳未満	15	0	0	0	0	6	2	1	
1 - 4歳	30	1	3	1	1	2	5	1	
5 - 9歳	6	0	1	0	0	2	0	1	
10 - 14歳	2	0	0	0	0	0	0	0	
15 - 19歳	3	0	0	1	0	0	0	0	
20歳以上	49	3	1	4	0	2	6	1	
計	105	4	5	6	1	12	13	4	
(%)		(3.8)	(4.8)	(5.7)	(1.0)	(11.4)	(12.4)	(3.8)	

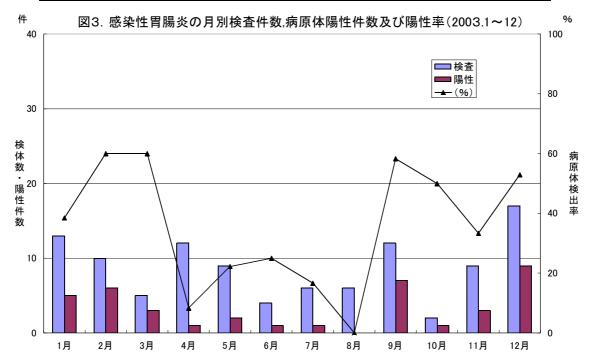


表20. 感染性腸炎からの月別腸管系病原体検出状況

(2003. 1~12)

				検 出 病 原 体						,
	検査	陽性			病原	菌	Ļ	1 イルス	ζ.	
月	件数	件数	(%)	サルモネ ラ	カンピロ バクター	病原大 腸菌	エロモナ ス	ロタ	ノロ	アデノ
1	13	5	(38.5)	0	1	0	0	0	4	0
2	10	6	(60.0)	0	0	0	0	5	1	0
3	5	3	(60.0)	0	0	0	0	3	0	0
4	12	1	(8.3)	0	0	0	0	1	0	0
5	9	2	(22.2)	0	0	1	0	0	0	1
6	4	1	(25.0)	1	0	0	0	0	0	0
7	6	1	(16.7)	0	0	0	0	1	0	1
8	6	0	(0.0)	0	0	0	0	0	0	0
9	12	7	(58.3)	1	2	1	1	1	0	1
10	2	1	(50.0)	0	1	0	0	1	0	1
11	9	3	(33.3)	1	1	1	0	0	1	0
12	17	9	(52.9)	1	0	3	0	0	7	0
計	105	39	(37.1)	4	5	6	1	12	13	4

表21. 検出サルモネラ属菌及び腸管病原性大腸菌の内訳

 $(2003.1 \sim 12)$

サルモネラ属	菌	Я	易管病原性大腸菌	·
血清型 Enteritidis	3株	O157 O128	(腸管出血性) (病原血清型)	1株 4株
血清型 Rissen	1株	O128	(病原血清型)	1株

検出された病原菌は 4 種で、総分離株数は 16 株であった。そのうちサルモネラ属菌は 4 株で、表 21 に示したように血清型は Enteritidis (3 株) と Rissen (1 株) であった。腸管病原性大腸菌は 6 株 検出され、表 22 に示したように腸管出血性大腸菌が 1 株 (O157,VT1+VT2) と病原血清型大腸菌が 5 株であった。検出されたウイルスは 3 種で、29 件からであった。そのうち 13 件はノロウイルスで、1、2 月及び 11、12 月の冬季に検出された。ロタウイルスは 12 件で、こちらは 2 月から 4 月に多く検出された。

(2) インフルエンザ

2002/2003 シーズンに実施した、インフルエンザ様疾患と診断された患者の咽頭ぬぐい液からの MDCK 細胞を用いた組織培養法による分離試験、及び RT-PCR 法によるウイルス検出状況を表 22 及び 23 に示した。今シーズンは、前半はAH3型(A香港型)、後半はB型が主の混合流行で、AH1型(Aソ連型)の検出はなかった。期間中の検査件数は 387 例で、そのうち、インフルエンザウイルス陽性件数は 160 例 (41.3 %) であった。陽性例のうちAH3型は 115 例 (29.7 %)、45 例 (11.6 %) はB型であった。週別の検出状況を図 4 に示した。前シーズンに比べ立ち上がりが早く、2002年 12 月2日の 49 週から始まって 2003年 4 週をピークに 13 週までの長期にわたった。AH3型は 49 週 (12 月2日)に初めて検出され、第4週がピークで全検出例の7割を占めた。B型は同じく 49 週に1件検出され、後半AH3型と入れ替わるように増え始め 6 週をピークに 13 週まで検出された。流行シーズンにおける年齢別にみたインフルエンザウイルスの型別検出状況を表 24 に示した。10 歳以下においては、AH3型 とB型ともに 20%前後でほぼ同等の検出率であったが、11 歳以上をみるとAH3型が 23%から 46%と高率で優位に検出されたのに対し、B型は 3.1%から 11.5%と低率であった。また今シーズンは 21 歳以上の年齢層からの検出率が例年に比べ高い傾向であった。

表22. 咽頭ぬぐい液からのウイルス検出状況概要

 $(2002.12 \sim 2003.3)$

検査件数	陽性数	インフルエンザ(型別)			アデノ	
快且下数	(%)	AH1	АН3	В	7 7 7	
387	165 (42.6%)	0	115 (29.7%)	45 (11.6%)	5 (1.3%)	

表23. 週別インフルエンザウイルス検出状況

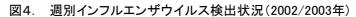
(2002.12~2003.3)

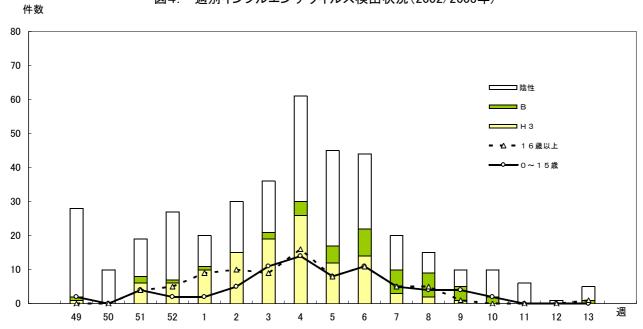
\F			77 Let.	11 11 12 10 1		型別検出数			
週	検体搬入月日	検査件数 陽性数 (数 (%)	AH1	АН3	В		
14年第 49 週	12/2	28	2	(6.2)	0	1	1		
50	12/9	10	0		0	0	0		
51	12/16	19	8	(42.1)	0	6	2		
52	12/24	27	7	(25.9)	0	6	1		
15年第 1 週	1/6	20	11	(55.0)	0	10	1		
2	1/14	30	15	(50.0)	0	15	0		
3	1/20	36	21	(58.3)	0	19	2		
4	1/27	61	30	(49.1)	0	26	4		
5	2/3	45	17	(37.8)	0	12	5		
6	2/10	44	22	(50.0)	0	14	8		
7	2/17	20	10	(50.0)	0	3	7		
8	2/24	15	9	(60.0)	0	2	7		
9	3/3	10	5	(50.0)	0	1	4		
10	3/10	10	2	(20.0)	0	0	2		
11	3/17	6	0		0	0	0		
12	3/24	1	0		0	0	0		
13	3/31	5	1	(33.3)	0	0	1		
	計		160	(41.3)	0	115(29.7)	45(11.6)		

表24. 年齢別インフルエンザウイルスの型別検出状況

 $(2002.12 \sim 20003.3)$

年齢区分	検査件数	型別検出数(%)			
中断区力	快且什奴	АН3	В		
≦ 5	50	12(24.0)	9 (18.0)		
6-10	71	13(18.3)	13 (18.3)		
11-15	52	16(30.8)	6 (11.5)		
16-20	52	12(23.1)	6 (11.5)		
21-30	64	25(39.0)	2 (3.1)		
31-40	44	16(36.4)	3 (6.8)		
41-50	18	7(38.9)	1 (5.5)		
51-60	13	6(46.1)	1 (7.7)		
≧61	13	5(38.5)	0		
不明	10	3(30.0)	4 (40.0)		
合 計	387	115(29.7)	45 (11.6)		





第 3 章

資 料

2 東京都医師会感染症予防検討委員会委員名簿

平成15年12月31日現在:順不同

	氏	名	, I	役 職
◎ 南	谷	幹	夫	杏林大学客員教授
〇影	Щ	公		港区医師会
長	Щ	直	弘	国立療養所東京病院內科医長
尾	形	英	雄	(財)結核予防会複十字病院医療部長
古	Щ		泉	足立区衛生部次長兼足立保健所長
東	海村	木 文	夫	東京都多摩川保健所長
根	岸	昌	功	東京都立駒込病院感染症科部長
古	田	賢	<u> </u>	東京都健康局食品医薬品安全部副参事(危機管理担当)
関	根	大	正	東京都健康安全研究センター微生物部参事研究員
Щ	下	和	予	国立感染症研究所感染症情報センター主任研究官
前	田	秀	雄	東京都健康局医療サービス部感染症対策課長
小	島	弘	敬	元日赤医療センター泌尿器科部長
松	田	静	治	江東区医師会
井	手	邦	彦	世田谷区医師会
水	野	幸	治	府中市医師会
福	田	敏	雅	東京都眼科医会
JI	口		毅	昭和大学公衆衛生学教授
平	Щ	宗	宏	(社福)恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所長

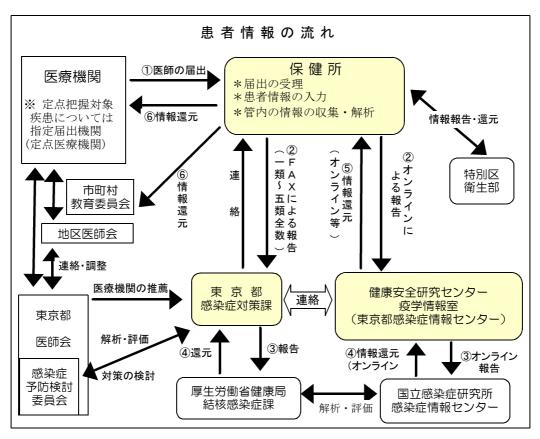
湯 藤 進	東京都医師会理事 (公衆衛生担当)
-------	-------------------

◎は委員長

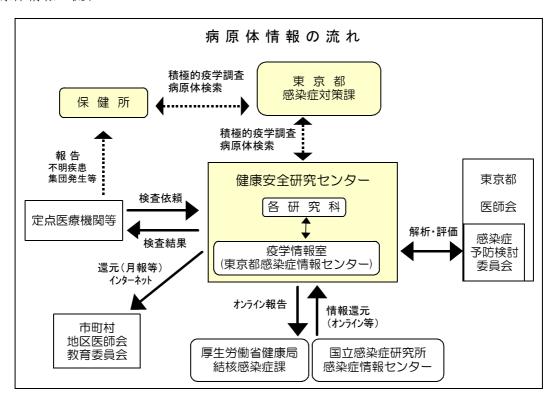
○は副委員長

3 感染症発生動向調査システムの概要

1 患者情報の流れ



2 病原体情報の流れ



4 東京都感染症発生動向調査事業実施要綱

11衛福結第680号

平成12年3月30日

最終改正 15健サ感第568号

平成16年2月27日

第1 趣旨及び目的

感染症発生動向調査事業については、昭和56年7月から18疾病を対象に開始され、昭和62年1月からは対象疾病を27に拡大するとともにコンピュータを用いたオンラインシステムを導入、以後、順次対象疾病の拡大を図りながら運用されてきたところである。

平成11年4月から施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」 (以下「感染症法」という。)により、本事業が、事前対応型行政を重視した感染症対策の一つとして位置づけられることになった。

これを受け、本事業は、感染症の発生情報を正確に把握・分析し、その結果を国民や医療関係者へ的確に提供・公開することによって、必要な措置を講じ疾病のまん延を防止することを目的として実施するものとする。

第2 根拠法令等

本事業の実施に当たっては、感染症法及び国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱に基づくものとする。

第3 対象感染症

この事業の対象とする感染症は、別表1のとおりとする。

第4 実施体制

1 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、東京都及び特別区における患者情報及び病原体情報を収集・ 分析し、東京都及び特別区の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やか に医師会等の関係機関に提供・公開するために、東京都及び各特別区内に1か所、地方衛生 研究所等の中に設置されている。

基幹地方感染症情報センターである東京都健康安全研究センター(以下「健康安全研究センター」という。)は、東京都全域の患者情報及び病原体情報を収集・分析し、その結果を各地方感染症情報センターに送付する。

2 指定届出機関(定点)

東京都は、定点把握対象の五類感染症についての、患者情報及び病原体情報を収集するため、患者定点及び病原体定点をあらかじめ選定する。

第5 事業の実施

- 1 一類感染症、二類感染症、三類感染症及び四類感染症
 - (1) 対象とする感染症患者の状態
 - 一類感染症並びに二類感染症のうちコレラ、細菌性赤痢、腸チフス及びパラチフスについては、患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者とする。
 - 二類感染症のうち急性灰白髄炎及びジフテリア並びに三類感染症及び四類感染症については、患者及び無症状病原体保有者とする。
 - (2) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

上記(1)に該当する患者等を診断した医師は、別記様式1又は別記様式3を用いて、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。

また、保健所から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼 を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、 保健所の協力を得て別記様式2の検査票を添付して健康安全研究センターに送付する。

イ 保健所

(ア) 上記アの届出を受けた保健所は、別記様式4に該当する項目について、直ちに地 方感染症情報センターへコンピュータ・オンラインシステムにより伝送するものと する。

また、保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査 のための検体又は病原体情報の健康安全研究センターへの提供について、別記様式 2の検査票を添付して依頼するものとする。

(イ) 保健所は、地方感染症情報センターから呼び出した患者情報及び病原体情報について、週報(月単位の場合は月報)として、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に配布する。

なお、保健所においては、一類感染症、二類感染症、三類感染症及び四類感染症 の届出があった場合には、地域の特性に応じた適切な方法を用いて、届出があった 事実(個人情報に関する事項を除く。)を前記の関係機関に連絡する。

ウ 健康安全研究センター

- (ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの情報を取りまとめ、中央感染症情報センター(厚生労働省健康局結核感染症課)へコンピュータ・オンラインにより伝送する。
- (イ) 健康安全研究センターは、別記様式2の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式2により保健所、健康局医療サービス部感染症対策課に送付する。
- (ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについて は、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。
- (エ) 健康安全研究センターは、患者が一類感染症と診断されている場合(疑いを含む。) 又は東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、厚生労働 省健康局結核感染症課からの依頼に基づき、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべて の患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報(月単位の 場合は月報)等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の 関係機関に提供・公開する。

2 全数把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症患者の状態

各々の全数把握対象の五類感染症について、「感染症新法に基づく医師から都道府県 知事等への届出のための基準について」(平成11年3月30日付健医感発第46号厚生 省保健医療局結核感染症課長通知。以下「届出基準」という。)を参考とし、当該疾病の 患者と診断される場合とする。

(2) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

上記(1)に該当する患者等を診断した医師は、別記様式5を用いて、7日以内に 最寄りの保健所に届出を行う。

また、保健所から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼 を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、 保健所の協力を得て別記様式2の検査票を添付して健康安全研究センターに送付する。 イ 保健所

(ア) 上記アの届出を受けた保健所は、別記様式6に該当する項目について、医師が当該患者を診断してから7日以内の可能な限り早い段階で地方感染症情報センターへコンピュータ・オンラインシステムにより伝送するものとする。

また、保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査の ための検体又は病原体情報の健康安全研究センターへの提供について、別記様式2 の検査票を添付して依頼するものとする。

(イ) 保健所は、地方感染症情報センターから呼び出した患者情報及び病原体情報について週報(月単位の場合は月報)として、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に配布する。

ウ 健康安全研究センター

- (ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの情報を取りまとめ、中央感染症情報センター(厚生労働省健康局結核感染症課)へコンピュータ・オンラインにより伝送する。
- (イ) 健康安全研究センターは、別記様式2の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式2により保健所、健康局医療サービス部感染症対策課に送付する。
- (ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについて は、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。
- (エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、厚生労働省健康局結核感染症課からの依頼に基づき、検体を国立感

染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべて の患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報(月単位の 場合は月報)等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の 関係機関に提供・公開する。

3 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症患者の状態

各々の定点把握対象の五類感染症について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と 診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、東京都は次の点に 留意し、関係医師会の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を 選定する。

(ア) 人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

(イ) 小児科定点

対象感染症のうち、別表1の59から73までに掲げるものについては、小児科 を標ぼうする医療機関(主として小児科医療を提供しているもの)を小児科定点と して指定する。

(ウ) インフルエンザ定点

対象感染症のうち、別表1の74に掲げるインフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く。以下同じ。)については、前記(イ)で選定した小児科定点に加え、内科を標ぼうする医療機関(主として内科医療を提供しているもの)を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。

(エ) 眼科定点

対象感染症のうち、別表1の75及び76に掲げるものについては、眼科を標ぼ うする医療機関(主として眼科医療を提供しているもの)を眼科定点として指定す る。

(オ) 性感染症定点

対象感染症のうち、別表1の77から82までに掲げるものについては、産婦人科又は産科若しくは婦人科(産婦人科系)、性病科又は泌尿器科若しくは皮膚科若しくは皮膚泌尿器科(泌尿器科・皮膚科系)を標ぼうする医療機関(主として各々の標ぼう科の医療を提供しているもの)を性感染症定点として指定する。

(カ) 基幹定点

対象感染症のうち、別表1の83から90までに掲げるものについては、小児 科医療と内科医療を提供している病院を各2次医療圏毎に1か所以上、基幹定点と して指定する。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、東京都は次の点に留意し、病原体定点を 選定する。

- (ア) 原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。
- (イ) アの(イ)により選定された患者定点の概ね10%を小児科病原体定点とする。
- (ウ) アの(イ)及び(ウ)により選定された患者定点の概ね 10 %をインフルエンザ病原体定点とする。
- (エ) アの(エ)により選定された患者定点の中から眼科病原体定点を選定する。
- (オ) アの(オ)により選定された患者定点の中から性感染症病原体定点を選定する。
- (カ) アの(カ)により選定された患者定点の中から基幹病原体定点を選定する。

(3) 調査単位等

調査期間の単位等は、別表2のとおりとする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

- (ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査 単位の期間の診療時において、届出基準を参考とし、患者発生状況の把握を行うも のとする。
- (イ) (2)のアの(イ)により選定された小児科定点においては別記様式7により、同(イ) 及び(ウ)により選定されたインフルエンザ定点においては別記様式8により、同(エ) により選定された眼科定点においては別記様式9により、同(オ)により選定された性感染症定点においては別記様式10により、同(カ)により選定された基幹定点においては別記様式11により、それぞれの調査単位の患者発生状況を記載する。

イ 病原体定点

- (ア) 病原体定点として選定された医療機関は、別に定める病原体検査指針により、 微生物検査のために検体を採取する。
- (イ) 病原体定点で採取された検体は、別記様式2の検査票を添付し、速やかに健康安全研究センターへ送付する。

ウ保健所

(ア) 保健所は、患者定点から得られた患者情報(別記様式7から11まで)の情報項目を調査単位が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、地方感染症情報センターへコンピュータ・オンラインにより伝送する。

また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、健康局 医療サービス部感染症対策課及び地方感染症情報センターに報告する。

(イ) 保健所は、地方感染症情報センターから呼び出した患者情報及び病原体情報について、週報(月単位の場合は月報)として、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に配布する。

エ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの情報を取りまとめ、中央感染症情報センター(厚生労働省健康局結核感染症課)へコンピュータ・オンラインにより伝送する。

- (イ) 健康安全研究センターは、別記様式2の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式2により保健所、健康局医療サービス部感染症対策課に送付する。
- (ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについて は、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。
- (エ) 健康安全研究センターは、患者が一類感染症と診断されている場合(疑いを含む。) 又は東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、厚生労働省 健康局結核感染症課からの依頼に基づき、検体を国立感染症研究所に送付する。
- (オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべて の患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報(月単位の場 合は月報)等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係 機関に提供・公開する。

4 その他

- (1) 上記の実施方法以外の部分について、必要と認められる場合には、東京都の実情に応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査体制を構築していくこととする。
- (2) 本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて健康局長が定めることとする。

5 特別区との関係

東京都は、本事業を実施するため特別区と協議し、連携を図るものとする。

附則

この実施要綱は、平成12年4月1日から施行する。

附則

この実施要綱は、平成13年4月1日から施行する。

附則

この実施要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附則

この実施要綱は、平成15年4月1日から施行する。

附則

この実施要綱は、平成15年11月5日から適用する。

感染症法に基づく感染症の分類について

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症

			届	出 対 象	者	届出方法		
		疾 患 名	患者	疑似症 患 者	無症状 病原体 保有者	届 出種 別	時 期	
	1	エボラ出血熱						
_	2	クリミア・コンゴ出血熱						
	3	重症急性呼吸器症候群 (病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る。)						
	4	痘そう	0	0	0	全数	直ちに	
	5	ペスト						
類	6	マールブルグ病						
	7	ラッサ熱						
	8	急性灰白髄炎	0		0			
1	9	コレラ	0	0	0			
	10	細菌性赤痢	0	0	0	全数	直ちに	
	11	ジフテリア	0		0	土奴	回りに	
類	12	腸チフス	0	0	0			
	13	パラチフス	0	0	0			
三類	14	腸管出血性大腸菌感染症	0		0	全数	直ちに	

			届	出対象	: 者	届出	方法
		疾 患 名	患者	疑似症 患 者	無症状 病原体 保有者	届 出種 別	時 期
	15	E型肝炎	0	_	0		
	16	ウエストナイル熱 (ウエウストナイル脳炎を含む。)	0	_	0		
	17	A型肝炎	0	_	0		
	18	エキノコックス症	0	_	0		
	19	黄熱	0	-	0		
	20	オウム病	0	-	0		
	21	回帰熱	0	_	0		
	22	Q熱	0	_	0		
	23	狂犬病	0	_	0		
	24	高病原性鳥インフルエンザ	0	_	0		直ちに
四	25	コクシジオイデス症	0	_	0	全数	
	26	サル痘	0	_	0		
	27	腎症候性出血熱	0	_	0		
	28	炭疽	0	_	0		
	29	つつが虫病	0		0		
	30	デング熱	0		0		
	31	ニパウイルス感染症	0	_	0		
	32	日本紅斑熱	0	_	0		
類	33	日本脳炎	0	_	0		
炽	34	ハンタウイルス肺症候群	0	_	0		
	35	Bウイルス病	0	_	\circ		
	36	ブルセラ症	0	_	\circ		
	37	発しんチフス	0	_	0		
	38	ボツリヌス症	0	_	0		
	39	マラリア	0	_	\circ		
	40	野兎病	0	_	0		
	41	ライム病	0	_	0		
	42	リッサウイルス感染症	0	_	0		
	43	レジオネラ症	0	_	0		
	44	レプトスピラ症	0		0		

2 全数把握対象の五類感染症

		届	出 対 象	者	届出	方 法
	疾 患 名	患 者	疑似症 患 者	無症状 病原体 保有者	届 出 種 別	時期
45	アメーバ赤痢	0		_		
46	ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	0	ı	ı		
47	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く。)	0				
48	クリプトスポリジウム症	0	ı	ı		
49	クロイツフェルト・ヤコブ病	0				
50	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0				
51	後天性免疫不全症候群	0	1	0	全数	7日以内
52	ジアルジア症	0		1		
53	髄膜炎菌性髄膜炎	0	_	_		
54	先天性風しん症候群	0	_	_		
55	梅毒	0		0		
56	破傷風	0	_	_		
57	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	_	_		
58	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0				

3 定点把握対象の五類感染症

		届	出対象	:者	届出方法
	疾 患 名	患者	疑似症 患 者	無症状 病原体 保有者	届 出 種 別 時 期 (定点)
59	RSウイルス感染症	0	_	_	
60	咽頭結膜熱	\circ	_	_	
61	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	\circ	_	_	
62	感染性胃腸炎	\circ	_		
63	水痘	0	_		
64	手足口病	0	_		
65	伝染性紅斑	0	_	_	
66	突発性発しん	0	_	_	
67	百日咳	0	_	_	
68	風しん	0	_	_	
69	ヘルパンギーナ	0	_	_	
70	麻しん (成人麻しんを除く。)	0	_	_	
71	流行性耳下腺炎	0	_	_	
72	不明発しん症 (都単独)	0	_	_	
73	MCLS (川崎病) (都単独)	0	_	_	
74	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く。)	0	_	_	別表2参照
75	急性出血性結膜炎	0	_	_	
76	流行性角結膜炎	0	_	_	
77	性器クラミジア感染症	0	_	_	
78	性器ヘルペスウイルス感染症	0	_	_	
79	尖圭コンジローマ	0	_	_	
80	淋菌感染症	0	_	_	
81	トリコモナス症 (都単独)	0	_	_	
82	梅毒様疾患(都単独)	0	_	_	
83	クラミジア肺炎(オウム病を除く。)	0	_		
84	細菌性髄膜炎	0	_	_	
85	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	_	_	
86	マイコプラズマ肺炎	0	_	_	
87	成人麻しん	0	_	_	
88	無菌性髄膜炎	0	_	_	
89	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	_	_	
90	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	_	_	

指定届出機関(定点)からの届出疾患と調査単位

定点	疾 患 名	届出	方 法	
種別		定点種別	報告時期	
	RSウイルス感染症			
	咽頭結膜熱			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			
	感染性胃腸炎			
	水痘			
	手足口病			
小	伝染性紅斑			
	突発性発しん		J	
児科定点	百日咳	─ (月曜日から─ 日曜日。以	次の月曜	
点	風しん	下同じ。)		
	ヘルパンギーナ			
	麻しん(成人麻しんを除く。)			
	流行性耳下腺炎			
	不明発しん症 (都単独)			
	MCLS (川崎病) (都単独)			
	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く。)			
インフルエンサ゛ 定点	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く。)	週単位	次の月曜	
眼科定点	急性出血性結膜炎	一 週単位	次の月曜	
政件足点	流行性角結膜炎	四年位	(人) 万 唯	
	性器クラミジア感染症			
性	性器ヘルペスウイルス感染症			
感 染	尖圭コンジローマ	口光件	33 U +n n	
症	淋菌感染症	─ 月単位	翌月初日	
染症定点	トリコモナス症 (都単独)			
.,,,	梅毒様疾患(都単独)			
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)			
	細菌性髄膜炎			
++-	マイコプラズマ肺炎	— 週単位	次の月曜	
<u>基</u> 幹	成人麻しん			
基幹定点	無菌性髄膜炎			
点	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症			
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	一 月単位	翌月初日	
	薬剤耐性緑膿菌感染症	-		
<u> </u>				

別記様式一覧表

別記様式1 一類感染症、二類感染症及び三類感染症発生届出票

別記様式2 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び五類感染症検査票

(病原体)

別記様式3 四類感染症発生届

別記様式4 一類感染症、二類感染症、三類感染症及び四類感染症保健所項目(患者)

別記様式5 五類感染症発生届

(クロイツフェルト・ヤコブ病、後天性免疫不全症候群、

先天性風しん症候群を除く)

別記様式5-2 クロイツフェルト・ヤコブ病発生届

別記様式5-3 後天性免疫不全症候群発生届 (HIV感染症を含む)

別記様式5-4 先天性風しん症候群発生届

別記様式6 五類感染症(全数把握対象)保健所報告項目(患者)

別記様式7 感染症発生動向調査(小児科定点)報告票

別記様式8 感染症発生動向調査(インフルエンザ定点)報告票

別記様式9 感染症発生動向調査(眼科定点)報告票

別記様式10 感染症発生動向調査(STI定点)報告票

別記様式11 感染症発生動向調査(基幹定点)報告票

	- L P	- /H	1 0
一類感染症、二類感染症及び三類感染症発生届出票			

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に	こ対する医療に	こ関する法律:	第 1 2 条 の ៎	規定によ	り、以下	のとおり履	量け出る。				
	医 師 所属する病『	の 院・診療所等施 主所・電話番号	名 記 記 : *			報台	告年月日 (年 <u>印</u> (自署ま	月 たは記名押印	日) 1のこと)	
	上記旭設の	生別。电码留石	<u> </u>		(* 所属す	る施設がない場	合は医師の自宅	(电前) (电前) (の住所・雷部	氏番号を記載で	/ すること)	
1 患者氏名	2 性別	3	診断時の分	王龄		歳		者職業			
	男・女		生年月日		明・大・昭・平	年 月 日	1 /6x	<u> </u>			
5 患者住所			6	患者所	在 地		- 12				
7 但类老氏点	電話(= 1/A H-)				電話()	
7 保護者氏名	8 保護者達	里絡 先					<u>(7,8は患者</u> 電話(<u> が未成年の</u>)場合のみ記	; X)	
							电前(J	
9 病 名	10 診 断	方 法		1 .	11 症	状		12 発病	年月日		
9 病 名 ・エボラ出血熱 ・クリミア・コンゴ出血熱 ・重に急性呼吸器症候群											
・クリミア・コンゴ出血熱		\) (Til	,	_				- -		
・ 里 征 思 性 呼 吸 辞 征 候 群 (病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る)	• 病原検査 (検体 • 血清学的検査(検体)(方法)(方法)(型)(型	{	・有		_	<u>平成</u> 13 初診	<u>年 月</u> 年月日	日	
(MRM/13AR3JU) ソイルス(のるものに限る) ・	■ 加州子的快量 (快冲 ■ 臨床決定) (л ш) (🗵	,			⊣ ا`	13 79月記	<u> </u>		
・痘そう ・ペスト	その他()								E
・マールブルグ病			,						年 月	日	の
<u>・ラッサ熱</u>	+= + + + + + + + + + + + + + + + + + +							14 診断	(検案)年)	月日	属
・ ・ ・ 細 菌 性 赤 痢 ・ 腸 チ フ ス	• 病原検査 (検体 • 血清学的検査(検体)(方法)(方法)(型)(型)							この届出は診断後直ちに行
・ 細 囷 性 亦 猁	• Ⅲ/河字的快宜(快华 • 臨床決定) (万法) (型)				平 成	年 月	в	一談
・パラチフス	• その他 ()					<u>ー ナールス</u> 15 - 感染した	<u>キ</u> と推定される年月	<u> </u>	쌔
・ 急性 灰 白 髄 炎 ・ ジ フ テ リ ア	 病原検査 (検体) (方法	(型)					C 14 AC C 14 G 7.	, H	後
・ジフテリア	• 病原検査 (検体 • 血清学的検査(検体)(方法)(方法)(型)(型)			,	-			直
	その他(V (4 V)		_			<u> 平成</u>	<u>年 月</u> 年月日	日	5
・腸管出血性大腸菌感染症	• 病原検査 (検体 • 血清学的検査(検体)(方法)(方法)(型)(型	}	・無			16 死亡	年月日		
• 肠目山皿性人肠困恐呆症	- 血月子的快量(快冲 - その他() (л д	`)(≌	,				平成	年 月	в	1 J
17 推定される感染地域・感染原	5 円・咸沙好品	<u></u>	,	ı				T 13%	+ /		17
・最近数年間の主な居住地 1 日本国内 2 その他(3 不明	・推定	される感染地日本国内その他(9 域		・推定す	される感染	原因・感染	♀経路			ってください
1 日本国内	1	日本国内								اار	だ
2 その他() 2	その他()							15
<u>3 </u>		<u> </u>	に必要と勧け	かる 車 ा古							ίl
10 この他窓来症のよん姓の防1	<u>- X U コ i X 有 U</u>	<u> </u>	に必女と祕(<u> グ る 尹 </u>							

(2、9から11、17欄は該当する番号等を で囲み、3、4、12から16欄は年齢・年月日等を記入すること。 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。)

性

別

(男・女)

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び五類感染症検査票(病原体)

者	年	Ε	齢	(歳 ヵ月)
<u>[</u>	治医	等記	載欄]	
	治医			
	検 体	送	付 日	年 月 日 分離株(無、有、検査中)
	診	断	名	
	発	病	日	年 月 日
検	採	取	日	年 月 日
查	該当	するも) 種 類 5の-つを	ぶん便 (腸内容物、直腸ぬぐい液) ・髄液 ・尿 ・
材料	7	悪んで	で下さい]	結膜ぬくい液 結膜擦過物、眼脂) ・陰部尿道頸管擦過物 / 分泌物 細胞診、生検、剖検材料 (臓器)・血液 (全血、血清、血漿、抗凝固剤[])・その他 []
臨	臨月	末症	状・	##症状 ・胃腸炎(下痢、血便、嘔気、嘔吐、腹痛) ・ 発熱 (最高) ・ 角膜炎、結膜炎、角結膜炎 ・ 損節痛、筋肉痛 ・ 髄膜炎、意識障害、麻痺(部位)、
床	_	するもの	等 の全てを 下さい]	・口内炎、上気道炎、下気道炎、肺炎、 中枢神経系症状(脳炎、脳症、脊髄炎、 気管支炎) <u>その他</u>) ・発しん(水疱、丘しん、紅斑、バラしん)、 循環器障害(心筋炎、心膜炎、心不全)
的	(基础	礎疾悬	きを除く)	出血傾向 ・黄疸 ・肝機能障害 ・リンパ節腫脹、腫脹(部位) ・腎機能障害 (HUS、血尿、乏尿、蛋白尿、浮腫(部位) 多尿、腎不全)
事				・ショック症状 (低血圧、循環不全) ・尿路生殖器症状・その他の症状 (上記以外の症状や臨床徴候)
項				[]
	基码	礎 疾	患	
	転		帰	経過観察中、軽快、治癒、死亡(原因)
主	治医等	等か	ら地方律	主研究所への連絡事項

[保係	建所等記載欄] (主	E治医記載可)
		散発 · 地域流行 · 家族内発生 (無、有)
斜	き生の状況	集団発生 (無、有)
		有の場合、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、宿舎・寮、病院、老人ホーム、
		福祉・養護施設、旅館・ホテル、飲食店、事業所、その他[])
- 是;	近の海外渡航歴	国夕
耳又 人		期間 年月日~ 年月日
-	フクチン接種歴	ワクチン名 最近の接種年月日 年 月 日
「地ブ	5衛生研究所記載	
	己載者名	
抗化	本検出 方法	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
		<u>その他</u>)
	結果	(
	検出年月日	年 月 日
病	検 出 方 法	分離培養 (培養細胞:細胞名[])
原	陽性となった方法を	人工培地、発育鶏卵、動物、 <u>その他</u>
体	で囲んで下さい]	抗原検出等 (電顕、鏡検、蛍光、ETA、凝集反応、 <u>その他</u>)
検		遺伝子検出 (1.非増幅[ハイブリ、PAGE、 <u>その他</u>]
出		2.増幅[PCR、 <u>その他</u>])
	検出病原体	
	(群、型、亜型)	
[その	D他特記事項]	
ĺ		

- 注1)主治医記載欄については、検体送付日において記載できる範囲で記載をお願いします。
- 注2)ワクチン接種歴については、当該疾患に係るものにつき記載して下さい。
- 注3) 二類、三類感染症について医療機関(民間検査所を含む)で病原体を分離した場合は、可能な範囲で地方衛生研究所への分離株の送付をお願いします。

四類感染症発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名	報告年月日	(平成	年	月	日)
所属する病院・診療所等施設名 上記施設の住所・電話番号*		(自署ま	たは記名	3押印の 3	:논)
上記施設の住所・電話番号*	(*所属する施設がない場合は医師の自宅の	(電話 住所・電話		記載するこ	<u>)</u>
					\neg

1	患者氏名	2	性別	3 診断時	の年齢					
			男・女	生年月日	明・大・昭	・平	年	月	日	歳
4	患者職業	5	患者住所							
						電話	()
6	患者所在地									
						電話	()
7	保護者氏名	8	保護者連絡先			(7,	8 は患者	が未成年	の場合の	み記入)
						電話	()

10 診断方法	1)病原検 2)血清学的検 3)臨床決 4)その	(方法 (型 定 他(<u></u> 玄当するものst	全てに記載	`	
11 診断時の症状	1) 有 (2) 無					
12 13 14 15 16	発病 年年 病診 断(検集) たと 年 ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま		平成 平成成 昭和·平成	年年年年	月月月月月	
16 死 亡 年 月 日 平成 年 月 日						

(2、9から11、17・18欄は該当する番号等を で囲み、3、4、12から16欄は年齢・年月日を記入すること。 欄は、死亡者を検案 した場合のみ記入すること。〕

一類感染症、二類感染症、三類感染症及び四類感染症保健所項目(患者)

-類感染症、二類感染症、三類感染症及び四類感染症につき、保健所が、都道府県等の本庁及び 地方感染症情報センターへコンピュータ・オンラインにより伝送する項目は以下のとおりとする。

別記様式1及び別記様式3のうち、

- 「9 病名」
- 「10 診断方法」
- 「11 症状」
- 「12 発病年月日」
- 「13 初診年月日」
- 「14 診断(検案)年月日」
- 「15 感染したと推定される年月日」
- 「16 死亡年月日」
- 「17・18 推定される感染地域・感染原因・感染経路」

及び

「3 診断時の年齢」のうち、患者の「生年月日」

以上



五類感染症発生属 (クロイツフェルト・ヤコブ病、後天性免疫不全症候群、先天性風しん症候群を除く)

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条の規定により、以下のとおり届け出る。

,,,,		医師の氏名	報告年月日(平成 年 月 日)
	ſ	 所属する病院・診療所等施設名	(自署または記名押印のこと)
		上記施設の住所・電話番号*	(電話)
		1	(*所属する施設がない場合は医師の自宅の住所・電話番号を記載すること)
1	性別	男・女	1)病原検査(検体) 4 (方法)
2	診断時の年齢	歳	(型)
			断 / (方法)
	1 アメーバ 2 ウイルス性	ī猁 掛肝炎	方
	〔1) B型、2) C 型、3) D 型、	4) その他((該当するもの全てに記載すること)
2	3 急性脳炎((ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	
3	(1)病原体 (2)病原体不	「明 丿	5 1) 有
病		、ポリジウム症 Ω性レンサ球菌感染症	
名	6 ジアルジア 7 髄膜炎菌性	7症	時
<u></u>	8 梅毒		
惑 当	2)晚期顕症	E梅毒(ア.黒イ.期) E梅毒、3)無症侯梅毒、	状 2) 無
する	│	ار ا	
番	10 バンコマイシン耐	難びが蜿蜒 イシン耐性腸球菌感染症	7 初 診 年 月 日 平成 年 月 日 8 診断(検案)年月日 平成 年 月 日 9 感染したと推定される年月日 翢・平城 年 月 日
(該当する番号等を		フク 同任 励い 固心 未定	10 死亡年月日 平成 年 月 日
			11・12 推定される感染地域・感染原因・感染経路
で囲むこと)			
む -			・最近数年間の主な居住地1 日本国内 2 その他() 3 不明・推定される感染地域
رغي			1 日本国内 2 その他() 3 不明
			1 あり() 2 なし
			2 性行為感染 ア・異性間性的接触 イ・同性間性的接触
			3 静注薬物使用
			4 母子感染 5 輸血
			6 媒介動物等からの感染(動物の種類) 17 その他() 7
			8 不明
			1 同居者にいる 2 同じ職場や学校等にいる 3
	I		3 子の他 () 4 いない

(1、3から5、11・12欄は該当する番号等を で囲み、2、6から10欄は年齢・年月日を記入すること。 欄は、死亡者を検案した 場合のみ記入すること。)

保健所コード	西 暦	ID

クロイツフェルト・ヤコブ病発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名	報告年月日(平成	年	月	日) 印
所属する病院・診療所等施設名	(自署また	とは記名	3押印の3	こと)
上記施設の住所・電話番号*	(電話)
	(*所属する施設がない場合は医師の白字の住所・雷託率	そこを記	載するこ	<u>ート)</u>

1	性 別	男・女
2	診断時の年齢	歳
3	クロイツフェル 1) 弧発性 C J D	
病名	5) F F I) 2)家族性CJD ID 4)GSS
	(ア.確実 イ.ほ	羅実 ウ.疑ハ)
		異常プリオンたん白の
	検出) 部位	
)扁桃 (3)その他
4	方法	, (°) ° ° ° ° ° ° ° ° ° ° ° ° ° ° ° ° ° °
±^		n Blot法 (2)免疫染色法型
診	(免疫染色法による (1)アミロイト) 型 (2)シナプス型
断		ん白遺伝子検査
		()の異常
方		129の多型 M イ .M/V ウ.V/V)
法		2 1 9 の多型
		E 1 .E/K 1 .K/K)
	(4)その他 3)臨床決定	(
	4) その他()
	(該当す	るもの全てに記載すること)

5 診断時の症状	1) 有 (な 不 眠 覚 で で で で で で で で で で で で で	年年年年年年年年年年年年年年	月月月月月月月月月日日		
	2) 無					この日
6 7 8 9 10	発病年月日初診年月日 初診年月日 診断(検案)年月日 ^{感染したと推定される年月日} 死亡年月日	平成 平成 平成 平成 平成	年年年年年	月月月月月	日日日日日	届出は診断から
						5 7

11・12 推定される感染地域・感染原因・感染経路

- ・最近数年間の主な居住地
 - 1) 日本国内
- 2) その他 (

2) その他 (

- ,
- 3) 不明 ・推定される感染地域
 - 1) 日本国内
- 3) 不明・同疾患または同様の症状の者
 - 1) 家族にいる
- 2) 同じ職場等にいる
- 3) その他() 4) いない

- ・推定される感染経路等
 - 1) ヒト乾燥硬膜
 - 2) ヒト下垂体由来成長ホルモン製剤

日以

内に

行

つ

て

だ

さ

) || <

- 3) 角膜手術
- 4) 手術等観血的処置

(種類

- 5) 輸血等6) その他(
- 7) 不明

 $(1 \times 3 \text{ nb} \cdot 5 \times 11 \cdot 12$ 欄は該当する番号等を で囲み、 $2 \times 6 \text{ nb} \cdot 10$ 欄は年齢・年月日を記入すること。 欄は、死亡者を検案した 場合のみ記入すること。)

)

)

後天性免疫不全症候群発生届

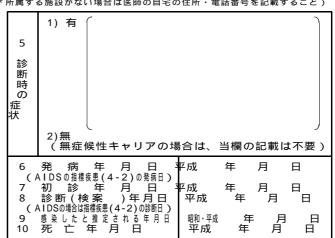
(HIV感染症を含む)

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名報告年月日(平成年月日)所属する病院・診療所等施設名上記施設の住所・電話番号*(電話)(本所属する施設がない場合は医師の自宅の住所・電話番号を記載すること)

1	性	別	男	•	女
2	診断時	の年齢			歳
3 病 名	2) A	症候性キー IDS の他(ャリア)	
4 - 1 診断方法	1)E 4)e 1)V 3); 1)V 3); 1)V 3);	H LL C R L R L L R L L R L R L L R L R L	P A 法 ot 法 2) i検査 2	3) I I F A) !)ウイ 免疫学	て法 法 ルス分離



カンジダ症(食道、気管、気管支、肺) クリプトコッカス症(肺以外) コクシジオイデス症(全身に播種したもの 1) ハー 2) クリプトコッパスに 3) コクシジオイデス症(全身に活動したもの) もの) 4) ヒストプラズマ症(全身に播種したもの 肺、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こった 4 - 2 肺、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こったも Α の)
5) カリニ肺炎
6) トキソプラズマ脳症(生後 1 か月以後)
7) クリプトスポリジウム症(1 か月以上続く下痢を伴ったもの)
8) イソスポラ症(1 か月以上続く下痢を伴ったもの)
9) 化膿性細菌感染症(1 3 歳未満で、ヘモフィルス、連鎖球菌等の化膿性細菌により 敗血症 肺炎 髄膜炎 中耳・皮膚粘膜以外の部位や深在臓器の膿瘍のいずれかが、2 年以内に、二つ以上多発あるいは繰り返して起こったもの)
10) サルモネラ菌血症(再発を繰り返すもので、チフス菌によるものを除く)
11) 活動性結核(肺結核又は肺外結核)
12) 非定型抗酸菌症(全身に播種したもの 肺、皮膚、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの) D S と 診 断 U た指標 疾患 たもの) 13) サイトメガロウイルス感染症(生後1か月以後で、肝、脾、リンパ節以外)
14) 単純ヘルペスウイルス感染症(1か月以上持続する粘膜、皮膚の潰瘍を呈するものか月以後で気管支炎、肺炎、食道炎を併発するもの)
15) 進行性多巣性白質脳症
16) カボジ肉腫 該当する 生後 1 原発性脳リンパ腫 非ホジキンリンパ腫(LSG分類により 侵潤性子宮頸癌 全てに 17) 18) 大細胞型、免疫芽球型 Burkitt型) 19) 出 **反復性肺炎** 20) インパ性間質性肺炎 / 肺リンパ過形成:LIP / PLH complex (13歳未満) HIV脳症(痴呆又は亜急性脳炎) HIV消耗性症候群(全身衰弱又はスリム病) 221 23)

11・12 推定される感染	染地域・感染原因・:	感染経路		日	
・最近数年間の主な居住 1)日本国内 3)不明 ・推定される感染地域	地 2) その他 ()	・推定される感染経路等 1)性行為感染 ア・異性間性的接触 イ・同性間性 行 接 2)静注薬物使用	触	内
1) 日本国内 3) 不明 ・国籍	2) その他 ()	3) 母子感染 4) 輸血 5) その他 ()	
1) 日本 3) 不明	2) その他 ()	6) 不明		

(1 、 3 から 5 、11・12欄は該当する番号等を で囲み、 2 、 6 から10欄は年齢・年月日を記入すること。 欄は、死亡者を検案した 場合のみ記入すること)

保健所コード	西 暦	ΙD							

先天性風しん症候群発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

	대 의미크제미의제 / 루마기대크		~ / //~						
感	染症の予防及び感染症の患者に対する医	療に関	関する法律第12条	条の規定によ	り、以下の	のとおり	り届けど	出る。	
				報告年月日	(平成	年	月	日)	
	医師の氏名				/ 白男士	: +_ +== <	z +m < n \(\in \)	<u> 印</u>	
	所属する病院・診療所等施設名				(日者ま	たは記名	られたいので		
	上記施設の住所・電話番号*				(電詞)	
		(*所	属する施設がない場合	は医師の自宅の	住所・電話	番号を記	載するこ	と)	
1	性別男・女		1) 有〔					`,	
2	診断時の年齢歳	5	1) 1						
3	4-7-4-Q-1-7-6-1-2-1-2-1-2-1-2-1-2-1-2-1-2-1-2-1-2-1	診							
病	先天性風しん症候群	断時							
名		の							
	1) 病 原 検 査	症状							
	(検体)	170							
4	(方法) (方法) (方法) (方法) (方法) (方法) (方法) (方法)		2) 無						_
診	2) 血清学的検査 (検体)			1					この
断	(方法)	6	発病年	月日	平成	年	月	日	届
方法	3) 臨床決定 4) その他	7 8	初 診 年 診 断 (検 案	月 日)年月日	平成 平成	年 年	月 月	日日	出は
,,)	9	感染したと推定さ	おる年月日	昭和・平成	年	月	日	診
	(該当するもの全てに記載すること)	10	死 亡 年 .	月日	平成	年	月	日	断か
									5
11 •	12 推定される感染地域・感染原因・	感染約	圣路 						7 日
• 	最近数年間の主な居住地		・母親の妊娠・	中の風しん罹	患歴				以
	1) 日本国内 2) その他 (3) 不明)	1) あり・母親の風し	2) なし					内
・拊	またされる感染地域		「母親の風の	703ル体1画と点	八 上叶寸共7			\ \ \	に行
	1) 日本国内 2) その他 ()							っ
	3) 不明								てく
									、ださ
			・母親の風しん						さい
			1) あり	2) なし	1				VΙ

(1 、3 から 5 、11 ・12欄は該当する番号等を で囲み、 2 、6 から10欄は年齢・年月日を記入すること。 欄は、死亡者を検案した 場合のみ記入すること。)

五類感染症(全数把握対象)保健所報告項目(患者)

五類感染症のうち全数把握対象のものにつき、保健所が、都道府県等の本庁及び地方感染症情報 センターへコンピュータ・オンラインにより伝送する項目は以下のとおりとする。

別記様式5のうち、すべての項目

以上

感染症発生動向調査(小児科定点)

調査期間 平成 年		∃ ~	月 日	(週報)			西 暦	年	第 道	<u>周</u>		保健所二	コード] [定点コー	- F
疾患名	年齢	~ 6ヶ月	~ 12ヶ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20歳以上	合 計
RSウイルス感染症	男															
	女															
咽 頭 結 膜 熱	男															
	女															
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男															
	女															
感 染 性 胃 腸 炎	男															
	女															
水痘	男															
	女															
手 足 口 病	男															
	女															
伝 染 性 紅 斑	男															
	女															
突 発 性 発 し ん	男															
	女															
百 日 咳																
	女															
風 し ん																
	女															
ヘルパンギーナ	男															
	女															
麻 し ん																
(成人麻しんを除く)																
流行性耳下腺炎	男															
	女															
M C L S (川 崎 病)	男															
	女															
不 明 発 疹 症	男															
	女															_

感染症発生動向調査(インフルエンザ定点)

調査期間 平原	述	年月	B	~ 月		(週幸	侵)				西暦	年	第	週		保健列	ή⊐−ド 			定点=	-F	
疾患名	年齢		~12ヶ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70 ~ 79	80歳以上	合 計
インフルエンザ	男																					
(高病原性鳥インフルエンザを除く)	女																					

感染症発生動向調査(眼科定点)

調査期間 平成 年	月	日 ~	, 月	日	(週報)						西暦	年	第	週		保健所	iコード 			定点コ-	_ ド ∐
疾患名	年齢	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50 ~ 59	60~69	70歳以上	合 計
急性出血性結膜炎	男																				
	女																				
流行性角結膜炎	男																				
	女																				

感染症発生動向調査(STI定点)

調査期間 平成 年 月	日	~	月日	(月報	₹)			西暦	年	第	月		保健所	コード		[定点コー	-F
疾患名	年齢	O歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55 ~ 59	60 ~ 64	65 ~ 69	70歳 以上	合 計
性 器 クラミジア 感 染 症	男																	
	女																	
性 器 ヘ ル ペ ス ウ イ ル ス 感 染 症	男																	
	女																	
尖 圭 コンジローマ	男																	
	女																	
淋 菌 感 染 症	男																	
	女																	
ト リ コ モ ナ ス 症	男																	
	女																	
梅毒様疾患	男																	
	女																	

(注) トリコモナス症、梅毒様疾患は東京都独自の報告対象疾病です

感染症発生動向調査(基幹定点)

調査期間	平成 年	月		· ~	· 月	日 (週報)		平成	年	第 週	は 保健所コード 定 に は は は は は は は は は は は は は は は は は は	?点コード
ID番号	性	年	- 月歯	<u>ь</u> П		病名	採取年月日	検査方法		≦結果 体名称)		
					1	2 3 4 5		123456			病名	検査方法
					1	2 3 4 5		123456			1:細菌性髄膜炎(真菌性を含む)	1:分離•培養
					1	2 3 4 5		123456			2:無菌性髄膜炎	2:抗原検出
					1	2 3 4 5		123456			3:マイコプラズマ肺炎	3∶核酸•PCR
					1	2 3 4 5		123456			4:クラミジア肺炎(オウム病を除く)	4:塗末検鏡
					1	2 3 4 5		123456			5:成人麻しん	5:電顕
					1	2 3 4 5		123456				6:血清
					1	2 3 4 5		123456				
					1	2 3 4 5		123456				
					1	2 3 4 5		123456				
調査期間 🤄	平成 年	月		· ~	· 月	日 (月報)		平成	年	第月	保健所コード定	点コード
ID番号	性	年•月齢		 病名		! 採取年月日	操取部位 採取部位		病名			
					1	2 3					1:メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染	症
					1	2 3					2:ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	
					1	2 3					3:薬剤耐性緑膿菌感染症	
					1	2 3						
					1	2 3						

別添1 「検査結果コード表」

10000 VirusNT	10304 Parainf.4	11016 Echo-16
10100 Adeno NT	10400 RS	11017 Echo-17
10101 Adeno-1	10500 Rhino-ALL	11018 Echo-18
10102 Adeno-2	10800 Coxa. ANT	11019 Echo-19
10103 Adeno-3	10801 Coxa. Al	11020 Echo-20
10104 Adeno-4	10802 Coxa. A2	11021 Echo-21
10105 Adeno-5	10803 Coxa. A3	11022 Echo-22
10106 Adeno-6	10804 Coxa. A4	11023 Echo-23
10107 Adeno-7	10805 Coxa. A5	11024 Echo-24
10108 Adeno-8	10806 Coxa. A6	11025 Echo-25
10109 Adeno-9	10807 Coxa. A7	11026 Echo-26
10110 Adeno-10	10808 Coxa. A8	11027 Echo-27
10111 Adeno-11	10809 Coxa. A9	11029 Echo-29
10112 Adeno-12	10810 Coxa. A10	11030 Echo-30
10113 Adeno-13	10811 Coxa. A11	11031 Echo-31
10114 Adeno-14	10812 Coxa. A12	11032 Echo-32
10115 Adeno-15	10813 Coxa. A13	11033 Echo=33
10116 Adeno-16	10814 Coxa. A14	11100 Polio NT
10117 Adeno-17	10815 Coxa. A15	11101 Polio-1
10118 Adeno-18	10816 Coxa. A16	11102 Polio-2
10119 Adeno-19	10817 Coxa. A17	11103 Polio-3
10120 Adeno=20	10818 Coxa. A18	11200 Mumps
10121 Adeno-21	10819 Coxa. AI9	11300 HV group
10122 Adeno=22	10820 Coxa. A20	11301 HSV NT
10123 Adeno-23	10821 Coxa. A21	11302 EBV
10124 Adeno-24	10822 Coxa. A22	11303 VZV
10125 Adeno-25	10824 Coxa. A24	11306 HSV-1
10126 Adeno-26	10900 Coxa. B NT	11307 HSV-2
10127 Adeno-27	10901 Coxa. B1	11502 Picorna NT
10128 Adeno-28	10902 Coxa. B2	11521 Measles
10129 Adeno-29	10903 Coxa. B3	11522 Rubella
10130 Adeno-30	10904 Coxa. B4	11552 Rabies
10131 Adeno-31	10905 Coxa. B5	11555 Papova
10132 Adeno-32	10906 Coxa. B6	11556 CMV
10133 Adeno-33	11000 Echo-2	11562 Reo NT
10134 Adeno-34	11001 Echo-1	11564 Rota
10135 Adeno-35	11002 ECho-2	11565 Calici
10136 Adeno-36	11003 Echo-3	11566 Norwalk
10137 Adeno-37	11004 Echo-4	11567 SRV
10138 Adeno-38	11005 Echo-5	11568 Entero68
10139 Adeno-39	11006 Echo-6	11569 Entero69
10140 Adeno-40	11007 Echo-7	11570 Entero70
10141 Adeno-41	11009 Echo-9	11571 Entero71
10142 Adeno-42	11011 Echo-11	11702 JE
10300 Parainf. NT	11012 Echo-12	11703 Dengue. ALL
10301 Parainf. 1	11013 Echo-13	11709 Other Arbo
10302 Parainf. 2	11014 Echo-14	11750 Hantavirus ALL
10303 Parainf.3	11015 Echo-15	11801 ATL Virus

11802 HIV	91014	Anaerobi.baci.G-neg	91682	Streptococcus- α Uvi-
12000 Inf.A(H1)	91015	Anaerobi.cocc.G-pos		hemo
12010 Inf A NT	91016	Anaerobi.cocc.G-neg	91683	Streptococcus-D
12011 Inf.A HINI	91100	Pseudomonas sp.	91684	Streptococcus-B
12020 Inf.A(H2)	91101	P. Aeruginosa	91685	Streptococcus-C
12022 Inf.AH2N2	91110	Vibrio sp.	91686	Streptococcus-G
12030 Inf.A(H3)	91120	Campylobacter sp.	91688	S. pneumoniae
12032 Inf.AH3N2	91130	Spirillum sp.	91690	Lactobacillus sp.
12203 Inf.B	91140	Plesimonas sp.	91700	Corynebacterium sp.
12204 Inf.C	91300	Chromobacterium sp.	91710	Listeria sp.
20100 Chlam.trc.NT	91310	Alcaligenes sp.	91711	L. monocytogenes
20101 Chlam.trc.A	91320	Aeromonas sp.	91720	Propionibacter.sp.
20102 Chlam. trc. B	91330	Flavobacterium sp.	91730	Bacillus sp.
20103 Chlam.trc.BA	91340	Escherichia sp.	91740	Clostrium sp.
20104 Chlam.trc.C	91350	Shigella sp.	91750	Mycobacterium sp.
20105 Chlam.trc.D		Salmonella sp.	91751	M. tuberculosis
20106 Chlam. trc. D'		Erwinia sp.	91770	Nocardia sp.
20107 Chlam. trc. E		Citrobacter sp.		Actinomyces sp.
20108 Chlam. trc. F		Klebsiella sp.		Treponema sp.
20109 Chlam. trc. G		Enterobacter sp.		T. pallidum
20110 Chlam. trc. H		Hafnia sp.		Leptospira
20111 Chlam. trc. I		Seratia sp.		Fungi
20112 Chlam. trc. I'		Proteus sp.		Fungi imperfecti
20113 Chlam. trc. J		Providencia sp.		Cryptococcus
20114 Chlam. trc. K		Yersima sp.		Cryptococcus neofor-
20115 Chlam. trc. L1		Pasteurella sp.	0 10 02	mans
20116 Chlam. trc. L2		Bordetella sp.	94303	Candida
20117 Chlam. trc. L2'		Brucella sp.		candida albicans
20118 Chlam. trc. L3		Haemophilus sp.		Parasite
20119 Chlamydia Pneumo:		H. influenzae		Entamoeba
20600 Mycopl. Pn.		H. parainfluenzae		Entamoeba histolytica
20601 Other Mycopl.		Edwardsiella sp.		Giardia
20700 Chlam. Psi.		Moraxella sp.		Giardia lamblia
21401 C. Burneti		Bacteroides sp.		Trichomonas
21402 Other Ric.		Fusobacterium sp.		Trichomonas vaginalis
21402 Other Ric. 21403 R. Prowaze.		Micrococcus sp.		Mararia
21404 R. Tsutsug.		Staphylococcus sp		Toxoplasma
88888 詳細不明		S. aureus		Toxoplasma gondi
91000 Bacteria		S. epidermidis		
				Pneumocystis Pneumocystis carinii
91001 Bacteria		Peptococcus sp.		Helminth
91002 Bacteria		Legionella sp.		
91003 Bacillus		L. pneumophila	99999	その他病原体
91004 Bacillus		Neisseria sp.		
91005 Coccus		N. gonorrhoeae		
91006 Coccus		N. meningitidis		
91010 Anaerobic bacter:		Acinetbacter sp.		
91011 Anaerobi.bact.G-		Peptostreptococus sp.		
91012 Anaerobi.bact.G-	_	Streptococcus sp.		
91013 Anaerobi.baci.G-I	os 91681	Streptococcus- β hemo		

別添2 「採取部位リスト」

【病名が「メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症」の場合】

- 1 喀痰(肺炎)
- 2 気管洗浄液
- 3 血液
- 4 髄液
- 5 胸水
- 6 腹水
- 7 術創部 (創部感染)
- 8 留置カテーテル (血管・気管・尿路・体腔内・その他)
- 9 その他

【病名が「ペニシリン耐性肺炎球菌感染症」の場合】

- 1 喀痰 (肺炎)
- 2 気管洗浄液
- 3 血液
- 4 髄液
- 5 胸水
- 6 腹水
- 7 術創部 (創部感染)
- 8 耳漏液
- 9 その他

【病名が「薬剤耐性緑膿菌感染症」の場合】

- 1 喀痰 (肺炎)
- 2 気管洗浄液
- 3 血液
- 4 髄液
- 5 胸水
- 6 腹水
- 7 術創部 (創部感染)
- 8 留置カテーテル (血管・気管・尿路・体腔内・その他)
- 9 膿 (開放性・非開放性)・分泌液
- 10 その他

感染症発生動向調查事業報告書 平成15年(2003年)

平成16年7月

登録番号(16)5

編集・発行 東京都健康安全研究センター

〒 169-0073 東京都新宿区百人町 3 - 2 4 - 1

電 話 (03) 3363-3231

印刷 所 東京コロニー大田福祉工場

〒 143-0015 東京都大田区大森西 2 - 2 2 - 2 6

電 話 (03) 3762-7611